

配水幹線路用地	同	七六〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
借地料	同	五〇〇	一、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
家屋移轉料	建坪	五〇〇	一〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
地上物件其他賠償費				四、八〇〇
計				一、一〇一、〇〇〇

第五章 土地買收

上水道用地として買収すべき土地は別表の通りにして、浄水場敷地に就ては全部本町醫師村上和三氏の所有に屬し、之が買収に就ては直に同氏の快き承諾行はれたるも、配水幹線路敷地に就ては、水道委員並に町有志と協力して地主に對し屢々懇請する所ありしも、遂に全部の承諾を得るに至らざりしが爲め、大正十五年十月十二日事情を具し、土地收用法適用事業認定の件に付稟請、同年十二月十五日付

を以て内閣總理大臣より認定せられ、同月二十日收用細目公告の件に付申請、昭和二年五月十六日收用審査會裁決申請、同時に關係者へ通知し同月二十七日付縣訓令土第七〇四號に依り同年六月一日より一週間公告す、然るに同月八日に至り遂に地主と圓滿買収の協議纏り、間もなく買収に着手してより八ヶ月を経て完了せり。
買収したる土地左の如し

浄水場用地

地番	地目	反	別	摘	要
八三〇ノ一	原野		二〇〇		
八三〇ノ二	原野		一一〇		
八三一ノ二	田		二一六		
八三二	畑		一四		
八三三	宅地		八二九		
八三四ノ一	山林		二三		

但シ當町ノ都合ニヨリ其總重量ノ一割以内ノ増減又ハ納入期日及明細書ヲ多少變更スルコトアルベシ此ノ場合ニハ本町ハ供給者へ二十日以前ニ其旨ヲ通知スルモノトス供給者ハ之ニ對シ何等異議ノ申立ヲナスヲ得ザルモノトス

第二條 鐵管鑄造用鑄鐵ハ其質良好強靱粒狀均等ニシテ容易ニ穿孔シ且ツ切斷シ得ルモノタルベシ場合ニ依リテハ鐵質ノ良否ヲ檢スル爲メ管體ニ穿孔スルコトアルベシ此ノ場合ニ於テ其孔跡ハ堅固ニ銅栓ヲ捻込ミ之ヲ閉塞スベシ尙又必要ヲ認ムルトキハ鐵質ノ應張力及應撓度ノ試驗ヲナスベシ此ノ場合ノ試驗ハ上水協議會決定ノ水道用鑄鐵管仕様標準ニ準據ス

第三條 直管ハ熔リ型ヲ用ヒ承口ヲ下ニシ充分ノ押し湯ヲ附シ垂直ノ位置ニ於テ之ヲ鑄造シ押し湯ノ部分ハ工作機械ヲ以テ叮嚀ニ切り取ルモノトス管ハ總テ火色ノ未ダ褪メザル間ハ之ヲ鑄込ミ枠ヨリ取り出スベカラズ且ツ外氣ニ觸ル、ガ爲メニ生ズル不平等ノ收縮ヲ避クルニ必要ナル時間ハ型枠ノ儘之ヲ存置スヘシ

第四條 管ハ斷面眞圓ニシテ其内外面ハ同心圓タルベク且ツ兩面平滑ニシテ何

等鑄造上ノ缺點ヲ有セザルハ勿論疵穴ニハ決シテ填金等ヲナスヲ許サズ而シテ管體ノ直部ハ眞直タルベシ

第五條 フランヂ管ノフランヂ寸法ハ英國標準ニ適合シ其接觸面其他必要ノ部分ハ總テ工作機械ヲ以テ平滑ニ仕上グルモノトス

第六條 管ノ外面一定ノ場所ニ約八分ノ一時ノ高サニ左ノ文字及記號ヲ鮮明ニ鑄出スベシ

- 一、中津町水道徽章
- 二、各種別毎ニ鑄造ノ番號
- 三、鑄造年號

四、製造所名又ハ記號

但シ曲管ニ限リ前項ノ外特ニ角度度數ヲ鑄出スベシ

第七條 水壓試驗ハ一平方吋ニ付二百五十封度ノ水壓ヲ保チツ、約三分間繼續シ且ツ重量約二封度ノ銅槌柄長一呎六吋以内ヲ以テ輕ク管體ノ各部ヲ敲キ震動ヲ與フルモ毫モ漏水發汗其他異狀ナキモノヲ以テ合格トス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル鐵管ハ之ヲ不合格トシ直ニ本町徽章ヲ削リ取ルベシ

- 一、管ノ實際重量ガ規定重量ニ對シ直管ニアリテハ百分ノ三以上異形管ニアリテハ八百分ノ六以上ノ不足アルトキ
但シ實際重量ガ規定重量ニ超過スルモノハ之ヲ採用スト雖モ輕重何レノ場合ニ於テモ其代價ヲ増減セサルモノトス
- 二、直管ノ厚サハ規定寸法ニ對シ内徑十二吋以下ノ管ハ十六分ノ一吋以上ノ不足アルトキ
- 三、直管ノ外徑並ニ承口内徑(シンプル管ノ内徑ヲ含ム)及挿口外徑ハ規定寸法ニ對シ内徑十二吋以下ノ管ハ十六分ノ一吋以上ノ變差アルトキ
但異形管ニ在リテハ前各項ノ不定又ハ變差ニ其五割以内ノ増加ヲ許スモノトス
- 四、直管ノ長サ規定ヨリ四分ノ一吋以上不足スルモノ又ハ承口ノ深サ規定ヨリ四分ノ一吋以上過不足アルモノ

五、所定ノ水壓試驗ニ合格セルモノ

六、塗料ノ剝脫シタルモノ又ハ銹蝕ヲ生ジタルモノ

七、鑄造上ノ欠點アリト認メタルモノ

第九條 管ハ製作後町嚙ニ掃除ヲナシ製品検査重量検査並水壓試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタル管ハ充分銹落シヲナシ内外面共良好ナル「コールタービツチ」若クハ本町ノ指定スル防銹液ヲ適當ノ方法ニヨリ容易ニ剝脫セザル様完全ニ覆被シ充分乾燥セシムルモノトス

第十條 本町ハ供給人ノ製作工場ニ於テ每管前各條ノ検査及試験ヲ施行シ合格品ハ運搬中ノ損傷ニ對シ相當ノ豫防ヲナシ本町指定ノ場所ヘ搬入スルモノトス

検査及試験ニ要スル費用ハ供給者ノ負擔トス
但シ現品搬入後受授検査及試験ニ要スル費用ハ當町ノ負擔トス

第十一條 鐵管製造中本町ハ當該係員ヲ派遣シ任意製作工場ニ立チ入り材料及各種検査並試験作業ヲ監督セシムルコトアルヘシ此場合總テノ検査及試験ニ

關シ供給者ハ係員ノ指揮命令ニ從フモノトス

第十二條 鐵管ノ受授ハ假令本町當該係員ガ製作工場ニ於テ検査済ノモノト雖モ不合格ノ點ヲ發見シタルトキ又ハ運搬中ノ破損品ニ對シテハ之ガ引換ヲ命ズベシ此場合供給人ハ之ヲ拒ム事ヲ得ズ

第十三條 検査終了迄ニ生ジタル鐵管ノ破損其他ノ損失ハ供給人ノ負擔トス

第十四條 直管ノ挿口不完全ノ部分ヲ切捨テタル切斷管ニシテ用途アルモノニ限リ其切捨長三呎以内ノモノハ其種鐵管全部ノ内其二十分ノ一以内ハ再検査ノ上納入ヲ許スコトアルベシ

但シ挿口ハ鍊鐵ヲ以テ造リ係員ノ指揮ニ從ヒ燒嵌ス可シ

一、切斷管ノ規定重量ハ本町ニ於テ算定ス

二、切斷管ノ單價ハ全管ノ契約單價ノ五分引ニ有効長ノ比ヲ乘ジテ算定ス

三、切斷管ヲ納付シタル場合各種別鐵管ノ不足延長ハ全管ヲ以テ補充スルモノトス

但シ合計數量カ全管一本未滿ノ端數ヲ生ズルトキハ之ヲ加算セズ

第十五條 供給者又ハ其代理人ハ鐵管檢收ニ立會フベシ若シ立會ハザル場合當町ノ施行シタル各種検査ノ方法並其結果ニ對シテ異議ヲ申シ立ツル事ヲ得ズ

第十六條 本仕様書圖面其他ニ關スル疑義ハ總テ本町技師長ノ解釋ニ從フモノトス

第二章 淨水場工事

一、取水場

取水設備は本町大字下宮永字上河原松の瀬(山國川右岸寄洲内)湧水線を距る約六間の所に内徑二尺長三尺の鐵筋混凝土造集水管を流心に平行し、延長五十二間五分に亘り水平に埋設したるものにして、此の集水管周圍に穿ちたる一尺當り十個の矩形の孔巾二寸長五寸より、浸透水を集め導水管を経て、取水唧筒吸水井に至るの構造なり、集水管の兩端及中央導水管分岐點には接合井を設けて施工を容易にし、且後日の修理擴築に便すると共に平常は土砂溜の用をなさしむ。管中心高は標高以上一尺最大湧水面以下六尺八寸と定め、周圍には栗石厚一尺五寸砂利厚一

尺にて包み、其の外側は川砂を埋戻し努めて清浄なる水を取るの装置となせり。
導水管は内径二尺長八尺の「ヒューム」混凝土管を水平に延長七十五間布設せり。
接合井は内径四尺深蓋下端より六尺八寸の混凝土造とし、鐵筋混凝土の蓋を以て覆ひ、其の天端は寄洲表面以下約三尺五寸とし、土砂の浚渫に便するのみならず、水流に浸さるゝことなからしむ。

集水管埋設箇所の上流には長五十五間幅六尺深四尺の杭木帶梢を以て寄洲面より二尺以下に制水工を施し、以て流心の變動を防ぎ寄洲内の流水を導き、構造物を保護するものとす。

而して取水工事は是非共河水の最大濁水時に施工の要あるを以て全部直營とし、大正十五年十一月二十一日より集水管の製作に着手し、同月三十一日取水場工事に着手し、昭和二年三月四日同工事を終了せり。

二、取水 唧筒場

吸水井は鐵筋混凝土造り、矩形にして、幅内法六尺長内法九尺深蓋下端より三尺五寸とし、其の天端は最大洪水面を抜くこと二尺にして、尙安全を期する爲め鐵

製の覆蓋にて密閉し、導水管の出口に内径二十二吋の制水瓣を取付け、吸水井の水位を自由ならしめ、以て吸水井の掃除並に洪水時に於ける取水を加減し、地下室を保護するの用を爲さしむ。而して本工事の下部施行に就ては出水時期を考慮する必要あるを以て取水場工事と同時に直營施工せり。

取水唧筒は各一秒時約一立方尺の水を高四十尺に揚げ得る電動機直結の型六吋復吸離心動唧筒三臺にして、平常は其二臺を使用し一臺を豫備とす。而して唧筒は藤田鑛業株式會社西島製作所の製品を購入せり。

上家は送水唧筒兼用にして、梁行五間、桁行七間の鐵筋混凝土造平家建とし、將來の擴張に對し相當の餘地を存せしめたり。

工事は浄水場主要工事唧筒場、濾過池、貯水池、配水塔、並浄水場土工一切を一括して指名見積競争に附し、最低見積者大林組と昭和二年五月十三日契約の上施工せり。

三、濾 過 池

濾過池は其數四にして、内一を豫備とし、各五十尺角深十尺（有効水深九尺）の大きさ

とす、而して常用の濾過面積は合計七千五百平方尺なれば其濾過速度を一晝夜十八尺とし、一日の淨水量十三萬五千立方尺(二萬八百石)を得べし。濾過層は砂利厚一尺五寸砂厚二尺五寸とし砂面上常に五尺の水を湛へしむ。

池は凡て鐵筋混凝土造とし、底部には「アスファルト」工を施して漏水を防ぎ、又出口には節制機を取付け濾過速度を調整に備ふ。

四、貯水池

貯水池は其數二箇各幅三十尺長四十尺の矩形にして、深さは上屋下端より十一尺五寸にして水深十一尺内十尺を有効水深とし、二池合せて二萬二千二百立方尺(三千四百二十石)の有効容積を有するが故に最大一時間給水量の三時間分を貯ふることを得るのみならず、濾過池より不斷送水せらるゝ量をも合せ考ふる時には裕に九時間の長きに堪へ得るものとす。

池は凡て鐵筋混凝土造にして、底及上屋には「アスファルト」工を施し、以て漏水と浸水とを防ぎ各池とも三條の環流道を設けて淨水を導流せしめ、停滯することを少なからしむ。且上屋には厚二尺の土砂を覆ひ寒暑の變に當り淨水の冷熱に失す

るを防がしめ、各池とも四箇所づゝの空氣抜を設けて空氣の流通を良くし、掃除等の場合採光の用をなさしむ。又各池へ一箇所づゝの出入孔を設け掃除等の便に備へたり。

五、送水唧筒場

吸水井は鐵筋混凝土造矩形にして、幅内法六尺長内法九尺深唧筒室床上端より十七尺とす。

送水唧筒は各一秒時一、二五立方尺の水を高さ百三十五尺に揚げ得る電動機直結型六吋二段タービン唧筒三臺にして二臺を常用一臺を豫備となせり。

上家は取水唧筒室兼用にして將來擴張に對し相當の餘地を存せり。

六、配水塔

配水塔は其數一基、總高百十尺地盤上より百二尺、八角形鐵筋混凝土耐震構造のものにして、水槽は九本の支柱に支へられ内徑二十五尺、深覆蓋下端より十九尺三寸、水深十七尺五寸、内常用水深十五尺にして七千四百立方尺(一千百四十石)の容積を有し、最大一時間給水量の一時間分を貯へ得て送水唧筒の調整及停電の變に備

ふ、水槽最底水位は町内中央部より高きこと約九十尺なるを以て町内は適當に水壓を保ち得べし。

水槽は内面に「アスファルト」工を施して漏水を防ぎ、且空氣拔窓及出入孔を設く。

中津町水道水源池、土工、濾過池、貯水池、配水塔及唧筒室工事仕様書

(一)

一、本工事ハ本町係員ノ指示ヲ受ケ請負人ノ費用ヲ以テ遣形正確堅固ニ取設ケ本仕様書並ニ別紙明細書及同附屬圖面ニ依リ施行スベシ

二、工事着手前夫々工程表ヲ差出シ本町係員ノ承認ヲ受クベシ

而シテ本町ハ請負者ガ工程ヲ誤リ竣功シ難シト認ムルトキハ何時ニテモ契約ヲ解除シ得ルモノトス

三、本仕様書並ニ添付圖面ニ明記セザル事項ト雖モ工事施行上當然必要ト認ムルモノアルトキハ本町係員ノ指示ニ從ヒ請負者ノ費用ヲ以テ施行スルモノトス

四、本町現場係員ノ執務時間ハ左記ノ如クナルヲ以テ請負者ニ於テ作業時間ヲ延長シ又ハ夜間作業ヲナサントスルトキハ豫メ申出デ本町係員ノ承認ヲ受クベシ

シ

執務時間

自三月三十一日	自午後七時三十分
至五月三十一日	自午後五時
自六月一日	自午前七時
至八月三十一日	自午後五時三十分
自九月一日	自午前七時三十分
至十月三十一日	自午後五時
自十一月一日	自午前八時
至翌年二月末日	自午後四時三十分

五、本工事並ニ假設工事施行中ハ天災其他ノ不可抗力ノ爲メニ生ジタル損害ト雖モ總テ請負者ノ負擔トス

六、本工事ハ總テ請負者ノ直營ヲ以テ施行シ常ニ本工事ニ對シテ全責任ヲ有シ且ツ經驗アル直屬ノ技術者ヲ代理トシテ毎日現場ニ出頭セシムベシ而シテ若シ本町係員ニ於テ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ之ガ代人ヲ命ズベキニ依リ請負者ハ直ニ之ニ從フベシ

七、本工事ニ附屬ノ唧筒、電動機、配電器具、及「ケーブル」鐵管及瓣類其他ノ必要物等ハ

本町ノ直營又ハ別途ノ方法ニテ施行スルニヨリ請負者ハ本町係員ノ指圖通り務メテ之ニ支障ナカラシムルモノトス
 本町ノ都合ニヨリ前記附帶工事ノ一部又ハ全部ヲ請負者ニ命ズルコトアルベシ此場合其請負金額ニ付テハ別ニ請負者ト協定スルモノトス
 八、工事完成シタル時ハ跡片付ヲナシ検査ヲ受クベシ
 九、本仕様書、明細書並ニ圖面其他ニ關スル一切ノ疑義ハ總テ本町技師長ノ判定スル所ニ從ヒ請負者ハ之ニ對シ異議ヲ申立ツル事ヲ得ズ

(二) 材 料

一、本工事ニ使用スル材料ハ總テ形狀寸法正確品質又何等缺點ナキモノトシ使用前ニ必ズ本町係員ノ検査ヲ受クベシ
 二、一旦検査ニ合格シタルモノト雖モ使用ニ際シ缺點ヲ發見シタルトキハ之ガ取替ヲ命ズ尙ホ本町係員ニ於テ必要アリト認ムルトキハ豫メ見本品又ハ試験片ヲ提出セシムルコトアルベシ
 三、鐵筋用鋼材ハ軟鋼ニシテ浮錆油類其他有害物ノ附着セザル眞直ノモノタルベ

ク且ツ表面ハ平滑破斷面ハ粒狀均等ニシテ氣溫ニ於テ試験片ヲ彎曲シ百八十度ニ達シ圓形全部密接スルニ至ルモ其外側ニ破斷ノ微ナキモノタルベシ
 四、本工事ニ使用スル「セメント」及「硅藻土」ハ本町下宮永水源地倉庫ニ於テ必要ニ應ジ豫定數量ノ内渡シヲナスベキニヨリ請負者ハ運搬及保管ニ對シ特ニ注意シ且ツ每半ヶ月毎ニ其用途ヲ記入シタル受拂書ヲ提出スベシ

「セメント」ノ空樽ハ全部所屬倉庫ニ返納スルモノトス
 五、請負者ハ工事着手前豫メ工程ニ應ジ「セメント」及「硅藻土」ニ對シ月々ノ必要數量ノ豫定表ヲ本町係員ニ提出スベシ

六、本工事ニ使用スル栗石ハ總テ水源地構内又ハ其最寄ニ於テ之ヲ請負者ニ交付スベキニヨリ請負者ハ「セメント」並ニ硅藻土同様ノ責ヲ負フモノトス
 但シ碎石用栗石ハ之ヲ支給セズ

七、本工事ニ使用スル川砂、砂利、碎石用栗石ハ本町専用區域内ニ於テ採集スルコトヲ得ズ

八、本工事ニ使用スル砂利ハ其質堅硬ニシテ基礎目潰用以外ニ使用ノモノハ塵芥、

土氣其他ノ有害物ヲ附着セザル清潔ノモノトシ係員ニ於テ必要ト認ムルトキハ水洗ヲナサシムベシ而シテ其細度ハ左ノ通りトシ良ク篩分ケタルモノタルベシ

(イ)並混泥土用

徑自四寸二分

(ロ)鐵筋混泥土用

同自四分

但シ水槽其他厚サ比較的薄キ部分ニ使用スル分ハ徑自四分

配水塔基礎等比較的厚キ部分ニ使用ノ分ハ徑自四分

ノモノトス

(ハ)濾過層用

徑別紙圖面及本町備付ノ見本品ノ通り

但濾過層用ノ篩分ハ特ニ注意スベシ

(ニ)基礎目潰用

徑自四分至二分

九、本工事ニ使用スル砂利ハ豫メ見本品ヲ本町係員ニ提出シ且ツ其使用場所ノ承認ヲ經ベシ

但使用ノ場所ニヨリ碎石ノ使用ヲ許ス事アルモ入念ニ篩分ケタルモノニシテ

其篩分細度品質等ハ砂利同様ノモノタルベシ

一〇、本工事ニ使用スル川砂ハ砂利同様其質堅硬清潔ニシテ塵芥土氣其他不良ノ混合物ナキモノトシ砂利同様係員ニ於テ必要ト認ムルキハ之ガ水洗ヲナサシムベシ而シテ其細度ハ一分以内トシ濾過層用ハ特ニ篩分ケヲナシ本町備付ノ見本通りノモノ又ハ之ト同等以上ノモノタルベシ

(三) 器具機械

一、本工事ニ必要ナル器具機械類ハ總テ請負者ニ於テ調達スベシ但シ左記ノ器具機械ニ限リ之ヲ貸與スベキニヨリ請負者ハ之レガ保管修繕ノ責ヲ負フモノトス

一 電動機

十五馬力(附屬品付)

一臺

一同

廿五馬力(同)

一臺

一同

十馬力(同)

一臺

一 離心形唧筒

五吋(ベルト及附屬品付)二臺

二、貸與シタル器具不用返納ノ場合ニハ完全ニ修理ヲナスモノトス

(四) 動力

一、請負者が電力使用の場合ニハ本町架設ノ現場動力線ヲ使用スルコトヲ得ルト雖モ動力線ヨリ各電動機ニ引込線工事及電動機据付運轉ノ費用及動力費ハ全部請負者ノ負擔トス而シテ其容量及電壓周波ハ左ノ通りトス

容量 四〇〔キロワット〕以内

電壓 二〇〇〔ボルト〕

周波 五〇〔サイクル〕

但シ毎月一日十五日ノ定期又ハ不時ノ停電其他ノ故障ニヨリ工事ニ支障ヲ及ボスコトアルモ本町ハ其責ニ任ゼズ

(五) アスファルト工

一、本工事ニ使用スル「アスファルト」ハ總テ日本石油會社ノ精撰セル製品トシ豫メ見本品ヲ提出シ本町係員ノ承認ヲ受ケ同會社直屬ノ熟練セル職工ヲ使役シ同會社獨特ノ方法ニヨリ本町係員ノ指圖ニ從ヒ施工スルモノニシテ其ノ品質ハ左ノ通りトス

(イ)貯水池及唧筒室上家、濾過池及貯水池底部、配水槽防水用

商品名稱 三五度「アスファルト」

(ロ)壁部伸縮繼手用

商品名稱 一五度「プロンアスファルト」

二、本町ハ場合ニヨリ試験片ヲ撰ビ各種ノ試験ヲ行フコトアルベシ而シテ若シ不良ノモノアルトキハ其口全部ヲ不合格トス

三、上家及底部並ニ水槽防水工ハ下地混凝土ノ表面ヲ充分掃除シ之ガ乾燥シタルトキヲ見計ヒ厚一分通り適當ノ溫度ニ溶解シタル前記「アスファルト」ヲ斑ナキ様ニ塗布シ其上ニ前同様ノ「アスファルト」ヲ充分浸シタル麻布ヲ繼手三寸以上重ね合セ「アスファルト」糊付馴染能ク張り付ケ其上更ニ前記「アスファルト」ヲ厚一分以上塗布シ仕上グ厚サ全部ニテ二分五厘以上トス而シテ塗り終リノ部分ハ燒鍍等ニテ充分混凝土又ハ「モルタル」ニ密着セシメ漏水ナカラシムベシ

四、壁部伸縮繼手ハ別紙圖面ノ通り鉛板ヲ以テ漏水ナキ様混凝土ノ中ニ立テ込ミ

混凝土ノ乾燥ヲ待チ別紙圖面ノ通り前記ノ「ブローンアスファルト」ヲ流シ込ミ
燒鍍等ニテ混凝土ニ密着セシメ其ノ上ヲ壁面ヨリ一寸内外ノ沈ミニ「セメント
モルタル」ヲ填充スベシ

(六) 上 塗 工

一、上塗工ノ内底部及上家並ニ防水押ヘハ混凝土施行後五日間ヲ經壁部ハ型枠取
外シ後直ニ其表面ヲ針金ノ「ブラツシユ」等ニテ充分水洗ヒ殘滓其他ノ有害物ヲ
取除キ清潔ニナシ特ニ見ヘ掛リノ部分ハ不陸ヲ直シ鍍斑ナキ様ニ仕上クルモ
ノニシテ唧筒室特種ノ分ヲ除ク外各塗厚ハ左ノ通りトス

(イ) 濾過池貯水池及配水槽ノ底部

塗厚四分 一回塗

(ロ) 貯水池上家表面及配水槽覆蓋表面歩道表面同梯子踊場表面

塗厚四分 一回塗

(ハ) 濾過池貯水池ノ側壁及隔壁内外面

塗厚四分 二分宛二回塗

(ニ) 配水槽側壁内面

塗厚四分 二分宛二回塗

(ホ) 貯水池環流壁

塗厚四分 二分宛二回塗

(ヘ) 配水槽覆蓋及同基礎排水會所内面其表面

塗厚四分 二分宛二回塗

(ト) 濾過池入口及排水會所節制井ノ内外面

塗厚四分 二分宛二回塗

(チ) 配水池上家土留壁及排水溝

塗厚四分 二分宛二回塗

セメント ○.八五—川砂二.
硅藻土 ○.二五

(リ) 唧筒吸水井内外面

塗厚四分 二分宛二回塗

(ヌ) 唧筒室屋根防水押ヘ

塗厚六分 一回塗

但シ上塗用「モルタル」ノ配合ハ左ノ通りトス

二、上塗工ハ施行後直接日光ノ直射及寒氣ニ觸レザル様葎其他ニテ充分保護スヘ
シ

三、上塗工繼手ハ前回ノ塗終リヲ通り能ク削リ取り體裁馴染ヨク塗り續ケ底部ト
壁部トノ取り合セハ馴染ヨク適當ナル丸身ヲ付ケ此部分ヨリ漏水セザル様特
ニ注意スベシ

四、「モルタル」ハ其配合及練リ合セテ特ニ注意シ練リ合セ後ハ速ニ使用シ硬化時間
ヲ經過シタルモノハ之ヲ使用スベカラズ

五、上塗仕上ハ總テ鍍押ヘトシ刷毛引ヲ許サバルモノトス

七、笠 石 工

一、各池及配水塔ノ笠石工ハ總テ人造石洗出シ仕上トシ其塗厚ハ下塗共五分以上ニシテ徑三厘以上五厘以内ノ寒水石又ハ大理石粉ヲ用ヒ通リヨク表面不陸ナク且ツ面角ド正シク仕上ゲ本町係員ノ指示セル通りニ目地ヲ付スベシ

但シ下塗リニハ硅藻土入り「セメントモルタル」ヲ使用スルモノトス

二、請負者ハ豫メ見本塗ヲ本町係員ニ提出シ承認ヲ受クベシ

三、目地塗ハ五厘沈ミニ配合「セメント」一「川砂」一「モルタル」ヲ以テ鍍磨キ仕上ゲトス

八、混 凝 土 工

(イ) 型 枠

一、型枠ハ現寸圖ニヨリ其使用場所ニ適應スル様正確堅固ニ製作シ「コンクリート」ニ接觸スル面ハ鉋削リヲ施スベシ

二、型枠ノ合端ハ其密着ヲヨクシ漏水セザル様ニナスベシ

三、型枠組立ハ堅固正確ナルハ勿論「ポール」又ハ鐵線ヲ以テ兩側ヲ締付クベシ

四、型枠ヲ再用スルトキハ「コンクリート」ニ接觸スル面ハ之ヲ掃除シ清潔ニ洗滌ス

ベシ

五、型板内面ヘ「コンクリート」打ニ際シ充分之ヲ濕シ又ハ角又類ヲ適當ニ塗布スベシ

六、型枠ノ取外シ日數ハ本町係員ノ指圖ヲ受クルハ勿論ナルモ大約左ノ通りトス

底部混凝土工

三日間以上ヲ經タル後

壁部混凝土工

七日間以上ヲ經タル後

支柱混凝土工

七日間以上ヲ經タル後

上家及覆蓋並ニ桁混凝土 二十一日間以上ヲ經タル後

但(唧筒室ニ限リ特ニ二十八日間以上ヲ經タル後)

七、型枠取外シ後相當日數ヲ經本町係員ノ承認ヲ得タル後ニアラザレバ他ノ荷重ヲカクルコトヲ得ズ

(ロ) 混 合

八、混凝土工ハ必ず混和機ヲ使用スルモノニシテ其能力十時間二十立坪以上、ドラムノ廻轉數一分間二十回ノモノトシ材料ヲ入レタル後二分間以上廻轉スルヲ要ス

但廻轉數ニ缺グル所アレバ廻轉時間ヲ延長スルモノトス

九、混凝土練リハ毎回混凝土ヲ全部「ドラム」内ヨリ出シタル後次ノ材料ヲ入レ決シテ殘餘アル内ニ繼續スベカラズ

一〇、些少ノ混凝土工ヲナス場合ニハ特ニ手練ヲ許スコトアルモ豫メ本町係員ノ許可ヲ受クベシ

一一、材料ヲ混合スルニハ正確ナル樹ヲ用ヒ配合ノ正確ヲ期スルハ勿論水量ハ特ニ注意スベシ而シテ其一立坪ニ要スル材料ノ標準數量ハ大要左ノ通りトス

- (甲) 配合 ○●八五—二—一三
 セメント 一〇・五 (樽)
 硅藻土 三・三 (俵)
 川 砂 〇・五五 (立坪)

- 砂 利 ○●八二 (立坪)
 (乙) 配合 ○●八五—二—一四
 セメント 九・〇 (樽)
 硅藻土 二・八 (俵)
 川 砂 〇●四七 (立坪)
 砂 利 〇●九四 (立坪)

- (丙) 配合 一、二、一四、
 セメント 一一・〇 (樽)
 川 砂 〇●四七 (立坪)
 砂 利 〇●九四 (立坪)

- (丁) 配合 ○●八五—三—一六、
 セメント 六・五 (樽)
 硅藻土 二・〇 (俵)
 川 砂 〇●五 (立坪)

砂 利 一〇〇 (立坪)

(ハ) 施 工

- 一二 作業ニ先立チ先ヅ混凝土運搬用具ノ内面ヲ清潔ニ掃除スベシ
- 一三 シュートヲ用ユル場合ニハ作業前及後ニ於テ必ず其内面ヲ洗滌シ置クベシ
- 一四 シュートヲ用ユル場合ニハ混凝土ノ滑送途中ニ分離セザル様適當ノ勾配ヲ付クベシ而シテ其勾配ハ水平ニ對シ二十七度ヲ以テ最小限度トス
- 一五 シュートヲ用ユルト否トヲ問ハズ其運搬施行能力ハ混和機能力ニ適應スルモノニシテ十時間ノ工程十立坪以上トス
- 一六 練リ合セタル混凝土ハ可成速ニ施行シ硬化時間ヲ經過シタルモノハ使用スベカラズ
- 一七 既ニ硬化シタル混凝土ノ上ニ新ニ混凝土ヲ打ツ場合ニハ其表面ノ針金、ブラシ等ニテ良ク水洗ヒヲナシ殘滓ヲ充分取去ルベシ而シテ此等繼手ハ最モ大切ナルコトナレバ係員ノ指示ヲ受ケ入念施工スベシ
- 一八 施行ニ就テハ特ニ注意シ現場ニ適當ナル練リ返シ臺ヲ設ケ「シュート」又ハ其

他ノ運搬器具ヨリ一旦此臺ニ受ケ水加減ヲナシ充分練リ返シタル後型枠内ニ入レ毎回良ク搗キ混ゼ其密度ヲ一定ニシ出來上リ後漏水ナキ様ニ入念施行シ決シテ運搬器具ヨリ直接型枠内ニ流シ込ムベカラズ

(ニ) 接 合 作 業

- 一九 濾過池貯水池等ノ壁部及上家ニシテ伸縮繼手ノ設ケアルモノニ對シテ其區間ハ必ず一度ニ仕上グルモノニシテ如何ナル場合タリト雖モ縦ノ繼手ヲ設クルコトヲ許サズ
- 二〇 濾過池及貯水池ノ壁部ト底部又貯水池ノ壁部ト上家トノ接合ハ圖面ノ通間形トシ其表面ヲ能ク叩キ落シ清潔ニ洗滌シテ配合セメント〇・八五、硅藻土〇・二五、川砂二ノモルタルヲ敷キ其上ニ混凝土ヲ打チ又必要ニ應ジテハ補助鐵筋ヲ挿入スルコトアルベシ且ツ不可抗力ニヨリ作業中止ノ已ムナキ場合ニハ圖面以外ノ處ニ横ノ繼手ヲ許スコトアルモ其方法ハ前記ノ通りトス
- 二一 前記以外ノ混凝土工事ノ接合場所ニ就テハ豫メ本町係員ノ承認ヲ受クルモノニシテ出來得ル限り一度ニ大量ヲ施工シ繼手數ヲ減ズベシ而シテ其接合方

法ハ前條同様トス

(ホ) 雜

二二、華氏四十度以下ノ時ハ露天ニ於テ作業ヲナスベカラズ

二三、混凝土施行後相當ノ期間中ハ葎類ヲ以テ養生ヲナシ夏期ハ撒水ヲ怠ルベカラズ

二四、如何ナル場合ト雖モ水中混凝土工ヲ許サザルニヨリ施行中完全ニ排水スルハ勿論施行後ト雖モ相當時間中ハ排水ヲナスベシ

但地下水位ハ平時ニ於テ(十)十五尺内外ナリトス

二五、唧筒室ノ一部特ニ上塗其他ヲ明記セザル部分ヲ除ク外圖面ニ記入ノ寸法ハ總テ混凝土工ノ出來上リ寸法ヲ示シタルモノニシテ上塗工及笠石工ノ厚サハ之ヲ含マザルモノトス

(九) 鐵 筋 工

一、鐵筋工ハ別紙圖面ニ基キ豫メ現寸圖ヲ作製シ本町係員ノ承認ヲ經タル後氣温ニ於テ加工シ雨露ニ晒サレザル様注意スベシ

二、鐵筋ノ兩端ハ必ズ鈎形ニ曲ゲ置クベシ

三、鐵筋組立ハ鐵筋ノ表面ヲ掃除シ有害物ヲ取除キ圖面ノ通りニ二十番内外ノ鐵線ヲ以テ位置間隔ヲ正確堅固ニ本町係員ノ指圖通りニ結束スルモノトス

四、鐵筋組立後ハ移動セザル様ニ相當ノ補助鐵筋及セメントモルタル製ノ小「プロック」ヲ用ユベシ

但シ之ニ要スル費用ハ請負者ノ負擔トス

五、鐵筋ノ繼手ハ圖面通りニシテ圖面ニ明記ノ分ハ一本物ヲ使用シ如何ナル方法ニヨルモ決シテ途中ニ於テ接續スベカラズ

六、圖面ニ明記ナキ部分ノ繼手ハ本町係員ノ指圖ニ從フハ勿論其重ネ合セ寸法ハ左ノ通りニシテ二十番内外ノ鐵線ヲ以テ堅固ニ結束スベシ

徑 二 分 丸	重ネ合セ 八寸以上
同 二 分 五 厘 丸	同 一 尺 以上
同 三 分 丸	同 一 尺 二 寸 以上
同 三 分 五 厘 丸	同 一 尺 四 寸 以上

徑 四分丸	重ネ合セ	一尺六寸以上
同 四分五厘丸	同	一尺八寸以上
同 五分丸	同	二尺以上
同 六分丸	同	二尺四寸以上
同 七分丸	同	二尺八寸以上
同 八分丸	同	三尺二寸以上
同 一寸丸	同	四尺以上

(一〇) 土 工

一、本工事ハ濾過池貯水池配水塔及唧筒室築造ニ伴フ掘鑿工並ニ埋戻工及堤防盛土工ニシテ別紙圖面ニ基キ各主體工事施行ニ支障ナキ様本町係員ノ指圖通り施行スベシ

二、本工事ハ請負者ノ希望ニヨリ其掘方敷幅法、勾配等ニ付多少變更スルモ差支ナシト雖モ豫メ本町係員ノ承認ヲ受クベシ
但之ガ爲メ數量ニ増減ヲ來スモ請負金額ノ増減ハ之ヲナササルモノトス

三、本工事着手ニ際シ必要ナル部分ノ竹草ハ刈取り尙ホ樹木ヲ伐採シ之等ノ根及工事上ノ支障物ハ全部之ヲ取除クベシ且取毀チタル在來ノ石垣材料ハ本町係員ノ指定セル附近ノ場所ニ取片付クベシ

四、本工事切取土砂其他ハ總テ用地内ニ於テ本町係員指定ノ場所ニ置キ決シテ他ヘ搬出スベカラズ

五、本工事盛土工ニ使用土砂不足ノ分ハ他ヨリ搬入スルモノトス

六、主體工事ノ進行ニ伴ヒ別紙圖面ノ通り夫々埋戻シ及盛土ヲナスモノニシテ其順序ハ豫メ本町係員ノ指圖ヲ受ケ附帶工事ニ支障ナキ様施行スヘシ

七、貯水池周圍盛土ノ全部ハ上家混泥土工施工後相當ノ日數ヲ經タル後本町係員ノ指圖ヲ受ケ之ヲナスベシ

八、貯水池上家盛土工ハ混泥土工施行後四十日間以上ヲ經本町係員ノ指圖通り厚一尺通り砂又ハ切込砂利ヲ敷キ均ラシ其上更ニ眞土ヲ厚一尺通り盛り均ラヌモノニシテ泥土、竹、草木根其他ノ有害物ヲ混入セザル様注意スベシ

九、埋戻及盛土貯水池上家ノ分ヲ除クハ每層一尺毎ニ相當搗キ固メ且ツ前同様ノ

有害物ヲ混入スベカラズ

(一) 築造工事

(イ) 濾過池

- 一、本工事ハ別紙圖面ノ通り施行スルモノニシテ其數四トス
- 二、基礎砂利搗固メ工ハ栗石及目潰シ砂利厚三寸通り敷キ均シ適當ノ胴突ヲ以テ充分搗キ固ムルモノトス
- 三、濾過槽層ハ別紙圖面ノ通り厚サ正確ニ各層ヲ敷キ均シ其各層ノ品質細度等ハ本町備付ノ見本通りトス
- 四、集水溝蓋ハ鐵筋混凝土製ニシテ其配合ハ「セメント」〇・八五「硅藻土」〇・二五「川砂」二、砂利四、ニシテ規矩正シク圖面ノ通り鐵筋ヲ挿入製作シ製作後十日間以上ヲ經テ圖面通り配列スベシ
- 五、溝蓋ハ場合ニヨリ相當ノ數量ヲ撰ビ内容検査ヲ行フコトアルベシ
若シ之ニ不合格ノトキハ全部不合格トシ之ガ製作直シヲ命ズルコトアルベシ
但シ検査ニ用ヒタル分ハ請負者ノ負擔トス

六、本工事中混凝土ノ配合ハ左ノ通りトス

(イ) 側壁、隔壁、入口及排水會所、節制井、底部防水工、押へ等ノ鐵筋混凝土

配合 セメント 〇・八五 川砂 二、 砂利 四、 硅藻土 〇・二五

(ロ) 底部防水工、下、入口、水叩等ノ並混凝土

配合 セメント 〇・八五 川砂 三、 砂利 六、 硅藻土 〇・二五

七、壁部内外面、底部表面、其他入口及排水會所、節制井等ハ全部上塗工ヲ施シ壁部天端及笠石ハ全部洗出シ人造石仕上トス

八、濾過池入口會所周圍ニハ鐵筋混凝土製水叩キ板ヲ敷キ又其周圍ニハ水勢ヲ殺

グ爲メ栗石ヲ並ブルモノトス

九、排水會所周圍ニハ濾過砂層ノ増減ニ伴ヒ加減出來得ル様鐵筋混凝土製砂止板

ヲ嵌入スルモノトス

一〇、入口會所内ニハ水叩キ混凝土工ヲ施スモノトス

(ロ) 貯水池

一、本工事ハ別紙圖面ノ通り施行スルモノニシテ其數二トス

二、基礎砂利搗キ固メ工ハ濾過池同様トス

三、本工事ニ使用スル混凝土ノ配合ハ左ノ通りトス

(イ)底部防水工上側壁、隔壁、環流壁、上家、同土留壁及排水溝、出入孔及空氣抜孔壁、ヘットストツク臺等

配合 セメント 〇・八五 — 川砂 二、— 砂利 四、
硅藻土 〇・二五

(ロ)底部防水工下上家防水工押へ等並混凝土

配合 セメント 〇・八五 — 川砂 三、— 砂利 六
硅藻土 〇・二五

四、壁部内外面、底部及上家表面、同土留壁外面、同排水溝内面、出入孔及空氣抜孔壁内外面ヘットストツク臺外面ハ全部上塗工ヲ施シ土留壁、笠石、排水溝縁石ハ全部洗出シ人造石仕上トス

五、上家防水押へ混凝土工ニハ側、隔壁及環流壁ニ向ヒ約百分ノ一ノ勾配ヲ付シ水抜キ溝底ヲ成シ其溝底ハ兩方ニ向ツテ約三分ノ一ノ勾配ヲ付スベシ

六、上家水抜工ハ別紙圖面通り内徑五寸ノ半圓土管ヲ「セメントモルタルブロック」上ニ配列シ其上ヲ厚平均三寸通り砂利ヲ卷キ終點ハ周圍排水溝ヘ連絡スベシ

(ハ) 配 水 塔

一、本工事ハ別紙圖面ニ基キ施工スルモノニシテ其數一基豫メ現寸圖ヲ作製シ本町係員ノ承認ヲ經ベシ

但設計圖ノ寸法ハ現寸圖ノ寸法ト多少相異スルコトアルベシ

二、本工事ニ使用スル混凝土ノ配合ハ左ノ通りトス

(イ)水槽側壁及覆蓋、同内部防水押へ

配合 セメント 〇・八五 — 二、— 三、
硅藻土 〇・二五

(ロ)其他全部

配合 セメント 〇・八五 — 二、— 四、
硅藻土 〇・二五

三、基礎栗石工ハ厚二尺通り大栗石及目潰シ砂利ヲ敷キ均シ三十貫以上ノ木製胴突ヲ以テ充分搗キ固メ本町係員ノ指圖ニ從ヒ每平方尺ニ付三噸以上ノ載荷試験ヲ行フベシ

但此試験ニ要スル費用ハ總テ請負者ノ負擔トス

四、水槽内面、同覆蓋表面、步道表面、梯子踊場表面、底部表面、排水會所内面共ハ全部上

塗工ヲ施シ底部側壁外面及天端ハ洗出人造石仕上トス

五、混凝土工ノ中上塗及人造石塗ヲ施サル部分ニハ目違ヒ其他ヲ體裁ヨクセメントモルタルヲ以テ直シ一定ノ色合ニセメント汗ヲ塗布スベシ

六、梯子、歩道、手摺鐵物出入孔ノ鐵蓋空氣拔窓等ハ豫メ製作圖ヲ提出シ本町係員ノ承認ヲ受クベシ

但製作圖ニ於テ格好上多少變更スルコトアルベシ

七、各鐵物取付ノ上ハ錆止ヲナシ灰色ペイントニ二回塗仕上トス

但水槽内梯子ニ限リ「コールター」塗仕上トス

八、水槽、桁、歩道、手摺、支柱、同繫桁、其他ハ本町係員ノ指圖通り適當ナル大サノ面取リヲナスベシ

(三) 唧筒室及吸水井

一、本工事ハ別紙圖面ニ基キ施行スルモノニシテ其數上家一棟地下室及基礎共及吸水井三個トシ必要部分ハ豫メ現寸圖ヲ作製シ本町係員ノ承認ヲ經ベシ

二、石材工事

(イ) 石材ハ配合セメント〇・八五—川砂二、ノ「モルタル」ヲ以テ水平眞直各一分目地ニ据付クルモノニシテ沈ミ一分「セメント」化粧塗ヲ施スベシ

(ロ) 窓及入口ノ石ハ見ヘ掛リ黒灰色ノ色揃ヒモノヲ用ヒ仕上ハ總テ四度小叩トス

(ハ) 「バラベツト」石ハ前同様ノ色揃ヒモノヲ用ヒ見ヘ掛リハ體裁ヨキ荒鑿切トシ形ノ深サ一寸位ノ鑿形ヲ所々ニ付ケ合端ハ四度小叩キトス
(ニ) 入口廻石ハ前同様ノ色揃ヒモノヲ用ヒ見ヘ掛リハ最モ雅味荒刻ミトシ合端ハ四度小叩トシ振動其他ノ爲メニ落下又ハ狂ヒノ生ゼザル様圖示ノ通り加工シ「レール」鐵及各石毎ニ扣金物ヲ以テ「コンクリート」ニ取付クベシ

三、内外塗裝工事

(イ) 本工事ハ總テ見本品又ハ見本塗ヲ豫メ本町ニ提出シ係員ノ承認ヲ經ベシ
(ロ) 外部人造石洗出塗ハ「コンクリート」面ノ凹凸ヲ削取リ配合セメント〇・八五—川砂二、ノ「モルタル」ヲ以テ不陸ヲ直シ配合セメント「石粉(錆色石細粉)一ノ「モルタル」ヲ以テ「ボンブ」洗モ仕上トス

(ハ)麻床其他人造石研ギ出シハ前同様不陸直シヲナシタル後配合セメント〇七石灰〇三石粉(茶色寒水石細粉)〇九ノ「モルタル」ヲ以テ塗付ケ適當ナル時間ヲ經過シタル後砥石目ノ存セザル様入念研出スベシ

(ニ)玄關入口「マイル」張リハ五吋角同腰及地下室壁等ハ小口張形ヲ堅張りトシ硬質ノ色合滋味アルモノヲ用ヒ目地割ヲナシ目地正シク不陸ナキ様張付ケ化粧目地塗ヲナスベシ

(ホ)内部漆喰塗ハ塗地ハ前記ニ準ジ下塗ハ生漆喰ヲ付ケ班直シ「チリ」廻リ共砂漆喰トシ上塗ハ紙苧ヲ用ヒ上等石灰ヲ以テ 斑地斑ナク光澤ノ見エル様仕上グベシ

(ヘ)木材部「ペンキ」塗ハ節止メノ上「ボテ」詰メ鐵材部ハ光明丹ノ錆止メヲ施シ各三回塗トシ毎回「ペーパー」摺リヲナシ刷毛斑及溜等ナキ様仕上グルモノトス

但「ペンキ」ハ日本「ペイント」會社製又ハ之ト同等以上ノモノヲ用ユベシ
四、建具工事

(イ)本工事ニ要スル金具類ハ豫メ見本品ヲ提出シ本町係員ノ承認ヲ經ベシ

(ロ)入口戸ハ面剝形等現寸圖ニ倣ヒ木拵ヘヲナシ框ハ二枚拵差シ鏡板硝子ハ四方小穴ニ入レ拵ハ糊差シ割楔締メトス蝶番ハ六吋内外ノ「ブロンズ」鍍金丈夫ナルモノヲ三個宛用ヒ引手ハ同製「ハンドル」付箱錠付トス

(ハ)窓硝子戸ハ凡テ阿部式又ハ鈴木式「スチール」サツシユ窓トシ木煉瓦又ハ扣鐵物ニテ所定ノ位置ニ水平真直ニ取付ケ廻轉裝置其他共調子能ク風雨ノ浸入セザル様取付クルモノトス

五、屋根其他工事

(イ)屋根ハ防水「アスファルト」工ヲ施シタル上ニ配合セメント〇八五―川砂ニ「モルタル」ヲ塗厚六分通り塗立テ其上ニ配合セメント〇八五―「シンダー」

四、ノ混凝土ヲ厚三寸打チ更ニ厚二寸通り敷砂利ヲナスモノニシテ「バラベツト」壁樋口等ノ個所ハ特ニ入念施行シ雨水ノ浸透セザル様仕上ルモノトス

(ロ)軒樋ハ「バラベツト」壁際ニテ溝ヲ造リ堅樋ハ銅板製トシ堅繼手「コハセ」掛ケ

横同印籠差シトシ半田蠟付ケ充分ニ銅製厚三分ノ扣金物ニテ取付ケ特ニ
屋根ト軒樋トノ取合セ落口ハ入念施行スベシ

(ハ)避雷針ノ軸幹ニハ徑二吋ノ瓦斯管ヲ用ヒ下ヨリ高サ一尺位迄ハ五寸角ノ
銅板卷木柱ヲ差シ込ミ圖面通りノ木梓ヲ以テ堅固ニ建テ込ミ頭部ハ銅製
四個ノ尖頭ヲ有シ純金三匁焼付ケトシ導線ニハ十二番銅線十三本燃リヲ
用ヒ地中銅板三尺角厚三厘ヲ取付ケ木炭二十貫以上填充シ最低地下水
以下ニ埋設スベシ而シテ地中板ト大地トノ電氣抵抗ハ一〇オーム以下ト
ス

六、雜 件

(イ)本工事中ノ粧裝部分及入口電燈各扉地下室廻リ手摺梯子等ハ實施ニ際シ
多少變更スルモ差支ヘナシト雖モ豫メ現寸圖又ハ見本品ヲ提出シ本町係
員ノ承認ヲ經ベシ

(ロ)本工事に使用スル混凝土ノ配合ハ左ノ通りトス

屋根スラブ及桁

配合セメント一、川砂二、砂利四

屋根防水押へ

配合セメント一、川砂二、シンドー四

其他全部(吸水井共)

配合セメント〇・八五、川砂二、砂利四

配合セメント〇・八五、川砂二、モルタルヲ以テ二分宛

(ハ)吸水溝ハ内外面共配合

二回四分塗仕上トス

(ニ)基礎栗石工ハ栗石ヲ圖面通りノ厚サニ敷キ目潰砂利ヲ適當ニ混ゼ相當器
具ヲ以テ充分搗キ固ムルモノトス

(二) 精 算

一、本工事各工種別數量ノ算定基礎及方法ハ本町ノ定ムル所ニ從ヒ若シ之ガ違算
アリタルトキハ請負單價ニ依リ之ヲ請負金額ヨリ増減スルモノトス
但其違算高——ノ各工種ニ於テ其ノ單位ノ二%以内ナルトキハ之ガ増減
ハナササルモノトス

二、本町ノ都合ニヨリ設計ヲ變更シ其數量ニ二%以上ノ差異ヲ生ジタルトキハ請負單價ニ準シ之ヲ請負金額ヨリ増減スルト雖モ明細書以外ノ工種ニ對シテハ其單價ヲ請負者ト協定シ若シ協定成立セザルトキハ本町ハ直營又ハ他ノ請負者ニ命ジ施行セシムルコトアルモ本工事ノ請負者ハ之ニ對シテ何等異議ノ申立ヲナスヲ得ザルモノトス

三、本町架設ノ電力使用ノ場合ニハ其料金ハ左記本町ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ請負金ヨリ控除ス

電力料金ハ「キロワット」時ニ付貳錢五厘トス

四、本町ガ請負者ニ對シ工事ノ施工直シヲ命ジタルトキハ請負者ハ直ニ之ヲ實行シ何等異議ノ申立ヲナシ得ザルハ勿論之ニ要シタル「セメント」及「硅藻土」ノ代價ハ請負金額ヨリ之ヲ扣除ス

但其數量ノ算定及單價ハ本町ノ定ムル所ニ從フモノトス

五、本工事ニ使用ノ混凝土及「モルタル」ノ練リ合セ不完全又ハ練リ合セ後一定ノ時間ヲ經過シタルモノニ對シテハ之ガ使用ヲ禁ズベシ此場合ニハ請負者ハ前條

ノ通り賠償ノ責ヲ負フモノトス

第三章 鐵管布設

鐵管布設を大別して淨水場附屬鐵管布設及配水鐵管布設の二とす。

淨水場附屬鐵管布設は請負施工の關係上、掘鑿材料運搬布設手傳及埋戻し等に關する部分を請負とし、鐵工に屬する主要部分は直營として施行す。

源水は各取水唧筒より六吋管を以て出で十二吋管に合し、更に十吋管に分れて各濾過池に入る、各濾過池よりは八吋管を以て出で十二吋管に合し、更に八吋管に分れて各貯水池に至る。又原水清淨にして濾過するの必要を認めざる場合は取水唧筒より直接貯水池に送水し得る様十二吋「バイパス」管を備へ、各貯水池よりは八吋管に依りて出で十四吋管に合し、送水唧筒吸水井に至る、送水唧筒よりは各八吋管に依りて出で十二吋管に合し、配水塔に上り、茲に初めて十二吋管を以て市内に配水さる。又送水唧筒より直接市内に配水し得る様十二吋「バイパス」管を設け、唧筒直送により市内の水壓を高め以て大火の變に備ふ。

尙貯水池の掃除又は濾過池洗滌の爲め六吋管及八吋管を布設せり
 配水幹線は十二吋管を以て配水塔を出で東行して縣道(森中津線)に出で、北行鐵道日豊線を横斷して國道(第三號線)に出で東方に八吋管を分岐し、本線は更に西に向つて十吋管となり、枝町辻を経て北行八吋管となり鹽町中之辻に至り東に向ひ豊後町中之辻に終る

配水支管は八吋以下三吋管迄を適當に配分布設す。
 街又點に防火栓を取付け、要所に排氣瓣分岐點に制水瓣を設置し、排氣給水の緩急に應じ、且所々に排水用制水瓣を設け管中の掃除に備ふ。

配水鐵管を内徑に區分すれば左の如し

種 別	延 長	種 別	延 長
内徑十二吋	一、一二三間七	内徑五 吋	六二七間一
同 十 吋	六四間七	同 四 吋	四、〇七一間四
同 八 吋	六二〇間二	同 三 吋	一〇、九一七間七
同 六 吋	一、三二四間		

合 計 一八、七三九間八

此哩程 二二哩餘

防火栓の數 一五〇個

ポルトランドセメント購買仕様書

第一條 當町ニ於テ購買スル「ポルトランドセメント」(以下單ニ「セメント」ト稱ス)ハ供給者ノ製造所ニ於テ製造シタルモノニシテ其員數及納入期日ハ左記分納表ノ通リトス

但本町ノ都合ニヨリ其員數ニ於テ一割以内ノ増減並ニ納入期日ヲ多少變更スルコトアルベシ此ノ場合本町ハ二十日以前ニ供給者ニ其ノ旨ヲ通知スルモノトシ供給者ハ是ニ對シ何等異議ノ申立ヲナスヲ得ザルモノトス

第二條 容器ハ總テ樽ヲ用ヒ一樽ノ正味重量ヲ參百八拾封度以上トシ容積ハ四立方尺半以上タルベシ

第三條 供給セメントハ概況検査及品質検査ノ二法ニヨリ檢收スルモノトス

第四條 供給セメント「納入場所」ニ到着シタルトキハ容器及概況ノ検査ヲナシ合

格ト認メタルモノハ第七條ノ品質検査完了迄供給者之ヲ保管スベシ
但シ保管ノ場所ハ當町下宮永水源地倉庫トス

第五條 概況検査ハ係員ニ於テ適宜納入「セメント」百樽ニ付貳樽以上ノ割合ニ試験樽ヲ撰抜シテ是ヲ開キ「セメント」ノ概況ヲ觀察シ若シ濕氣ヲ吸收シタルガ爲メ凝結シタルト認ムルカ又ハ不良ノ混合物アリト認ムルトキハ是ト同時ニ納入シタル「セメント」ハ總テ不合格ト決定ス

概況検査ニ合格シタルモノト雖モ品質検査完了シ検査書ノ交付前ニ於テ濕氣ヲ吸收スルカ又ハ變質ヲ來シタル疑アルトキハ更ニ概況検査ヲナスコトアルベシ

第六條 検査係員ハ第五條ノ撰抜試験樽ニ付キ各樽ノ重量ヲ秤定シ其ノ内ヨリ風袋ヲ引キ去リ正味量ヲ檢シ是ニ依リテ平均壹樽ノ正味量ヲ定ム

第七條 第五條ノ試験樽ノ内ヨリ若干量宛ヲ供試標本トシテ取出シ是ニ依リテ品質検査ヲ行フモノトス

第八條 供試標本ニ依リ品質検査ノ成績不合格ナルトキハ當該一口ノ納品全部

ヲ不合格ト決定ス

第九條 品質検査ハ明治四十二年十二月十日農商務省告示第四百八十五號ニ基キ是ヲ執行スルモノトス

但シ化學試験ハ是ヲ省略シ強度試験ニアリテハ一週間強度ヲ以テ判定スルコトアルベシ

第十條 検査用ニ供スル器具機械ハ凡テ當町所定ノモノニ依ル

第十一條 本仕様書ニ規定シタル検査方法ニ關シ生ジタル疑義ハ總テ當町技師長ノ判定スル所ニ決ス

第十二條 前各條ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル「セメント」ニ對シ當町ハ検査書ヲ供給者ニ交付シ是ヲ以テ現品受授ヲ完了シタルモノトス

第十三條 検査後ト雖モ「セメント」ニ變質著シキカ或ハ容量ノ不定若クハ不正ノ行爲アルモノヲ發見シタルルキハ供給者ハ當町ノ命ズル所ニ從ヒ無償ヲ以テ是ガ引替ヲナスモノトス此ノ場合代品ノ検査方法亦前各條ノ通リトス
但シ検査後ニ於テ特別ノ事情ノ爲メ原因判明シタルモノハ此ノ限ニアラズ

硅藻土購買仕様書

- 第一條 當町ニ於テ購買スル硅藻土ハ白色又ハ黄色ニシテ供給者ノ製造所ニ於テ製造シタルモノニシテ其員數及納入期日ハ別紙明細書ノ通りトス
但本町ノ都合ニヨリ其員數ニ於テ一割以内ノ増減若クハ納入期日ヲ多少變更スルコトアルベシ是ノ場合本町ハ廿日以前ニ供給人ニ其ノ旨ヲ通知スルモノトシ供給人ハ之ニ對シ何等異議ノ申立ヲナスヲ得ザルモノトス
- 第二條 容器ハ總テ俵ヲ用ヒ壹俵ノ正味重量ヲ拾壹貫以下トシ容積ハ五立方尺以上タルベシ
- 第三條 供給硅藻土ハ概況検査及品質検査ノ二種ニ依リ檢收スルモノトス
- 第四條 供給硅藻土納入場所ニ到着シタルトキハ容器及概況ノ検査ヲナシ合格ト認メタルモノハ第七條ノ品質検査完了迄供給者之ヲ保管スベシ
但シ保管ノ場所ハ當町下宮永水源地倉庫トス
- 第五條 概況検査ハ係員ニ於テ適宜納入硅藻土百俵ニ付五俵以上ノ割合ヲ以テ試験俵ヲ撰拔シテ是ヲ開キ概況ヲ觀察シ若シ濕氣ヲ吸收シタルカ又ハ不良ノ

混合物アリト認ムルトキハ是ト同時ニ納入シタル硅藻土ハ總テ不合格ト決定ス

第六條 検査係員ハ第五條ノ撰拔試験俵ニ付キ各俵ノ重量ヲ秤定シ其内ヨリ風體ヲ引キ去リ正味量ヲ檢ス

第七條 第五條ノ試験俵ノ内ヨリ若干量宛ヲ供試標本トシテ取出シ是ニ依リテ品質検査ヲ行フモノトス

第八條 供試標本ニ依リ品質検査ノ成績不合格ナルトキハ當該一口ノ納品全部ヲ不合格品ト決定ス

第九條 品質検査ハ大分縣令ニ依リテ行フモノニシテ明治四十二年十二月十日農商務省告示第四百八十五號ポートランドセメント試験法ニ基キ是ヲ執行ス
硅藻土ハ化學分析ノ結果百分中略次ノ成分ヲ有スルモノタルベシ

- 一、硅 酸 八一〇 一、酸 化 鐵 一〇
- 一、礬 土 四〇 一、石 灰 〇・五
- 一、苦 土 〇・五 一、アルカリ 〇・四

一、水 分 一二・六

一、灼熱減量

七・〇乃至一三・〇

硅藻土ノ耐伸強度硅藻土〇・二〇セメント一〇標準砂三六以上重量ノ割合ニ配合シタル調合物ニ付農商務省「セメント」試験法ニ準シ試験ヲ行ヒ七日間ノ後ニ於テ每平方吋七十五封度以上二十八日間ノ後ニ於テ同百六十封度以上九十日間ノ後ニ於テ同三百封度以上タルヲ要ス

但シ「セメント」ハ當町在庫品ヲ使用スルモノトス

第十條 本町ノ都合ニ依リ化學試験全部物理試験ノ一部ヲ省略シ強度試験ハ一周間強度ヲ以テ判定スルコトアルベシ

第十一條 前各條ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル「硅藻土」ニ對シ當町ハ檢收書ヲ供給者ニ交付シ是ヲ以テ現品受授ヲ完了シタルモノトス

第十二條 檢收後ト雖モ容量ノ不定若クハ不正ノ行爲アルモノヲ發見シタルトキハ供給者ノ當町ノ命ズル所ニ從ヒ無償ヲ以テ是ガ引替ヲナスモノトス此ノ場合代品ノ檢收方法亦前各條ノ通リトス

但シ檢收後ニ於テ特別ノ事情ノ爲メ原因判明シタルモノハ此限ニアラズ

第十三條 前各條ノ試験ニ於テ概況検査ニ要スル費用ハ供給者之ヲ負擔シ品質

検査ニ要スル費用ハ當町ニ於テ之ヲ負擔ス

第十四條 本仕様書ニ規定シタル検査方法ニ關シ生ジタル疑義ハ當町技師ノ判定スル所ニ決ス

瓣類及鐵蓋購入仕様書

第一條 本仕様書ニ依リ購入スヘキ制水瓣防火栓排氣弁及鐵蓋ノ形狀寸法ハ附屬圖面ニ適合スルモノニシテ其種類員數及納入期日ハ別紙明細書ノ通リトス但シ當町ノ都合ニ依リ其員數ノ一割以内ノ増減又ハ納入期日及明細書ヲ多少變更スルコトアルベシ此場合ハ本町ハ供給者へ二十日以前ニ其旨通知スベキニ依リ供給者ハ之ニ對シ何等ノ異議ノ申立ヲナスヲ得ザルモノトス

第二條 制水瓣防火栓及排氣弁ノ製作ニ使用スル材料ハ左記仕様ニ適合スルモノタルベシ

一、鑄鐵ハ其質良好強靱粒狀均等ニシテ容易ニ穿孔シ且ツ切斷シ得ルモノタルベシ

- 一、砲金ハ其品質優良ノモノタルベシ
- 一、鋼鐵ハ軟鋼タルベシ

一、球狀瓣ハ表面「エボナイト」製ニシテ比重〇・九トス

第三條 「スピンドル」及摺動部其他必要ノ個所ハ總テ砲金ヲ用ヒ其他ノ部分ハ鑄鐵製トス而シテ各部取付ニ要スル「ボール」ハ其頭部ヲ軟鋼棒ヨリ打出シタルモノニシテ各鐵管ニ取付クベキ前同様ノ「ボール」及座金ヲ附屬セシムベシ

第四條 相互ニ接着スル部分ハ平滑ニ仕上ケ充分叮嚀ニ摺合セテ施シ且ツ螺旋部ノ「ピッチ」厚深等ハ最モ精密ナルヲ要ス

第五條 鑄造物ハ内外面共平滑ニシテ何等鑄造上ノ缺點ナク且ツ疵穴ニハ填メ金等ヲナスヲ許サズ而シテ「フランヂ」ノ接觸面ハ平滑ニ仕上グ圖面ノ通り等距離ニ「ボール」孔ヲ穿ツベシ

第六條 瓣類ハ外面一定ノ個所ニ本町水道徽章製作所名又ハ記號及製作年號ヲ高サ八分ノ一吋以上ニ鮮明ニ鑄出スベシ

第七條 各部製作濟ノ上ハ充分掃除ヲナシ各部分検査ノ後鑄鐵部其他銹ヲ生ズ

ル虞レアル部分ハ叮嚀ニ銹落シヲナシ本町ノ指定スル防銹液ヲ適當ト認ムル方法ニヨリテ塗布シ充分乾燥セシメタル後組立ツルモノトス

第八條 鐵蓋ハ良質ノ銑鐵ヲ用ヒテ鑄造シ氣泡其他鑄造上ノ缺點ナク全體端正堅固ニシテ蓋ノ嵌メ外シ圓滑ナルヲ要ス

制水瓣及排氣瓣鐵蓋ノ蝶番軸及防火栓鐵蓋ノ鎖ハ軟鋼ヲ以テ製作スルモノトス

第九條 各種ノ鐵蓋ノ文字ノ上面ト滑止線ノ上面及梓ノ上端ハ一直線上ニアルヲ要ス

制水瓣及排氣瓣鐵蓋ノ文字及滑止線ノ高サハ八分ノ一吋トシ滑止線ハ同心圓形ノモノタルベシ

防火栓鐵蓋ノ文字ノ周圍額ノ深サハ十六分ノ三吋トシ滑止線ハ菱形ニシテ間隔一時毎ニ上巾十六分ノ三吋底巾十六分ノ一時深サ八分ノ一時トス

第十條 製作品ハ本町ノ適當ト認ムル裝置方法ニヨリ各部製品検査竝一平方吋ニ付二百五十封度ノ水壓試験ヲ施シ漏水其他異狀ナキモノヲ以テ合格トス

但シ鐵蓋ハ製品検査ニ止ム

第十一條 供給者ハ自己ノ費用ヲ以テ前各條ノ検査及試験ヲ確實ニ施行シ合格品ハ運搬中ノ損傷ニ對シ相當ノ豫防ヲナシ本町指定ノ場所ヘ搬入スルモノトス

第十二條 本町當該係員ハ隨時製作工場ニ臨ミ任意場内ニ立入り検査並試験ヲ監督スルコトアルベシ

此場合總テノ検査及試験ニ關シ供給者ハ當町係員ノ指揮命令ニ從フモノトス
第十三條 製作品ノ受授ハ總テ本町鐵管試験場ニ於テ本町ノ費用ヲ以テ本仕様書ニ依リ更ニ各部分検査及水壓試験ヲ行ヒ檢收スルモノトス而シテ不合格品ハ直ニ本町水道徽章ヲ削除シ供給者ハ自己ノ費用ヲ以テ指定ノ期間内ニ場外ニ搬出スベシ

但シ部分検査ニシテ本町係員監督ノ下ニ検査済ノモノニ限り再検査ヲ行ハザルコトアルベシ

第十四條 一旦合檢トシテ受取リタル製作品ト雖モ不合格ノ點ヲ發見シタルト

キハ之ガ取消ヲ命ズベシ此場合供給者ハ之ヲ拒ム事ヲ得ズ

第十五條 検査終了迄ニ生ジタル製品ノ破損其他ノ損失ハ供給者ノ負擔トス

第十六條 供給者又ハ其代理人ハ製作品ノ檢收ニ立會フベシ若シ立會ハザルモ本町ノ施行シタル各種検査ノ方法並其結果ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ
第十七條 本仕様書及圖面其他ニ關スル疑義ハ總テ本町技師ノ判定ニ從フモノトス

電動唧筒、誘動電動機、配電器具、變壓器、並ニ附屬鐵管
及瓣類購入仕様書

一、本仕様書ニ依リ購入セントスル唧筒、電動機、配電器具、變壓器、並ニ附屬鐵管及瓣類ハ七臺分ニシテ内高壓三臺分低壓四臺分トス

納入据付場所及完了期日ハ左ノ如シ

(イ) 納入据付場所 大分縣中津町下宮永水源地當町指定ノ場所

(ロ) 納入据付其他完了期日 昭和二年十月十五日

二、供給者ハ各仕様書ノ各條並ニ別紙据付圖面ニ基キ設計スルモノナレモ製作者

設計上希望アルニ於テハ豫メ設計圖ヲ提出シ本町ノ承認ヲ經ベシ
 三、唧筒、電動機、配電器具、變壓器、並ニ附屬鏡管及瓣類製作完成シタル時ハ現場ニ搬入シ本町係員ノ試験及検査ヲ經タル上供給者ニ於テ据付並ニ敷設及取付工事ヲナスベシ

四、据付並ニ敷設及取付工事完了シタル時ハ供給者ニ於テ本町ノ指示スル方法ニ依リ試験設備ヲ施シ本町係員立會ノ上別項記載ノ能力及能率其他ニ關スル試験並ニ試運轉ヲ施行スベシ

五、前項記載ノ据付並ニ敷設及取付工事ハ勿論試験設備並ニ試運轉ニ要スル一切ノ費用ハ總テ供給者ノ負擔トス

但シ之ニ要スル電力ハ本町ヨリ之ヲ供給ス

六、本仕様書ニ關スル疑義並ニ明記ナキ事項ニ關シテハ總テ本町技師ノ解釋判定ニ從ヒ供給者ハ之ニ對シ異議ノ申立ヲナスヲ得ザルモノトス

(A) 電動唧筒

一、本唧筒ハ電動機ヲ直結シタルモノニシテ高壓及低壓唧筒ノ二種トシ其型類左

ノ如シ

(イ) 高壓唧筒ハ 二段「タービン、ポンプ」トシ

(ロ) 低壓唧筒ハ 複吸水「セントリヒューガル、ポンプ」トス

二、各種唧筒ノ要目ハ左表ノ如シ

全揚程	高壓唧筒	低壓唧筒
一三五尺		四〇尺
七五每分立方尺		六〇每分立方尺
七八「パーセント」以上		七五「パーセント」以上
六八「パーセント」以上		六四「パーセント」以上
三基		四基

三、吸入水頭ハ變化スルモノニシテ其範圍左ノ如シ

高壓唧筒	最小吸入水頭	最大吸入水頭
約 三、〇尺		約 一五、〇尺
約 (一) 五、〇尺		約 一六、五尺
約 二、五尺		約 一五、〇尺

- 四、高壓唧筒ヨリ直接町内ニ配水スルトキ高壓唧筒ハ全揚程百六十二尺ニマデ充分ニ揚水シ得ル能力ヲ有スルモノトス
- 五、唧筒ノ「ケーシング」ハ材質優良ノ鑄鐵ヲ以テ鑄造シ氣泡瑕瑾ナク完全ニ仕上ゲタルモノニシテ毎平方吋ニ附キ二〇〇封度以上ノ水壓試驗ヲ施行シ毫モ變形、漏水其他ノ異狀ナキモノタルベシ
- 六、「ガイド、ベーン」及「インペラー」ハ最モ適當ナル配合ノ「フオスホル、ブロンズ」ヲ以テ鑄造シ氣泡瑕瑾ナク精密ナル機械仕上ヲ施シ殊ニ「インペラー」ニアリテハ「バランシング」ヲ嚴密ナラシムベシ
- 七、鑄鐵製「エンド、カバー」ハ「スタツキング、ボツクス」ヲ附有セシメ各「ベヤーリング」ニハ二個ノ「オイレーシング」ヲ有スル安全自働注油裝置ヲ施スモノトス
- 八、唧筒軸ハ優良ナル軟鋼ニテ製作シ完全ナル機械仕上ヲナスモノトス
- 九、唧筒軸ト電動機軸トノ連結ニハ「フレキシブル、カップリング」ヲ使用スベシ
- 一〇、「ベツト、プレート」ハ良質ノ鑄鐵ヲ以テ極メテ堅牢ニ製作シ且ツ唧筒並ニ電動機ニ共通ノモノトシ、運轉ニ際シ震動等ニヨル變形其他ノ異狀ナキモノタルベシ

シ

- 一、唧筒ノ或部分ヨリ當然起ルベキ漏洩水、又必要ニ應ジ唧筒内ヨリノ排水ハ最モ適當ナル方法ニヨリ瓦斯管ニテ唧筒室外ニ排泄シ以テ唧筒ノ外部及電動機等ヲ濡濕セシメザルノ裝置ヲ施スベシ
- 二、「フート、バルブ」ノ本體ハ優良ナル鑄鐵ヲ以テ製作シ、其「バルブシート」ハ優良ノ砲金ヲ使用シ、且ツ附屬ノ「フトレーナー」ハ良質ノ鋼材又ハ眞鍮ヲ以テ製作スベシ

一三、「ガイド、ヴェーン」及「インペラー」ハ左記ノ豫備品ヲ納入スベシ

高壓唧筒ニハ「ガイド、ヴェーン」及「インペラー」 二 組

低壓唧筒ニハ「インペラー」 二 組

但シ豫備品ノ構造、寸法及品質ハ組立テアルモノト全ク同等ノモノタルコト

- 一四、「サクシヨン、バイブ」ヲ吸水井側壁ニ取付クベキ軟鋼製金物ハ各唧筒ニツキ壹組宛及高壓唧筒吸水井覆蓋ニ「サクシヨンバイブ」挿入用鐵蓋四個ヲ附屬スベシ

(B) 誘動電動機

一、本機ハ開放型三相誘導電動機トシ、高壓唧筒用トシテ捲線型低壓唧筒用トシテ籠型ヲ用キ別紙仕様書ノ唧筒ト共通ノ「ベツドプレート」上ニ於テ直結スルモノトス

二、各種電動機ノ要目ハ左表ノ如シ

出電周波 力 壓 力	各種 類 數	負荷ノ 轉 數	全負荷 回轉 ニ於ケル 力 効 率	臺 數	
				三基	四基
高壓唧筒用電動機	三〇馬力	二〇〇「ヴォルト」 五〇「サイクル」 連續運轉	一四五〇(毎分)以上 八八「パーセント」 八八「パーセント」	三	三
低壓唧筒用電動機	一〇馬力	二〇〇「ヴォルト」 五〇「サイクル」 連續運轉	一四五〇(毎分)以上 八六「パーセント」 八七「パーセント」	四	四

但シ効率及力率ハ輕負荷 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{2}$ 、及 $\frac{3}{4}$ 、ノトキノモノヲ記載シテ提出スベシ

- 三、各部ノ材料ハ優良ナルモノヲ用ヒ仕上其他完全ナルコト
 - 四、固定子及回轉子ハ完全ナル絶縁ヲ施シ成層鐵心溝中ニ嵌入セルモノニシテ總テ電氣的及機械的ノ接續堅牢ナルモノトス
 - 五、規定ノ電壓及周波數ニ依リ全負荷ヲ以テ連續運轉ヲナシ一定ノ速度ニ達シタルトキ捲線部ノ溫度上昇ハ周圍溫度攝氏四〇度トシ五〇度ヲ超過セザルハ勿論其他各部ノ溫度モ夫々標準溫度上昇度以下トス
 - 六、連續全負荷運轉後二五「パーセント」ノ過負荷ニ對シ、又ハ連續一〇「パーセント」ノ過負荷運轉後二時間二〇「パーセント」過負荷ニ對シ溫度上昇危險ニ達セズ且ツ其他何等ノ支障ヲ來タサルモノトス
 - 七、絶縁耐力ハ遞省規定ノ試験ニ充分耐フルモノトス
 - 八、電動機ニハ適當ナル起動力ヲ與フル爲メニ
 - 各三〇馬力電動機ニハ起動抵抗器 壹組宛
 - 各一〇馬力電動機ニハ起動切換開閉器 壹個宛
- ヲ附屬スルモノトス

(C)配電盤及器具

一、本配電盤ハ受電盤一面三〇馬力電動機盤一面及一〇馬力電動機盤一面計三面トス

但シ單相式五〇「キロ」變壓器四基(内一基ハ豫備)ヲ以テ屋外ニ於テ低壓ニ變壓シ屋内ニ引込ムモノトス從ツテ本配電設備中ニハ高壓側器具及避電裝置ヲ含マザルモノトス

二、各盤ハ乳色大理石ヲ用ヒ裏面結線「パイプ、フレーム」カード、ホルダー」及「バイロット、ランプ」等一切ヲ附屬スベシ

三、受電盤ノ取附器具ハ左ノ如シ

- (イ)電壓計(三〇〇V) 一個
 - (ロ)右用八點栓開閉器 一個
 - (ハ)電流計(六〇〇A) 三個
 - (ニ)三相式不平衡負荷用積算電力計 一個
- 但シ檢定濟ノモノトス

(ホ)右用變流器(五〇〇A) 二個

(ヘ)双極自働遮斷器(五〇〇A) 一個

但シ過負荷及無電壓トリップ附トス

(ト)三極單投及型開閉器(五〇〇A) 一個

但シ密閉「フューズ」附トス

(チ)バイロットランプ 一個

(リ)カード、ホルダー 一個

四、馬力電動機盤ノ取附器具ハ左ノ如シ

(イ)電流計(一五〇A) 三個

(ロ)三極單投及型開閉器(一〇〇A) 三個

但シ密閉「フューズ」附トス

(ハ)バイロットランプ 三個

(ニ)カード、ホルダー 三個

五、一〇馬力電動機盤ノ取附器具ハ左ノ如シ

(イ)電流計(五〇A)

四個

(ロ)三極單投及型開閉器(三〇A)

四個

但シ密閉「フューズ」附トス

(ハ)パイロットランプ

四個

(ニ)カード、ホルダー

四個

六、圖面ニハ明記セザレモ室外ヨリ主配電盤及配電盤ヨリ各電動機ニ至ル取付線ニハ凡テ適當ナル「ケーブル」ヲ用ヒ且ツ附屬品ヲ具備スベシ

(D)變 壓 器

一、變壓器ノ種類員數並ニ容量等ハ左ノ通りニシテ其据附場所ハ圖面ニ明記セズト雖モ水源地構内本町指定ノ場所ニ据附クベシ

種類 單相式油入屋外用

容量 五〇KV・A

臺數 四 臺

一次電壓 三、四五〇「ヴォルト」 三、三〇〇「ヴォルト」 三、一五〇「ヴォルト」

三、〇〇〇「ヴォルト」

二次電壓 二一〇「ヴォルト」 一〇五「ヴォルト」

周波數 五〇「サイクル」

二、負荷負荷、電圧、電流、電圧調整率、溫度上昇等ヲ記載シテ提出スベシ

(E)附屬鐵管及瓣類

一、附屬鐵管及瓣類ハ豫メ製作圖並ニ配置圖及取付圖ヲ提出シ本町ノ承認ヲ經ベシ

二、鐵管配置及瓣類取付ハ別紙圖面ニ基キ施行スルモノニシテ若シ供給者ニ於テ變更希望アル時ハ豫メ本町ノ承認ヲ受クベシ

三、附屬鐵管ハ全部鑄鐵製トシ淨水協議會規定ノ寸法ニ適應スルモノニシテ優良ナル材料ヲ以テ製作シ每平方吋ニ付キ二五〇封度以上ノ水壓ニ耐ヘ水道用トシテ何等缺點ナキモノタルベシ

四、弁類ハ「グレン」ノ「フィールド」型若クハ之ト同等以上優秀ナル型トシ鑄鐵管同様優良ナル鑄鐵材ヲ以テ製作シ其必要ナル部分ニハ良質ノ砲金ヲ使用シ摺動部

其他必要ナル部分ハ總テ機械仕上ヲ施シ安全弁ハ「スプリング」式トシ排氣瓣ハ自動的ニ管中ノ空氣ヲ排除スルノ構造タルベシ各鑄鐵管同様每平方吋ニ付二五〇封度以上ノ水壓ニ耐ヘ水道用トシテ何等缺點ナキモノタルベシ

五、鐵管繼手ハ「フランヂ」ニアリテハ鉛線及「バテ」ヲ用ヒ「ボールド」(軟鋼製頭部打出シ) 締メトシ承口ニアリテハ鉛及「ヤーン」ヲ用ヒ入念ニ接續シ瓣類ハ其繼手排氣瓣ヲ除ク外總テ「フランヂ」排氣瓣ハ捻込ミトシ入念ニ取付ケ鐵管部ノ部分ト共ニ每平方吋ニ付二〇〇封度以上ノ水壓ニ耐フルコトヲ要ス

但シ「ボールド」ヲ除ク外ノ繼手材料ハ總テ本町ヨリ之ヲ支給ス

六、鑄鐵管及瓣類ニハ本町水道部徽章製造年月日ヲ鑄出シ本町指定ノ防銹劑ヲ適當ナル方法ニヨリ塗布スベシ

ヴエンチユリミーター購入仕様書

一、ヴエンチユリミーター「ハ英國」ジョージケント「會社製ニシテ同會社型錄指示ノA_M型又ハB_M型壹組ニシテ「レコーダー」及「ヴエンチユリ」管其他附屬品ヲ具備セルモノタルベシ

二、ヴエンチユリミーター「ヲ取付クベキ主管ハ内徑十二吋ノ口徑ニシテ「ヴエンチユリ」管ノ兩端ハ何レモ「フランヂ」トナシ「ボールド」ヲ以テ締付クルモノニシテ「フランヂ」ノ寸法ハ別紙圖面ノ通りトス

三、「ヴエンチユリ」管ノ中心線ニ於ケル靜止水壓ハ配水塔ノ水位ニ因リ異ナルト雖最高約百〇二尺最低約八十七尺ナリトス

四、記錄表示水量ハ「キロリットル」ヲ以テ表シ一時間ノ最大流量ヲ三五〇「キロリットル」最小流量ヲ二五「キロリットル」トス而シテ最大、最小流量ノ比ハ一ト一四ノ割合トス

五、記錄表示器ト「ヴエンチユリ」管トノ連絡ハ引拔銅管ヲ用ヒ其ノ距離ハ約三十呎トス

但シ當町ノ都合ニヨリ其距離ヲ多少變更スルコトアルベシコノ場合ニハ請負單價ニヨリ請負金額ノ増減ヲナスモノトス

六、記錄圖表示ハ一週間毎ニ一枚トシ毎週月曜日正午之ヲ取換フルモノニシテ圖表紙ノ上部ニ「THE NAKATSU MUNICIPAL WATER WORKS」ト記入シ單位ハ「キロリットル」ト

ス

七、水壓圖表示ニ於ケル壓力ハ每平方センチメートルニ付「キログラム」ニテ表示スルモノトス

八、「ゲンチユリミーター」ノ計量誤差ハ三パーセントヲ超過セザルモノトス

九、圖表紙五ヶ年分記録用「ペン」五個、同「インク」五瓶ヲ附屬シ納入スルハ勿論其他使用上當然必要ノ附屬品ハ夫々相當數量添付スルモノトス

一〇、供給者ハ本器納入ノ上本町係員ノ指揮ニ依リ何時ニテモ直ニ据付ニ着手シ完成後完全ナル調整ヲ行フモノトス

但使用開始後滿壹ヶ年間供給者之ヲ保證シ機械ノ完全、据付ノ完備調整ノ正確ニ對シ責ヲ負フモノトス

一一、前條ニ要スル一切ノ費用ハ供給者ノ負擔トス

一二、本仕様書ニ關スル疑義並ニ記載ナキ事項ニ關シテハ總テ本町水道部技師ノ解釋判定ニ從フモノトス

納入据付期日ハ昭和二年七月末日ニシテ据付期日ハ其後本町ニ

於テ之ヲ指定ス

納入据付場所 大分縣中津町下宮永水源地構内本町指定ノ場所

濾過節制機購入仕様書

四 組

一、濾過節制機

一、本機ハ標示器「オリフェイス」浮標、分銅及「スタンドパイプ」其ノ他一切ヲ具備スルモノニシテ豫入製作圖ヲ提出シ本町ノ承認ヲ受クベシ

一、本機ハ別紙圖面ニ基キ水位差二〇センチメートルノ場合毎秒四八リットルヲ濾過シ此ノ場合濾過速度一晝夜ニ付五五メートルヲ示ス様製作スヘシ

一、前項ヲ基準トシ最大濾過速度一晝夜ニ付一〇メートル「最少ヲ壹メートル」トス

一、標示器ニハ濾過速度「メートル」流量毎秒「リットル」水位差「センチメートル」ニテ表示スル様完全ニ目盛スヘシ

一、本機納入ノ上ハ供給者ノ費用ヲ以テ之ガ据付及調整ヲナスヘシ

一、納入据付期日

納入期日ハ昭和二年八月三十一日ニシテ据付期日ハ其後ニ於テ本町之ヲ指

定ス

一、納入据付場所

大分縣中津町下宮永水源地構内本町指定場所

量水器購入仕様書

第壹條 本仕様書ニ依リ購入スル量水器ノ口徑別及納入期限別紙明細書ノ通りトス

第貳條 量水器ノ包匡ハ口徑七拾六耗以上ニアリテハ其品質鑄鐵又ハ之ト同等以上口徑七拾六耗未滿ニアリテハ黃銅又ハ之ト同等以上ノモノニシテ氣泡沙竅等ノ欠點ナキハ勿論之等ノ欠點ヲ補填ス可カラズ

第三條 口徑拾九耗以上ノ包匡ハ「ダブルケーシング」トナシ口徑七拾六耗以上ノモノニハ「バイパス」用トシテ別ニ左記口徑ノ量水器ヲ附屬セシメ自働弁ヲ裝置シ其作用ニ依リ少量ノ水ヲ使用スル場合ニハ「バイパス」量水器ヲ通過スル構造トナス可シ

メーン量水器

バイパス量水器

百〇二耗及七拾六耗

拾九耗

第四條 量水器ノ文字板ハ銅板ノ表面ニ白色ノ珪瑯質ヲ燒キ付ケ分度鮮明正確ニシテ點檢シ易ク且ツ容易ニ龜裂剝落セズ其目盛ハ圓形式ニシテ立方米突ヲ示シ十進法ニヨリ各種共左記ノ限度迄遞加正確ニ讀ミ得ルモノタル可シ而シテ文字板ノ目盛及其指針ハ壹立方米突以上ハ黑色以下ハ赤色トナスヘシ

量水器口徑	最大指示限度	最小指示限度	量水器口徑	最大指示限度	最小指示限度
百二耗 七十六耗	拾萬立方米突	一〇リットル	廿六耗 拾九耗	壹萬立方米突	一リットル
拾六耗 拾參耗	壹千立方米突	一リットル			

第五條 量水器ハ何レモ塵埃除器ヲ具備シ其兩端水管ニ接續スヘキ部分ハ口徑七拾六耗以上ノモノハ英國標準フランジ付口徑廿六耗以下ハ接合金具、ユニオン付ノモノニシテ量水器番號其他詳細ハ本町水道部ニ就キ照合シ其指揮ニ從ヒ製作スルモノトス

第六條 量水器内部ノ各部分ハ耐久力ニ富ミ容易ニ腐蝕又ハ毀損セザル材料ヲ

以テ製作シ其回轉作用ハ圓滑巧妙ニシテ磨損ヲ減ゼシムル構造タルベシ
 第七條 量水器ハ文字板面上凝着スル水氣其他ノ故障ヨリ起ル點檢上ノ困難ナ
 カラシムルト共ニ外部ヨリ指針又ハ機械ノ作用ヲ妨害スル事ヲ防ギ得ベキ封
 緘ヲ施シタルモノタル可シ

第八條 量水器ニハ左ノ表記ヲナス可シ

- 一、製造者ノ名稱又ハ記號及番號
- 二、水ノ入口及出口ヲ表示スル文字又ハ標識
- 三、量水器口徑

第九條 量水器ハ壹平方吋ニ付キ貳百五拾封度ノ水壓試驗ニ耐ヘ漏水其他ノ異
 狀ヲ呈セザルモノタルベシ

第十條 量水器ハ其前後ニ於ケル水壓ノ差壹平方吋ニ付四拾封度ナルキ左記以
 上ノ水量ヲ通過スルモノタルベク其指示量ノ實量ニ對スル差百分ノ貳以內ト
 ナスモノトス

量水器口徑	一時間ノ通水量	量水器口徑	一時間ノ通水量	量水器口徑	一時間ノ通水量
百〇二耗	一二五立方米突	七十六耗	七五立方米突	二十六耗	一〇立方米突
十九耗	三〇〇リットル	十六耗	五〇〇リットル	十三耗	六〇〇リットル

第十一條 量水器ハ左記水量ノ量水試驗ヲナシ其指示量ノ實量ニ對スル差百分
 ノ二以內タル可シ

但シ口徑四拾耗以下ノ第二試驗ハ指針ガ實量ノ二分ノ一以上廻轉ナスヲ以
 テ合格トス

量水器口徑	一時間ノ通水量		量水器口徑	一時間ノ通水量	
	第一試驗	第二試驗		第一試驗	第二試驗
百〇二耗	約二〇〇リットル	約二七〇リットル	七十六耗	約二〇〇リットル	約二七〇リットル
二十六耗	約二七〇リットル	約一〇〇リットル	十九耗	約二七〇リットル	約九〇リットル
十六耗	約二七〇リットル	約五〇リットル	十三耗	約二七〇リットル	約五〇リットル

第十二條 量水器ノ檢査ハ本町ノ適當ト認ムル方法ニヨリ當町試驗場ニ於テ之

ヲ行フト雖モ本町ノ都合ニヨリ納入人ノ工場ニ於テ之ヲ施行スルコトアルベシ此ノ場合ニハ其ノ費用ハ納入人ノ負擔トス且ツ又一旦合格トナリタルモノト雖モ指定場所ヘ納入ノ上不合格ノ點ヲ生ジタル場合ハ異議ナク取換ヲナスモノトス

第十三條 本町ノ都合ニヨリ本契約單價ヲ以テ契約總數ノ三割以内ノ追加ヲナスコトアルベシ此ノ場合ニ於テ納入人ハ何等ノ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ
第十四條 納入人ハ本町所定ノ規程ヲ遵守スルハ勿論本仕様書其他ニ關スル疑義ハ總テ本町技師長ノ判定ニ任ズルモノトス

純鉛購入仕様書

種別	形質	數量	單位	單價	金額
純鉛	生子型		封度		

一 納入期限 大正 年 月 日

一 納入場所 大分縣中津町中津驛附近本町水道部倉庫

右仕様書

- 一 購入スベキ純鉛ハ濠洲産生子型商標 B.H.A.S 印又ハ加奈陀産タマナツク印又ハ印度産 B.M. 印ニシテ不純物ヲ含有セザル純鉛塊タルベシ
- 一 本町ノ都合ニ依リ其數量ニ於テ一割以内ノ増減ヲナスコトアルベシ
- 一 コノ場合供給者ハ何等異議ノ申立ヲナスヲ得ザルモノトス
- 一 供給者ハ本町所定ノ諸規定ヲ遵守スルハ勿論疑義ヲ生ジタル場合ハ總テ本町技師ノ判定ニ任ズルモノトス

鉛管購入仕様書

- 第一條 購入スベキ鉛管ノ種類及數量納入期日納入場所ハ別紙明細書ノ通りニシテ本町ノ都合ニヨリ各種別ニ其數量ノ二割以内ヲ増減スルコトアルベシ
- 第二條 鉛管製作ニ使用スル材料ハ衛生並ニ保存上有害物ヲ含有セザル純良ノ鉛ヲ以テ全體等質ニ製作シタルモノタルベシ
- 第三條 鉛管ノ規定重量及管厚ハ左記ノ通りトス

鉛管ノ内徑	一呎當リ重サ	管 厚	一卷ノ長	摘 要
二分ノ一時	二、〇	1.90 ⁷ 1.100	八〇呎以上	但シ小數量、補順ニ限り定尺以下ノモノヲ許スコトアルヘシ
八分ノ五吋	二、五	2.00 ⁷ 1.100	七〇呎以上	
四分ノ三吋	三、〇	2.00 ⁷ 1.000	六〇呎以上	
	四、〇	2.15 ⁷ 1.000	五〇呎以上	
一吋				

第四條 鉛管ノ管厚ハ各部同様ノ厚サヲ有シ内外面共平滑ニシテ各種内徑ニ應ジ「タンピン」及槌ヲ以テ打延シテ龜裂ヲ生ゼズ每平方吋ニ付二百封度ノ水壓ニ耐ヘ漏水其他ノ異狀ヲ呈セザルモノタルベシ

第五條 鉛管ノ檢收方法ハ左記ノ通りトス
 一、鉛管ノ單位長ノ重量ガ規定重量ヨリ百分ノ五以上輕量ノモノハ不合格トス但シ合格限度以内ノ重量ト雖モ總延長ニ對シ總重量ニ不足ヲ生ズル場合ハ更ニ延長ヲ増加シ購入總重量ヲ納入スルモノトス
 二、納入鉛管單位長ノ重量ガ規定重量ヨリ大ナルトキハ購入總延長ヲ納入セシムルモノトス

ムルモノトス
 三、水壓試驗及重量ノ秤量ハ各卷ニ付キ之ヲ施行スト雖モ規定重量ニ對スル輕重ハ適宜任意數ヲ摘出シ試驗ノ上其平均數ヲ標準トシテ決定スルモノトス
 四、本試驗ハ本町水道部鐵管置場構内ニ於テ施工シ不合格品ハ直ニ搬出スルモノトス

第六條 供給人ハ本町所定ノ諸規定ヲ遵守スルハ勿論疑義ヲ生ジタル場合ハ總テ本町技師ノ判定ニ任ズルモノトス

第六 經營篇

第一章 中津町臨時水道部

臨時水道部は大正十五年十月一日より設置せられ、水道布設費は特別會計として取扱はれ、從て臨時水道委員設置規程、臨時水道部處務規程、同上職員給與規程、水道布設工事施行手續、其他事業經營に必要な諸規程を制定し、事業の執行に當れり。水道部組織は助役を以て部長に充て、庶務、工務、工事、會計の四係を置き、鐵管の購入、検査布設及水源地取水工事並に淨水場工事其他に關する事務を分擔せり。昭和三年四月通水以後に於ては水道課を置きて通常事務を執り居れり。而して該事業執行の主腦たりし前町長堀之内松十郎氏は昭和三年二月七日退職、同年三月二十四日助役大江富太郎氏町長に當選就職し、同月三十一日迄水道部長を兼務せり。水道委員會は重要事項を審議する爲め大正十五年十月一日の町會に於て水道委員七名豫備員四名を選擧し、其の任期は年度内とし、昭和二年度の事業執行に就

すは更に改選し人員は前期と同じ、而して昭和三年三月三十一日迄委員會を開催する事三十四回審議事項九十件以上に及べり。

第二章 諸 規 程

中津町臨時水道部設置規程

第一條 本町ニ臨時水道部ヲ置キ上水道布設ニ關シ一切ノ事務ヲ處理ス
 第二條 水道部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	一名	主事	一名	技師	二名
書記	若干名	技手	若干名	雇	若干名

第三條 技術上ニ關シ必要ニ應シ顧問及囑託ヲ置クコトヲ得

附 則

第四條 本規程ハ議決ノ日ヨリ施行ス

中津町臨時水道委員設置規程

第一條 本町上水道布設事業ニ關シ町村制第六十九條ニ依リ臨時水道委員ヲ置

ク

第二條 臨時水道委員ノ定數ハ七名トス 但シ別ニ四名ノ豫備委員ヲ置クコトヲ得

第三條 委員並ニ豫備委員ノ任期ハ每會計年度末ヲ以テ終了スルモノトス

第四條 委員並ニ豫備委員ニ對スル實費辨償ハ名譽職員費用辨償額及支給規程ヲ準用ス

第五條 委員ハ左ノ事項ニ關シ町長ノ諮問ニ應ズルモノトス

一、用地ノ買收ニ關スル事項

二、千圓以上ノ工事入札又ハ物品購入ニ關スル事項

三、工事ノ方法ニ關スル重要ナル事項

四、不用品賣却ニ關スル事項

五、事業費借入先及利率ニ關スル事項

六、其他町長ニ於テ必要ト認ムル事項

附 則

第六條 本規程ハ議決ノ日ヨリ之ヲ施行ス

中津町臨時水道部處務規程

第一條 水道部長ハ助役ヲ以テ之ニ充テ水道ニ關スル一切ノ事務ヲ處理シ部員ヲ指揮監督ス

第二條 水道部ニ左ノ係ヲ置ク

庶務係、工務係、工事係、會計係

第三條 係長ハ主事、技師、收入役ヲ以テ之ニ充テ部長ノ命ヲ受ケ各主管事務ヲ處理シ所屬員ヲ指揮監督ス

第四條 部長事故アル時ハ係長其ノ主管事務ヲ代理ス

第五條 係長事故アル時ハ次席者之ヲ代理ス

但工事係及工務係ニ限り相互ニ之ヲ代理シ兩係長共ニ事故アル時ハ本條ノ規程ニ依ル

第六條 各係ノ分掌スベキ事項左ノ如シ

庶 務 係

- 一、職員ノ進退ニ關スル事項
- 二、文章ノ收受發送ニ關スル事項
- 三、收支命令ニ關スル事項
- 四、町債ニ關スル事項
- 五、印章保管ニ關スル事項
- 六、他係ニ屬セザル事項

工 務 係

- 一、文書ノ編纂保管ニ關スル事項
- 二、統計及調査報告ニ關スル事項
- 三、豫算ノ編製、整理及精算ニ關スル事項
- 四、出勤簿ノ整理、當宿直及部内取締ニ關スル事項
- 五、土地物件ノ買收、借入及移轉ニ關スル事項
- 六、物品ノ購入及出納保管並ニ不用品處分ニ關スル事項
- 七、給與ニ關スル事項

- 八、工事又ハ人夫ノ供給請負ニ關スル事項
- 九、其他工務ニ關スル事項

工 事 係

- 一、測量設計ニ關スル事項
- 二、技術及工事ニ要スル機械器具ノ保管ニ關スル事項
- 三、營繕ニ關スル事
- 四、工事費豫算ノ調査並ニ精算ニ關スル事項
- 五、工事ノ實施及職工人夫ノ監督ニ關スル事項
- 六、工事出來形報告ニ關スル事項
- 七、其他工事ニ關スル事項

會 計 係

- 一、收入役附屬ニシテ水道部ニ關スル一切ノ收入支拂事務ニ關スル事項
- 第七條 部ノ事務ハ係主任ニ於テ立案シ關係アル係長合議ノ上部長ヲ經テ町長ノ決裁ヲ受クベシ

但シ急施事項ハ口頭ニテ申達シ處理スルコトヲ得

第八條 本規程ニ定ムルモノ、外本廳處務規程ヲ準用ス

附 則

第九條 本規程ハ大正十五年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

中津町臨時水道部職員給與規程

第一章 總 則

第一條 本規程ニ特ニ掲ゲザルモノハ凡テ中津町給料報酬手當支給規程及有給

吏員旅費額名譽職員費用辨償額支給並ニ諸給與規程ヲ準用ス

第二條 本規程ニ於テ職員ト稱スルハ臨時水道部關係職員ヲ謂フ

第二章 給料及手當

第三條 職員ノ給料ハ左表ノ範圍内ニ於テ町長其給與額

第四條 職員ノ手當ハ左表ニ依ル

但シ中途任免又ハ一ヶ月ヲ通ジテ一週間以上缺勤シタル者ニハ勤務日數ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第三章 旅 費

第五條 顧問及技師ニハ本規程第一條ニ掲グル諸給與規程中第二號表ニ依リ書記技手雇ニハ同第一號表ニ依リ之ヲ支給ス

第四章 宿直及夜勤賄料

第六條 職員ノ宿直又ハ夜業ヲ爲シタルトキハ左ノ賄料ヲ支給ス

但シ夜勤ハ上司ノ命令アリタル場合ニ限ル

一、宿直一度ニ付 金貳拾五錢 一、夜勤一度ニ付 金五拾錢

第七條 使丁又ハ給仕ニシテ宿直又ハ夜勤ヲ爲シタル時ハ左ノ賄料ヲ支給ス

但シ夜勤ハ上司ノ命令アリタル場合ニ限ル

一、宿直一度ニ付 金拾五錢 一、夜勤一度ニ付 金貳拾五錢

第八條 夜業賄料ハ左ノ區分ニ依ル

一、内勤事務ニ従事シタル者午後九時ヲ過グルトキハ半度分午後十一時ヲ過グルトキハ一度分ヲ支給ス

一、工事現場ニ於テ直接工事ニ従事シタル者午後九時ヲ過グルトキハ一度分午

後十一時ヲ過グルトキハ二度分ヲ支給ス

附 則

第九條 本規程ハ臨時水道部設置ノ日ヨリ之ヲ施行ス
別表一

中津町臨時水道部職員給與額

- 技師 年俸千貳百圓以上參千圓以下
- 書記 月俸四拾圓以上百圓以下
- 技手 月俸四拾五圓以上百貳拾圓以下
- 雇 月俸參拾圓以上八拾圓以下

別表二

中津町臨時水道部職員月額手當表

- 技師 月額參拾五圓以內
- 書記 月俸六拾圓以下ノ者 月額拾圓以內
- 同 月俸百圓以下ノ者 月額拾五圓以內

- 技手 月俸六拾圓以下ノ者 月額拾五圓以內
- 同 月俸百貳拾圓以下ノ者 月額拾八圓以內
- 雇 月俸四拾圓以下ノ者 月額六圓以內
- 同 月俸八拾圓以下者 月額拾圓以內

中津町臨時水道部職員執務時間及休日規程

一、部員執務時間ヲ左ノ通り定ム

自三月一日 至五月卅一日	自午前七時參拾分 至午後五時〇分	自九月一日 至十月卅日	自午前七時參拾分 至午後五時〇分
自六月一日 至八月卅一日	自午前七時〇分 至午後五時參拾分	自十一月一日 至二月末日	自午前八時〇分 至午後四時參拾分

但シ事務ノ都合ニ依リ上司ノ指揮ニ從ヒ晝夜ニ拘ラズ執務セシムルコトアル
ベシ

二、部員ノ公休日ヲ左ノ通り定ム

但シ事務ノ都合ニ依リ休日ヲ與ヘザルコトヲ得

公休一ヶ月二日以內及祭日並ニ十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄

水道敷設工事施行手續

第一章 總 則

- 第一條 水道敷設工事ハ凡テ本手續ニ據リ之ヲ實施スルモノトス
 - 第二條 工事施行方法ハ直營又ハ請負ノ二種トス
 - 第三條 工事ハ工事係ニ於テ既定ノ計畫ニ基キ實施設計書(第一號様式)仕様書及必要ニ應ジ平面圖縱橫断面圖竝ニ明細圖調製左ノ各項ヲ詳具シ工務係ニ回付シ其施行回議ヲ立案ス可シ
但シ決裁後設計其他ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
 - 一、施行方法(直營又ハ請負)
 - 二、工事日數
 - 三、着手及竣功時期
 - 四、竣功後保險ヲ付スル要アルモノハ其期間
 - 五、其他必要事項
- 前項ノ工事ニシテ請負ニ付スベキモノハ歩掛及金額記入ノ設計書ト然ラザル

モノトノ二通ヲ調製シ其歩掛及金額記入ノモノハ部長宛親展トシ其封皮左側ニ經伺書ト同一番號ヲ付シ經伺書ニ添付スベシ
實施設計ノ調製ニ方リ豫備品又ハ使用殘品不用品若クハ生産品ヲ使用セントスルトキハ設計書様式ノ記載例ニ據ルベシ

第四條 本手續ハ工用品ノ生産及運搬(運搬費支辨ノモノヲ除ク)事業ノ施行ニ準用ス

第二章 直營工事

第一節 工 事

- 第五條 直營工事ノ實施ハ凡テ本章規定ノ手續ニ據ルベシ
- 第六條 直營工事施行ノ決裁ヲ受ケタルトキハ工事係長ハ擔當員ヲシテ工事ヲ實施セシムベシ但シ事業ノ都合ニ依リ部長ハ別ニ主任者ヲ定メ工事ヲ實施セシムルコトヲ得
- 第七條 前條ノ命ヲ承ケタル工事擔當員ハ着手前工程表ヲ調製シ監督及職夫使役ノ方法ヲ定メ工事係長ノ承認ヲ受クベシ

第八條 工事ニ着手シタルキハ工事係長ニ於テ其旨直ニ工務係ヲ經テ部長ニ申報スベシ

第九條 工事係長ニ於テ設計變更ノ必要アリト認メタルキハ第三條ニ準ジ部長ニ申出ヅベシ但シ工法ニ變更ヲ來サズ且ツ設計豫算額ノ範圍内ニ於テ彼是流用シ得ベキ場合ハ工事係長ニ於テ專行スルコトヲ得ト雖其旨工務係ヲ經テ部長ニ申出ヅルヲ要ス

第十條 工事實施中既成部分ニ異狀ヲ來シ又ハ臨時災害ニ罹リタルトキハ工事擔當員ハ其狀況原因損害程度臨時處置シタル事項及善後ノ方法等ニ付キ意見ヲ付シ工事係長ニ即報スベシ

第十一條 工事擔當員ハ災害其他ノ事故ニ依リ豫定ノ期間内ニ竣功スルコト能ハザルモノト認メタルトキハ事由ヲ具シ豫メ竣功延期ヲ工事係長ニ申出ヅベシ

第十二條 工事擔當員ハ工事實施中其出來形ガ計畫圖ト差異ヲ生ズル時ハ多少ニ拘ラズ其都度之ヲ計畫圖ニ表示シ竣功圖作製ノ準備ヲ爲スベシ

但シ第九條ノ手續ヲ怠ラザルヲ要ス

第十三條 工事竣功シタルキ工事擔當員ニ於テ直ニ工事係工務係ヲ經テ部長ニ申報スベシ

第十四條 工事係ハ毎月二十日現在ヲ以テ第二號様式ニ依リ工程表ヲ調製シ其月末日迄ニ工務係ヲ經テ部長ニ報告スベシ

第二節 職夫使役

第十五條 職夫ハ工夫職工人夫ヲ總稱シ之ヲ備及供給ノ二種トシ備職夫ハ常備及臨時ニ區分ス

第十六條 工事擔當員ニ於テ常備職夫ヲ採用又ハ解備セムトスルトキハ成規ノ手續ヲナシ工事工務兩係ヲ經テ部長ノ承認ヲ受ク可シ

第十七條 工事費支辨ノ職夫ハ己ムヲ得ザル場合ノ外課程勞働ヲ爲サシムベシ
第十八條 工事係長ニ於テ職夫ノ増給ヲ必要トスルトキハ事由ヲ具シ部長ニ上申スベシ

第十九條 職夫ノ勤務時間ハ左ノ通り定ム但毎日一時間以内ヲ限リ休憩セシム

ルコトヲ得 但シ特別ノ規程アルモノハ各其所定ニ據ルベシ

三月一日ヨリ五月三十一日迄 午前七時三十分ヨリ午後五時迄

六月一日ヨリ八月三十一日迄 午前七時ヨリ午後五時三十分迄

九月一日ヨリ十月三十一日迄 午前七時三十分ヨリ午後五時迄

十一月一日ヨリ翌年二月末日迄 午前八時ヨリ午後四時三十分迄

第二十條 職夫始業時間ニ遅刻シタルトキハ左ノ割合ヲ以テ賃金ヲ減ズベシ

但シ事情ニ依リ當日就業セシメザルコトヲ得

一、始業時刻ヨリ三十分以内遅参シタルモノハ一日賃金ノ二十分ノ一

二、始業時刻ヨリ三十分以上一時間以内遅参シタルモノハ一日賃金ノ十分ノ一

三、始業時刻ヨリ一時間以上遅参シタルモノハ一時間毎ニ一日賃金ノ十分ノ一

但シ一時間ニ滿タザル端數ハ一時間ト算定スベシ

第二十一條 職夫勤務中早引シタルキハ其時刻ヨリ後ノ一時間若クハ其端數毎

ニ一日賃金ノ十分ノ一ノ割合ヲ以テ減ズベシ

第二十二條 雨天其他ノ事故ノ爲メ服役時間ヲ減縮シタルキハ服役一時間ニ滿

タサルモノ及一時間以上一時間毎ニ一日賃金ノ十分ノ一、八時間以上ニ涉ルモノハ一日分ノ割合ヲ以テ其ノ賃金ヲ支給スルモノトス

第二十三條 職夫ヲ定時間外ニ涉リ勤務セシメタルキハ一時間左ノ割合ヲ以テ

歩増ヲ支給シ一時間未滿ハ之ヲ切捨ルモノトス

一、終業時刻ヨリ午後九時迄 一日賃金ノ百分ノ十

一、同 午後十二時迄 同 百分ノ十五

一、同 午前三時迄 同 百分ノ二十

一、同 午前六時迄 同 百分ノ十五

一、同 始業時迄 同 百分ノ十

第二十四條 水中作業及雨中作業其他至難又ハ危險ノ作業ニ従事セシメタルト

キハ勤務時間ノ内外ヲ問ハズ一時間毎ニ左ノ割合ヲ以テ歩増ヲ爲スコトヲ得

水中作業 雨中作業

自四月一日賃金百分ノ十以内 一日賃金ノ百分ノ十以内

自十二月一日賃金百分ノ二十以内 一日賃金ノ百分ノ十五以内

自三月一日賃金百分ノ二十以内 一日賃金ノ百分ノ十五以内

水中雨中重複ノ場合ハ合算歩増ヲナスモノトシ潜水夫及其屬員ニハ之ヲ適用セズ

至難 一日賃金ノ百分ノ十以内災天作業休憩時間ヲ與ヘザル場合モ之ヲ適用ス

危険 一日賃金百分ノ五十以内

但シ危険程度ニ依リ工事係長ノ承認ヲ經テ定ムベシ

第二十五條 監督者ノ許可ヲ得ズシテ早引シ又ハ三時間以上遅參シタルモノハ缺勤者ト見做シ當日ノ賃金ヲ支給セザルモノトス

第二十六條 工事擔當員職夫ヲシテ定時間外ニ涉リ就業セシメントスルキハ特別ノ場合ヲ除キ工事係長ニ申報スベシ

第二十七條 工事擔當員ハ工事係長ノ承認ヲ受ケ工務係ヲ經由スルニアラザレバ職夫ノ勞働程度ニ依リ賃金歩合ヲ定ムルノ方法ヲ用フルコトヲ得ザルモノトス

第二十八條 工事係長ハ現場監督員ヲシテ出役職夫ノ勤怠ヲ監督セシムルハ勿

論毎日午前及午後各一回以上其出役職夫ヲ點檢セシメ遲參者若クハ早引者アルキハ其時間及事由ヲ出而簿又ハ出勤簿ニ記載スベシ

第二十九條 工事擔當員ハ供給人員ヨリ第三號様式ノ供給職夫見認簿ヲ提出セシメ其日ノ出而人員及實働人員ヲ記入證印ノ上之ヲ供給人員ニ交付スベシ

第三十條 工務係長ハ指定ノ期日ニ於テ工事毎ニ備職夫賃金支出内譯書及供給職夫出而調書ヲ調製シ職夫供給人員ノ賃金請求書ヲ纏メ之ヲ部長ニ差出スベシ

第三十一條 工事擔當員ニ於テ職夫中不都合ノ行爲アリト認メタルキハ工事係長ニ申報スベシ

第三十二條 工事擔當員ハ工事現場便宜ノ箇所ニ職夫ノ勤務心得勤務時間賃金下渡時期其他必要ノ事項ヲ揭示シ職夫ヲシテ之ヲ會得セシムベシ

第三十三條 職夫自己ノ重大ナル過失ニヨルニアラズシテ業務上傷痍ヲ受ケ療養ヲ要スベキモノ又ハ死亡シタルモノアルキハ工事擔當員ハ醫師ノ診斷ヲ受ケシメ其死傷シタル日時原因職氏名等ヲ詳記シ工事係長ヲ經テ部長ニ申報スベシ

第三節 工用材料及工具品

第三十四條 工用材料及工具品ノ受拂保管ハ本節ニ規定セルモノ、外凡テ物品取扱規程ニ依ル

第三十五條 第六條ニ依リ實施ヲ命ゼラレタル工事所要ノ材料及工具品ハ工事擔當員ニ於テ其員數及使用時期等ヲ詳具セル調書ヲ作製シ工事係長ヲ經テ工務係ニ提出スベシ

工務係長ハ前項ノ調書ヲ審査シ當該工事ニ使用スル材料ヲ調達スベシ

第三十六條 工事係前條ノ工用材料及工具品ヲ受領シタルトキハ所定ノ帳簿ニ登載シ設計毎ニ其出納ヲ整理スベシ

前項ノ規定ハ工事係管掌ノ許ニ生産セル材料及工具品ニ準用ス

第三十七條 工事監督者ニ於テ工事材料ノ使用ニ際シ工事設計書ノ仕様書ニ適合セザルモノ又ハ瑕疵アルモノヲ發見シタルトキハ其使用ヲ停止シ工事係長ニ申告シ指揮ヲ受クベシ

第三十八條 第三十六條ノ受領材料ニシテ設計ノ變更其他ノ事由ニ依リ所要ナ

キニ至リタルキ又ハ工事竣功シ殘餘アルキハ其品目數量事由等ヲ部長ニ申報スベシ

工事材料ヲ轉用(假令濾過池費材料ヲ同一科目淨水費配水池工事費ニ使用)ノ必要生ジタルトキハ工事係ヲ經テ部長ノ承認ヲ受クベシ 但シ其轉用ガ二工場以上ニ涉ルトキハ各主任連署シ其手續ヲナスベシ

前項ノ轉用承認ヲ受ケタルトキハ轉出スベキ節ニ屬スルモノハ返納書ヲ提出シ轉入スヘキ節ニ屬スルモノハ請求書及領收書ヲ提出スベシ 但シ返納請求共何レモ轉用ニ因ル旨付記スルヲ要ス

第三十九條 工事擔當員ハ一旦工事ニ使用シタル材料ノ不用ニ歸シタルモノニシテ其形質ヲ變ジタルモノ又ハ既設工事ヲ取毀シタル爲メ引上品アルキハ之ヲ不用品トシテ第四號様式ニ依リ不用品調書ヲ作り工事係長ニ申報スベシ 工事係長前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一、他ノ工事材料トシテ使用ノ見込ナキモノハ工事擔當員ヲシテ不用品調書ノ寫ヲ添へ現品ヲ工務係ニ送付セシム 但シ現品所在地ニ於テ賣却其他ノ處分

ヲ爲スヲ利便ト認ムルモノアルトキハ其旨附記スベシ
二、他ニ轉用見込アルモノハ其ノ旨意見ヲ具スベシ

第四十條 工事中產出シタル材料アルトキハ其工事又ハ他工事ニ用途アルモノ
ハ評價ノ上其旨付記ノ上申告スベシ

第四節 精 算

第四十一條 工事竣功シタルキハ第五號様式ノ工事竣功精算明細書及成工圖ヲ
提出スベシ當該年度内ニ工事竣功セズ其一部ヲ翌年度ニ繰越ス場合ニ於テハ
其既成分ニ對シ第五號様式ノ工事竣功精算明細書ヲ調製シ之ニ既成部分ノ成
功圖ヲ添付シ部長ヲ經テ町長ニ提出スベシ

第五節 簿 冊

第四十二條 工事係ハ工事臺帳工事設計書圖目錄簿ヲ備ヘ之ヲ整理スベシ但シ
部長ノ指示ニヨリ他係ヲ以テ整理セシムルコトヲ得

第四十三條 工事係ハ左ノ簿書ヲ整理スベシ

常備職夫出勤簿、工事野帳、工事日表、工事出來形臺帳、材料整理簿、不用材料整理簿、

供給職夫出面簿、工場日誌各前號ノ外部長ノ指定シタル簿冊又ハ工事施行又ハ
竣功後必要ト認ムル雜書綴

第四十四條 工事臺帳ハ別ニ定ムル様式ニ準ジ調製シ工事毎ニ登録整理スベシ

第四十五條 常備職夫ノ出勤簿ハ第六號様式ニ依リ調製シ職夫出勤シタルトキ
ハ自ラ捺印セシメ且増減歩ヲモ記入スベシ

第四十六條 不用材料整理簿ハ物品取扱規程附屬消耗品出納簿ノ様式ニ準ジ調
製シ第四十條ノ物品ト別冊ニ區別登載シ其受拂ヲ整理スベシ

第四十七條 日誌及工事日誌ニハ工事中ノ出來事、天候、往復事項重ナル來訪者其
他工事ニ關スル事項ヲ掲載スベシ

第四十八條 工事野帳ハ第七號様式ニ依リ工事監督員ニ於テ各工種別ニ月日ノ

工程使用材料備又ハ供給職夫人員ヲ記入スベシ

一、前項朱書材料ノ單價ハ購入又ハ生産價格ニ依ル

但シ無償品又ハ價格減少ノモノハ評價格ニ依リ其旨備考欄ニ記入スベシ

第三章 職員

前々町長	菊池平次郎	(大正十四年二月二十六日満期)
前町長	堀之内松十郎	(昭和三年二月七日辭職)
町長	大江富太郎	(昭和三年三月二十四日當選就任)
助役	三木作次郎	(昭和三年三月二十四日當選就任)
臨時水道部長	大江富太郎	(昭和三年三月二十四日町長ニ當選就任シタルモ同月三十一日迄兼務ス)
顧問	澤井準一	(大正十五年十月一日臨時水道部顧問囑託)
庶務係長	三木作次郎	(大正十五年三月三十一日臨時水道部庶務係長兼務ヲ命ス)
會計係長	直田重太郎	(大正十五年三月三十一日臨時水道部會計係長兼務ヲ命ス)
工務係長	北川延彦	(大正十五年三月三十一日臨時水道部工務係長兼務ヲ命ス)
水道課長	中敬二	(大正十五年三月三十一日臨時水道部水道課長ヲ命ス)
書記	岩田盛雄	(大正十五年三月三十一日臨時水道部書記ニ任ス)
書記	藤富秀雄	(大正十五年三月三十一日臨時水道部書記ニ任ス)

技手	井場 雛吉	(大正十五年十月二十四日臨時水道部技手ニ任ス)
技手	齋藤 謙三	(昭和三年六月四日御用濟)
技手	西田 太平	(大正十五年三月三十一日臨時水道部技手ニ任ス)
技手	戸梶 貞義	(昭和三年八月十五日御用濟)
技手	中家 壽雄	(大正十五年十一月八日臨時水道部技手ニ任ス)
技手	安部 弘通	(昭和三年八月二十五日御用濟)
技手	新見 芳雄	(昭和三年九月二十八日臨時水道部技手ニ任ス)
雇	一ツ松 加美惠	(昭和二年十二月三十一日臨時水道部雇ニ任ス)
雇	加來 龍吉	(昭和三年八月三十一日御用濟)
雇	井上 一鶴	(昭和三年八月三十一日御用濟)
兼務書記	白木 原米造	(大正十五年十月十一日臨時水道部庶務係兼務ヲ命ス)
同	大塚 繁造	(昭和三年三月三十一日同上殘務整理兼務ヲ命ス)

第七 竣工篇

第一章 起工及竣工

大正九年五月より水道布設の調査に着手し、大正十二年四月二十三日工事費二十八萬餘圓を以て之が布設認可の申請を爲し、大正十五年三月二十六日目論見變更の認可を申請したるに、同年九月二十一日付を以て認可せられ、翌十月一日水道部設置と同時に工事に着手し、昭和三年三月三十一日竣工、残務整理期間を算入すれば九箇年を要したるも、施工の前後に於ける調査、準備及び残務を除き、實際の工事施行期間は十八ヶ月を要せり。此間幾多の難關に遭遇したるも幸に豫期以上の成績を得て、竣工昭和三年四月より通水せり。

起工式 大正十五年十一月六日午前十時より水源地に於て起工式を舉行し、式後同地に於て祝賀の宴會を催し、午後一時より市内十四ヶ所の各神社に於て奉告祭を行ふ。

此日天氣快晴にして參列者參百餘名を算す。

起工式に於ける式辭

國民保健ノ根本問題トシテ防疫衛生上ノ緊要案件トシテ飲料水改良ノ急務ナルコトハ言ヲ俟タザル處デアリマス。特ニ民衆ノ集團的生活團體タル都市トシテハ衛生上防火上水道ノ布設ハ實ニ必要缺グベカラザルモノデアリマス。茲ヲ以テ各地ノ大小都市ハ爭フテ上水道ノ布設ニ勉メ政府並ニ府縣ニ於テモ亦之ガ經費ニ對シ相當ノ補助ヲナシ指導監督ニ力メ居レル次第ト存ジマス。我中津町ハ古來概シテ井水ノ水質良シカラザルノミナラズ水量又豊富ナラザルニヨリ補給水トシテ大井手堰ノ水ヲ引キ御水道トシテ飲料ニ供シ居リシモ近代的都市ノ衛生設備トシテ不完全極マルモノナルコトハ申ス迄モアリマセヌ。況ンヤ水質ノ不良ニ基因スルチブス赤痢等ノ惡疫ハ殆ンド風土病ノ如ク頻繁ニ發生アリ一面防火ニ必要ナル水源ヲ缺グノ不便アリ從テ完全ナル上水道ヲ布設シテ飲料ニ防火ニ其便益ヲ得ントスルコトハ町民多年ノ宿望デアリマシテ大正七年以來屢々調査計畫スル所アリシモ實現ニ至ラズ漸ク大正十二年

度ニ於テ豫算ヲ定メ計劃ヲ具シ其筋ニ出願ノ運トナリマシタ所政府ニ於テモ必要ヲ認メラレ大正十五年度豫算ニ於テ相當補助額ヲモ決定シ吳レタノデアリマスガ昨春四月豊田大江ノ兩隣接村ヲ併合シ町域擴大人口亦二萬五千ヲ算スルニ至リマシタニ付テハ在來ノ計劃ハ之ヲ適當ニ擴張變更スルノ必要ヲ認メマシテ本年三月之二件ヲ五十五萬八千八百圓ノ豫算ヲ定メ計劃ヲ具シ内務大藏兩大臣ニ申請シマシタ處大分縣廳ヲ始メ干係官衙ノ援助ト全町一致ノ後援トニ依リ大正十五年九月二十一日四十四萬五千圓ノ起債許可ト共ニ布設認可ノ指令ニ接シ今日ノ佳辰ヲトシ大分縣知事閣下始メ多數來賓ノ臨場ヲ辱フシ茲ニ起工式並ニ地鎮祭ヲ執行スルニ至リマシタコトハ誠ニ慶賀ニ堪ヘザル處デアリマス此上ハ直接關係従事員ヲ督勵シ誠意熱心以テ事ニ當リ神明ノ加護ト全町ノ後援トニ依リ豫定ノ如ク大正十六年度以内ニ完全ナル竣工ヲ告ゲ全町均シク其ノ幸福ヲ享有センコトヲ祈リマス

大正十五年十一月六日

中津町長 堀之内 松十郎

祝 辭

上水道新設ノ企劃成リ本日ヲ以テ起工ノ式典ヲ舉ゲラル惟フニ當中津町ハ縣下商業ノ樞軸ニシテ町勢年ト共ニ發展シ各年隣接村ヲ合併シ戸數人口著シク増加シ用水ノ需用頓ニ増加シタリト雖之ガ施設ノ見ルベキナク遺憾トスル所ナリキ茲ニ總工費五拾餘萬圓ヲ以テ水道布設ノ計劃樹立シ諸般ノ準備ヲ全フシ工事着手ノ緒ニ就ク誠ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ
 工程豫期ノ如ク成ルニ於テハ保健ニ衛生ニ産業ニ防火ニ亦一段ノ福祉ヲ實現シ本町ノ繁榮期シテ俟ツベキモノ多キコト余ノ確信スル所ナリ庶幾倍々奮勵以テ本事業ヲ一日モ速ク竣成セシメラレンコトヲ一言以テ祝辭トス

大正十五年十一月六日

大分縣知事正五位 田 寺 俊 信

祝 辭

大正十五年十一月六日ノ吉辰ヲトシ水道布設ノ起工式ヲ舉グ余其席ニ列スル

ヲ以テ所感ヲ叙ス

回顧スレバ我中津ハ縣下第一ノ大藩ニ於ケル物資ノ供給地トシテ繁華般賑文化ノ中心タリシガ時勢ノ變遷ハ長ニ其雄飛ヲ免サズ今ヤ縣下三大都市ト稱スルモ漸ク三位ヲ保ツニ過ギズ豈ニ感慨ナキヲ得ンヤ是レ別府ノ天惠ノ靈泉アル在リ大分ノ地理ノ優越セル自然ノ結果ニ外ナラザルナリ矣然リ而シテ此ノ自然ノ結果ヲ傍觀シタルニハアラズ夙ニ紡績會社ヲ興シ工業ヲ盛ニシ鐵道ヲ敷設シ交通ノ便ヲ開ク等天惠地利ノ缺陷ヲ補フコトニ孜々シタリ加之多年水道布設ノ急ヲ認メ畫策盡瘁遂ニ今日ノ盛典ヲ舉グルニ至ル努力斯ノ如シ市制施行亦遠キニアラザル可シ慶賀何ゾ堪ヘン歡喜措ク能ハズ一言以テ祝辭トス

貴族院議員 平 田 吉 胤

右の外大分縣會議員三雲尙衛、大分市長高田保、別府市長神澤又市郎、中津稅務署長司稅官香月友一、東吉富村長矢頭軍司、中津町會議員總代東岩二郎諸氏の祝辭ありたり。

第二章 通水式

昭和三年四月二十八日の佳辰をトして通水式を行ふ。此の日は中津町が將來大中津市を建設するに當り第一步を踏み出したる榮光に輝くの日なり。此日通水記念として全町を擧げて美々たる裝飾を施し各所に見立細工等を造り、二十八日より三日間に亙りて一般の景氣を添ふると共に、拵舞雀躍空前の賑を呈せり。式は同日午前十時より水源地淨水場内に於て舉行せらる。參列者は各方面の關係者六百餘名最も崇嚴裡に終れり。別席に於て祝宴は催され、午後一時よりは市内十四箇所の各神社に奉告祭を行へり。

當日の祝辭祝電は枚舉に遑あらず、左に其の二三を掲ぐ。亦以て來賓諸氏の當時に於ける感懷の一端を窺ふに足るべし。

式 辭

茲ニ本町上水道ノ通水式ヲ舉行スルニ方リ大分縣知事閣下ヲ始メ多數諸賢ノ臨場ヲ忝フセルハ洵ニ光榮トスル處ナリ

抑モ我中津町ハ本縣主要ノ商工市街地タルニモ拘ラズ古來良水ニ乏シク生活上ノ不便ト衛生上ノ不安トハ前途ノ發展ヲ阻害スルコト尠カラズ町民ノ常ニ遺憾トスル所ナリシヲ以テ本町ハ去ル大正七年以來屢々上水道ノ敷設ニ關シ調査計畫スル所アリシモ機運熟スルニ至ラズ大正十二年之ガ敷設ヲ議決シ諸般ノ手續ヲ了シタルモ關東ノ震災ニ遭遇シテ一頓挫ヲ來シ大正十四年隣村ノ合併ト共ニ設計ヲ變更シ大正十五年十月工ヲ起シ爾來順調ノ歩ヲ辿リテ竣工ヲ告グルニ至レリ而シテ水質ハ純良ニ水量亦豊富ナリ是ニ於テカ町民ノ保健ハ増進シ火災防備ノ安全ハ保障セラレ以テ文化生活ノ慈光ヲ仰グニ至レリ惟フニ是レ偏ニ國縣費ノ補助低利資金ノ供給等ニ由ルモノナリト雖モ抑モ亦前任町長並ニ町會議員諸氏ノ熱誠ト町民各位ノ諒解ト相俟テ今日此ノ盛典ヲ舉グルニ至レル所以ニシテ茲ニ謹ンデ深厚ナル謝意ヲ表ス庶幾クバ耶馬溪山ノ水永ヘニ清ク松ノ瀨ノ風光麗カニ本町ヲ舉ゲテ長ク此ノ惠澤ニ浴セシメンコトヲ聊カ所懐ヲ述ベテ式辭トス

昭和三年四月二十八日

中津町長 大江富太郎

工 事 報 告

本町上水道布設工事ハ大正十五年十月十一日工ヲ起シ爾來工程着々進捗シ本年三月三十一日其ノ工ヲ竣ヘ本月二日ヨリ市内一般ニ給水ヲ開始スルニ至レリ此工費豫算總額ハ五拾參萬六千圓餘ニシテ工事ノ主ナルモノハ取水場一、唧筒場一、濾過池四、貯水池二、配水塔一、取水唧筒三臺、送水唧筒三臺、汚水唧筒一臺、配水管ノ總延長壹萬八千七百四拾間、防火栓百五拾個、其他淨水場鐵管ノ敷設等ナリ右工事ノ概要ヲ報告ス

昭和三年四月二十八日

水道課長 中 敬 二

祝 電

通水式ヲ祝ス

內務大臣 鈴木喜三郎

前町長祝辭

當町上水道工事新ニ成リ本日ヲトシ通水ノ式ヲ行フ誠ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ抑モ水道ハ文化ノ象徴ニシテ衛生上防火上都市生活ニ缺グベカラザル要具ナリ惟フニ當町ハ古來水質純良ナラズ殊ニ町内數百戸ハ在來ノ水道即チ其上流ニ於テ何等ノ淨化設備ナキ三口井堰ノ分流水ヲ飲料ニ供シ居タル程ナリ之ヲ以テ衛生狀態甚ダ宜シカラズ流行的ノ胃腸病殆ンド風土病的ニ浸潤シ居タルトナリ居リタル所ナルガ前々町長菊池平次郎氏ハ大正十一年度町豫算ニ於テ之レガ敷設調査費ヲ計上シ大阪水道衛生會社ニ依頼シ調査ヲ爲シタル結果大正十二年度ニ於テ總工費二十八萬圓ノ豫算ヲ以テ敷設出願ヲ爲シ置キタル所未ダ認可ニ接セザル内同氏ハ退職シ大正十四年三月不肖乏シキヲ中津町長ニ受ケタルガ同年四月一日ヲ以テ豊田大江二村ヲ併合シタル爲メ給水區域ノ擴大ヲ來シ自然水道計畫ヲ變更スルノ要アルノミナラズ前計畫ニテハ財政緊縮ノ折柄勉メテ少額ノ經費ニテ事業ノ完成ヲ期シタルヨリ水源ヲ近距離ナル山國川ノ下流金谷堤防ノ附近ニ取リタル爲メ滿潮ノ際海水浸入ノ惧アルノミナ

ラズ濾過貯水ノ設備ナク所謂簡易水道ニシテ水壓ノ點亦懸念ニ堪エザリシヨリ町百年ノ大計上根本的ニ設計變更ノ必要ヲ認メ町會ニ圖リ其ノ贊同ヲ得テ斯道ノ泰斗タル前大阪市水道部長澤井準一氏ニ調査並ニ計畫ヲ依囑シ水源ヲ現在ノ松ノ瀬ニ取リ濾過池貯水池並ニ配水塔等ヲ設クルコト、シ總工費金五十五萬圓ヲ以テ理想的完全ノ水道ヲ敷設スルニ決シ大正十五年三月町會ニ附議シ滿場一致ノ贊成ヲ得テ直ニ主務官廳ニ敷設目論見變更及ビ起債認可並ニ國庫及ビ縣ニ對スル補助ノ出願ヲ爲シタル所幸ニシテ各方面ノ諒解ヲ得テ同年九月二十一日之レガ認可並ニ許可ノ指令ニ接シ越エテ十一月六日地鎮祭並ニ起工式ヲ舉ゲタル本工事ハ實ニ中津町未曾有ノ大工事ナリシヲ以テ其ノ工程上ノ憂慮少カラザリシモ爾來十有八ヶ月ニシテ豫定ノ如ク工事ヲ終ヘテ通水シ衛生ニ防火ニ絶對安全ノ目的ヲ達シ茲ニ全町歡呼ノ中ニ通水ノ式ヲ舉行サル、ニ至リシハ誠ニ衷心慶賀ニ堪エザル所ナリ而シテ其ノ今日アルニ至リシハ直接工事關係者タル前水道部長現町長大江富太郎氏顧問澤井準一氏技師長北川延彦氏技師中敬二氏並ニ井場齋藤兩技手等

ニ於テ誠心誠意不肖ヲ助ケテ努力盡瘁ノ賜タルハ勿論ナルモ内ハ町會議員各位ニ於テ一致協力終始熱心懇篤町當局ヲ補助鞭撻シテ工事ノ完成ニ勉メ外ハ中央地方關係官憲ノ援助ト町民一致同情ノ結果ニ外ナラザルナリ不肖曩ニ竣工ニ先テ其職ヲ退キタルモ本日此ノ盛典ニ列シ感慨無量ナルモノアリ庶幾クハ本水道ニヨリ全町民ノ幸福ヲ増進シテ大中津市ヲ建設シ現在ニ數倍スル人口トナリ水量ノ不足ヲ訴ヘ更ニ規模廣大ナル増設工事落成式ヲ舉グル日ノ速カニ來ランコトヲ望ムヤ切ナリ聊カ所感ヲ陳テ祝辭ト爲ス

昭和三年四月二十八日

堀之内 松十郎

祝 辭

茲ニ上水道ノ開通ヲ見ルニ至リ本町多年ノ宿望ヲ達成シタルハ誠ニ欣幸トスル所ナリ

惟フニ民衆ノ集團的都市生活ヲ營ムニ當リテハ必ズ之ニ適應セル特殊ノ施設ナカルベカラズ就中上水道敷設ノ如キハ其最タルモノニシテ之ヲ衛生及産

業ノ上ヨリ觀ルモ將タ財産保護ノ上ヨリ察スルモ頗ル緊要ノ事タリト信ズ今ヤ我町ハ隣接村ノ合併ニ伴ヒテ其ノ面目ヲ一新シ商工ノ業駿々トシテ發展ノ途ニ在リ然レドモ之ヲ他ノ都市ニ比スレバ尙遜色少ナシトセズ蓋シ其因由スル處多クアリト雖モ抑モ亦時代ニ順應セル文化的施設ニ缺グル處アルガ爲ナルベシ此ノ意味ニ於テ水道ノ完成ハ本町ノ伸展ニ一段ノ速度ヲ加ヘタルモノニシテ一面市制施行ノ前提トシテ同慶ニ堪ヘザル所ナリ庶幾クバスノ機ヲ逸セズ竿頭更ニ一步ヲ進メテ諸般ノ社會的施設ヲ完備セシメ全町ヲシテ文化ノ惠澤ニ浴セシメン事ヲ茲ニ本日ノ盛典ニ臨ミ所感ヲ述テ滿腔ノ祝意ヲ表ス

昭和三年四月二十八日

通水式協賛會長 佐藤 寅二

祝 詞

中津町上水道の工事成り茲に本日をとし通水の盛典を舉行せらるゝに當り其の席末に列するの光榮を得たるは予の頗る欣幸とする所なり
惟ふに水道敷設は都市文化施設中最も喫緊なる事業にして市民は之によりて

健康の増進、公衆衛生の維持、防火上の利便等、其の享くる福祉極めて大なるものなり。當町此に觀るあり、巨費を投じて、上水道の敷設を畫し、工を起して、十數閱月こゝに、其の業全く成りて、文化都市たる面目を革め、新興の意氣旺盛せるものあり。獨り町民各位直接の利便を祝福するのみならず、榮えある歴史を有する當地將來の發展上資するところ蓋し甚大なるものあるべきを信じ、寔に慶賀に堪へざるなり。冀くば局に當る者は、之が維持管理に最善の意を拂はれ、全町民亦思を大局に注ぎ、舉つて其の利用に努め、以て本水道敷設の意義を發揮するに遺憾なからしむことを聊か蕪辭を述べて祝詞とす。

昭和三年四月二十八日

大分市長 高田保

祝辭

公衆衛生ノ途多岐アリト雖モ完全ナル上水設備能ク飲料水ノ純潔ヲ保ツガ如キハ其ノ最タルモノト謂フベシ故ニ大小ノ都市是ガ設備ヲ望マザルモノナキモ巨額ノ工費ヲ要スルガ爲メ之ガ施設ヲ爲ス能ハザルモノ多シ本町多年其憾

ヲ同フセシガ茲ニ町民ノ奮勵ト當局ノ經營ト相俟ツテ宿望ヲ達シ本日ヲ以テ通水ノ式ヲ舉グルニ至レルハ三萬町民ノ保健ト防火トノ點ニ於テ裨益スル處甚大ナルノミナラズ、應テ大中市建設ノ第一歩ヲ印シタルモノニシテ誠ニ慶賀ニ堪ヘザル處ナリ。希クハ一層共力一致益々本町ノ隆盛發展ヲ企圖セラレンコトヲ本日ノ盛典ニ列シ、光榮ノ餘リ一言以テ祝辭トス。

昭和三年四月二十八日

中津警察署長警部 中野三治

此の外大分縣知事藤山竹一閣下の祝賀演說、大分市水道部長坪根守利氏の祝辭、横野熊本遞信局長成清信愛、澤井準一、大阪市水道部長島崎孝彦諸氏等十餘通の祝電披露をなせり。

第八 給水篇

第一章 給水工事

給水工事の急施を要するは勿論にして、通水開始と同時に可成多數に給水し當初の目的に副はんが爲め竣功に先ち昭和二年八月より給水装置請求の豫約申込を受け、同年九月末日締切迄の豫約數は千二百を突破し、豫期以上の好成績を得たるを以て、之に相當の餘裕を見込み、同年十一月鉛管其他の給水用具並に諸材料を購入し、同年十月二十七日許可せられたる水道使用條例に基き、豫約者より正式に工事施行の請求を受付け、設計の上工費概算額を納付せしめ、昭和三年一月六日より給水工事に着手し、給水開始迄に竣功したる總戸數は八百八戸に及べり。

左記標準は個人負擔の分に對する各引込管の大小に依る工事費の割合を示したるものなり。

(昭和三年一月調査)

給水引込管布設標準

種別	十尺	(十八尺間)	(二十四尺間)	(三十尺間)	(四十二尺間)	(六十尺間)
鉛管 3/8"	六、九〇〇	九、六七〇	一、七〇〇	三、七〇〇	一七、八〇〇	三三、四〇〇
同 1/2"	七、〇〇〇	一、二五〇	一、四〇〇	一六、九〇〇	二二、九〇〇	二九、七〇〇
同 5/8"	九、五〇〇	一、五五〇	一、六、七〇〇	一九、八七〇	二六、一七〇	三三、六〇〇
同 1"	一、一、七〇〇	一、三、三〇〇	一、四、九〇〇	二、一、八〇〇	二、三、三〇〇	三、一、六〇〇
同 1 1/4"	一、四、六〇〇	一、一、〇五〇	一、六、〇一〇	三、〇、九〇〇	四、〇、四〇〇	五、三、三〇〇

第二章 水道使用條例

給水装置工事に先ち使用條例の制定に付昭和二年七月二十六日變更議決、同年八月十九日一部改正議決、内務大藏兩大臣に許可申請、同年十月二十七日更正許可せらる。然るに昭和三年五月一日より給水使用料を徴收するに當り、専用栓使用の資格無き者にして周圍の關係上、又は二軒長屋にして共用給水の必要あるを認め、昭和三年十月三日條例の一部改正議決、主務大臣に許可申請、同年十二月二十八日許可せられたり。

中津町水道使用條例

第一章 通 則

昭和二年七月廿六日變更議決
昭和二年八月十九日一部改正議決
昭和二年十月廿七日更正議決
昭和三年十月三日一部改正議決
昭和三年十二月二十八日許可

第一條 給水區域ハ本町一圓トス但シ公益ノ爲若シクハ本町ニ於テ必要アリト認ムルトキハ町ノ區域外ニ給水スルコトアルベシ

第二條 本條例ニ於テ給水装置ト稱スルハ配水管ヨリ分岐シタル給水管及之ニ附屬スル給水用具ヨリ成ル設備ヲ謂フ

第三條 本條例ニ於テ給水工事ト稱スルハ給水装置ノ新設増設修繕其ノ他給水装置ノ移動變更ニ關スル一切ノ工事ヲ謂フ

第四條 本條例ニ規定シタル給水使用料水量水器使用料中共用栓ニ關スルモノハ給水装置所有者又ハ保管者ヨリ專用栓ニ關スルモノハ給水使用者ヨリ徵收シ其ノ他ノ料金ハ當該事項ノ請求者ヨリ之ヲ徵收ス但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限リニ在ラズ

第五條 給水装置所有者保管者又ハ給水使用者ハ本條例ノ適用ニ關シ家族雇人

同居者其ノ他給水装置ノ使用ヲ承認シタリト認ムベキ者ノ行爲ニ對シテハ自己ノ意思ニ非ザルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ル、コトヲ得ズ

第二章 給水装置及工事

第六條 給水装置ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一、放任専用栓 一戸又ハ一個所ノ専用ニ供スルモノ
- 二、計量専用栓 一戸又ハ一個所ノ専用ニシテ計量器ヲ使用スルモノ
- 三、共用栓 二戸以上ノ共用ニ供スルモノ
- 四、防火栓 防火又ハ其ノ演習ニ使用スルモノ

第七條 給水装置又ハ其ノ修繕變更若クハ撤去等ノ工事は關シテハ土地又ハ家屋所有者ニアラザレバ請求スルコトヲ得ズ

第八條 給水装置所有者變更シタルトキハ繼承者ハ前所有者ニ屬シタル權利義務ヲ併セ繼承シタルモノト看做ス

第九條 給水装置所有者又ハ保管者給水區域内ニ居住セザルトキハ本條例ニ關

スル一切ノ事項ヲ處辨セシムル爲メ代理人ヲ選定シ直ニ其ノ旨ヲ町長ニ届出
ベシ

前項ノ代理人ハ本町ニ住居ヲ有スルモノタルコトヲ要ス

第十條 給水工事ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

但シ道路ノ地下ニ屬スル部分ハ町ノ負擔トス共用栓ハ前項ノ規定ニ拘ラズ
町費ヲ以テ設備スルコトアルベシ

第十一條 給水工事ハ請求ニ依リ本町之ヲ施行ス

但シ特ニ町長ノ許可ヲ得タル場合ハ請求者ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 給水工事費ハ之ヲ前納セシム

但シ官公署其ノ他前納ノ必要ナシト認ムルモノ又ハ急ヲ要シ費用調査ノ違
ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 給水工事費ハ工事竣成後精算シ過不足アルトキハ之ヲ還付又ハ追徴
ス

第十四條 給水工事費ヲ一時ニ納付シ難キモノニ對シテハ給水装置新設ノ場合

ニ限リ六ヶ月以内ニ於テ月賦納付ヲ承認スルコトアルベシ

前項ノ承認ヲ受ケムトスルモノハ本町住民ニシテ相當資力アルモノヲ連帶保
證人ニ選定スルコトヲ要ス

第十五條 前條ニ該當スル給水工事ハ第一回分納額ヲ納付シタル後之ヲ施行ス

第十六條 月賦給水工事費ハ毎回其ノ殘額ノ百分ノ三ニ相當スル金額ヲ加算シ
納付セシム

第十七條 月賦給水工事費完納前左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ未納ニ係ル工
費ヲ即納セシム

一、給水ヲ廢止セムトスルトキ

一、土地又ハ家屋ノ所有權ヲ移轉セムトスルトキ

第十八條 第十三條ノ給水工事費追徴金又ハ月賦給水工事費完納ニ至ル迄ハ給
水装置ノ所有權ハ本町ニ留保シ請求者ヲシテ保管ノ責ニ任ゼシム

第十九條 他人ノ給水管ヨリ分岐シテ給水装置ヲ爲サムトスルトキハ其ノ所有
者ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス

第二十條 給水工事竣成後三ヶ月以内ニ工事ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ本町ノ費用ヲ以テ之ヲ補修ス

第二十一條 手數料ハ修繕工事ヲ除クノ外左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス設計後其ノ變更ヲ爲サントスル時亦同ジ

一、鉛管給水装置設計一工事ニ付金壹圓トシ支栓一個ヲ増ス毎ニ金貳拾錢ヲ遞加ス

二、鐵管給水装置設計一工事ニ付金貳圓トシ防火栓一個ヲ増ス毎ニ金五拾錢ヲ遞加ス

三、給水装置増設一工事ニ付金五拾錢

四、同變更設計一工事ニ付金八拾錢

五、流末装置試驗一工事ニ付金五拾錢

六、量水器撤去一工事ニ付金參拾錢

七、中止料一ヶ月ニ付金拾五錢

八、既設流末試驗手數料ニ在リテハ町長ノ認ムル實費ニ依ル

前項ノ手數料ハ前納トシ給水設備ノ工事又ハ設計請求ト同時ニ納付スベシ但シ既納ノ設計手數料ハ請求ヲ取消シ又ハ取消サレタル場合ト雖之ヲ還付セズ

第二十二條 前條以外ノ手數料ハ左ノ區別ニ依リ徵收ス

一、共用栓ノ鑑札又ハ鍵一個ニ付金參拾錢

二、量水器ノ試驗ヲ請求シ試驗ノ結果異狀ヲ認メザル時ハ左ノ料金を徵收ス

(1) 量水器ノ公稱口徑二十五耗(一吋)以下 金壹圓

(2) 同 五十耗(二吋)以下 金貳圓

(3) 同 百 耗(四吋)以下 金四圓

(4) 同 百五十耗(六吋)以下 金六圓

三、材料及流末工事ノ検査ヲ請求シタル時

(甲)材料検査

(1) 鉛管一條延長十五米突迄ハ金五拾錢トシ以上三米突迄ヲ増ス毎ニ金拾錢ヲ遞加ス

(2) 水栓類一個金拾五錢

(3) 口径五十耗(二吋)迄ノ金屬管一本金五拾錢トシ以上三米突迄ヲ増ス毎ニ金貳拾錢ヲ遞加ス

(4) 鐵管制水瓣及異形管

公稱口径 鐵管一本ニ付 制水瓣及異形管一個ニ付

百 耗(四吋)迄 金壹圓 金壹圓五拾錢

百五十耗(六吋)迄 金貳圓 金參圓

前各號ニ該當セサル物件ノ検査ヲ要スル場合ハ類似シタル物件ニ關スル手數料ヲ參酌シテ町長之ヲ定ム

(乙) 流末工事検査

公稱口径 五〇耗(二吋)以下 一工事ニ付 金貳圓

同 七五耗(三吋)以下 同 金參圓

同 一〇〇耗(四吋)以下 同 金四圓

第二十三條 第十一條但書ニ依リ本町以外ノモノ、施行シタル給水工事ニ付テ

ハ一工事ニ付金五拾錢以上金拾圓以下ノ調査手數料ヲ徵收ス

第二十四條 本町ニ於テ施行スル給水工事ノ爲ニ請求人所在ノ工作物ニ損害ヲ及ボスコトアルモ本町其ノ責ニ任ゼズ

但シ本町ニ重大ナル過失アル場合ハ此ノ限リニ在ラズ

第二十五條 給水装置所有者又ハ保管者所在不明ニシテ給水ノ使用者ナキトキ又ハ三ヶ月以上給水ヲ使用セザル時給水ハ装置ノ内町費ヲ以テ設備シタル部ヲ撤去スル事アルベシ

第三章 給水

第二十六條 給水ハ晝夜不斷トス

但シ左ノ場合ニ於テハ給水ヲ一時停止若クハ制限スル事ヲ得

- 一、天災地變若クハ水道工事其ノ他特ニ必要アリト認ムルトキハ町長ハ其ノ一部又ハ全部ニ對シ一時給水ヲ停止シ若クハ給水ノ時間及給水ノ量ヲ制限スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ日時及區域ヲ告示ス
- 但シ急迫ノ場合ハ此ノ限リニアラズ

二、町區域外ノ給水ハ豫メ期間及水量ヲ限定シ又ハ隨時制限停止スル事アルベシ

給水ノ制限又ハ停止ニヨリ生ズル損害ニ對シテハ本町其ノ責ニ任ゼズ

第二十七條 給水ノ方法ヲ分チテ左ノ四種トス

一、放任専用栓
普通放任専用栓 一戸又ハ一ヶ所ノ専用ニ屬シ普通家事用トシテ使用スルモノ

特別放任専用栓 一戸又ハ一ヶ所ノ専用ニ屬シ家事ノ外營業用トシテ少量ノ水ヲ使用シ特ニ計量ノ必要ナシト認メ得ルモノ

二、計量専用栓
普通計量専用栓 一戸又ハ一ヶ所ノ専用ニ屬シ多量ノ水ヲ使用シ若クハ使用水量ヲ豫定シ能ハザルモノ

特別計量専用栓 左ノ用途ニ使用スルモノ

1、湯屋營業

2、汽罐用、船舶用、原動力用、工場用

3、營業用自動車洗滌

4、庭園噴水、瀧、泉池、其ノ他娛樂用

5、工事用、其ノ他一時的使用ノモノ

6、右ノ外町長ニ於テ特別計量栓ノ必要アリト認メタルモノ

普通共用栓 私設家事用ニシテ一戸専用ノ裝置ヲナスコト能ハズシテ二戸以上ノ共用ニ供スルモノ

三、共用栓
特別共用栓 共用栓使用者ニシテ家事用ノ外營業用トシテ少量ノ水ヲ使用スルモノ

公設共用栓 町費ヲ以テ裝置シ公衆ノ用ニ供スルモノ
但シ共用栓ハ凡テ放任給水トス

四、防火栓 公設又ハ私設トシ防火又ハ其ノ演習ニ使用スルモノ

第二十八條 共用栓使用者ハ一栓ニ付一組合ヲ組織スベシ

組合員ハ連帶責任トシ一名ノ總代人ヲ選定シ町長ニ届出ヅベシ總代人ハ其ノ組合ノ水栓ヲ管理シ給水料金ノ納付其ノ他給水ニ關スル一切ノ事項ヲ處理スルモノトス

第二十九條 計量給水ノ使用水量ハ量水器ヲ以テ計量ス

但シ使用水量ノ豫定シ得ベキモノハ町長ニ於テ之ヲ認定スルコトアルベシ

第三十條 量水器ハ本町ニ於テ設備シ之ヲ貸與ス

第三十一條 給水ノ請求ハ第四條ニ規定スル使用料ノ納付義務者ヨリ之ヲ爲ス
ベシ

但シ給水装置ノ所有者又ハ保管者ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

第三十二條 私設防火栓ハ豫メ町長ノ承認ヲ經テ係員立會ノ上ニ非ザレバ之ヲ
使用スルコトヲ得ス

但シ防火ノ爲メ使用スル場合ハ此限ニ在ラズ

私設防火栓ノ使用ハ一回ニ付十五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十三條 計量給水ノ使用者ハ量水器ノ試験ヲ請求スルコトヲ得

前項試験ノ結果水量ノ差違百分ノ三以内ナル場合ハ第二十二條第二項ニ依リ
試験手数料ヲ徴收ス

第三十四條 水道使用者ハ其ノ門戸ニ本町ヨリ交付シタル標識ヲ掲クベシ

第四章 使用料

第三十五條 使用料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス

一 普通放任専用栓ハ一ヶ月ニ付左ノ割合ニ依リ之ヲ徴收ス

(1) 一戸五人迄金壹圓トシ一人ヲ増ス毎ニ金拾五錢ヲ遞加ス

(2) 支柱一個ヲ増ス毎ニ金貳拾錢ヲ遞加ス

(3) 浴槽一個ニ付金參拾錢支柱ナキ浴槽ハ金貳拾錢

(4) 牛馬ハ一頭ニ付金拾五錢

(5) 自動車一臺ニ付金壹圓貳拾錢

總テ人員ノ計算ハ老幼婢僕ノ別ナク現住スル者ニ限ル

但シ宿泊セザル雇人ハ一人一ヶ月金五錢ヲ共用栓ニアリテハ一人一ヶ

月金參錢ヲ遞加ス

二 特別放任専用栓ハ一ヶ月ニ付左ノ割合ニ依リ之ヲ徴收ス

(1) 普通放任専用栓ノ使用料ニ其ノ二割ヲ増加ス

但シ支柱浴槽並ニ牛馬ニ係ハル使用料ハ普通放任専用栓使用料ト同一

トス

三、普通計量専用栓使用料ハ一ヶ月ニ付左ノ割合ニ依リ之ヲ徴收ス(一キロリットルハ約五石五斗四升)

(1) 家事用給水使用料ハ十二キロリットルヲ定量トシ金壹圓貳拾錢トス定量以上ハ一キロリットルニ付金八錢ヲ遞加ス

(2) 官公署、學校、病院、銀行、會社、集會所等ノ給水量ハ定量ヲ三〇キロリットルト定メ料金貳圓四拾錢トシ定量以上一キロリットルニ付金七錢ヲ遞加ス

(3) 營業用給水ハ前號ニ準ス

四、特別計量専用栓使用料ハ一ヶ月ニ付左ノ割合ニ依リ之ヲ徴收ス

(1) 庭園噴水、瀧泉池、娛樂用等ニ給水スルモノハ定量ヲ一五キロリットルト定メ料金ヲ參圓トシ定量以上ハ一キロリットルニ付金拾五錢ヲ遞加ス

(2) 湯屋營業用給水ハ定量ヲ一五〇キロリットルト定メ料金ヲ九圓トシ定量以上ハ一キロリットルニ付金五錢ヲ遞加ス

(3) 營業用自動車ニ對スル給水ハ定量ヲ二〇キロリットルト定メ料金ヲ參圓トシ定量以上ハ一キロリットルニ付金拾貳錢ヲ遞加ス

(4) 汽罐用原動力用及工場用給水ノ定量ハ二〇〇キロリットルト定メ料金ヲ拾五圓トシ定量以上ハ一キロリットルニ付一〇〇〇キロリットル迄ヲ金七錢、三〇〇〇キロリットル迄ヲ金六錢、三〇〇〇〇キロリットル以上ノトキハ金五錢ノ各割合ニ依リ遞加ス

(5) 船舶用給水ハ一キロリットルニ付金五錢以上金拾貳錢五厘以内トシ町長ニ於テ適宜之ヲ定ム

(6) 臨時給水ハ一キロリットルニ付金拾五錢トシ町長ニ於テ公共用ト認ムル場合ハ金七錢トス尙量水器ノ設ケナキ場合ハ町長ノ認定ニ依ル

五、共用栓使用料ハ一ヶ月ニ付左ノ割合ニヨリ之ヲ徴收ス

(1) 普通共用栓ハ二戸ノ共用ニ付一戸五人迄一ヶ月金五拾錢トシ一人ヲ増ス毎ニ金八錢ヲ遞加シ三戸以上ノ共用ハ一戸五人迄一ヶ月金參拾五錢トシ一人ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ遞加ス

(2) 特別共用栓ハ一戸ニ五人迄一ヶ月金六拾錢トシ一人ヲ増ス毎ニ金拾錢ヲ遞加ス

(3) 共用栓使用者ニシテ普通放任専用栓給水料ノ内(3)乃至(5)ニ該當スルモノハ其二分ノ一ヲ徴收ス

六、共用栓ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ使用者タルコトヲ得ス

- (1) 所得稅ヲ納付シ又ハ其ノ他ノ直接國稅拾圓以上納付スルモノ(同居家族ノ分ヲ含ム)
- (2) 町長ノ認定スル賃貸價格一ヶ月金拾圓以上ノ家屋ニ居住スルモノ
- (3) 町稅戶數割平均額以上納付スルモノ

但シ前各項ノ資格ニ該當スルモノト雖モ特ニ専用栓ノ設備ヲナシ難キ事情アリト認ムルトキハ専用栓ニ相當スル料金ヲ徴收シ共用栓ノ使用ヲ許可スルコトアルベシ

七、防火用給水ハ無料トス

但シ演習ノ爲使用シタル時ハ左ノ區別ニヨリ之ヲ徴收ス

- (1) 量水器ノ裝置ナキ私設防火栓ヲ使用スル時ハ一回ニ付金貳圓トス
- (2) 量水器ノ裝置アルモノハ臨時給水ノ例ニヨル

第三十六條 使用水量カ前條ノ定量ニ滿タザル場合ニアリテハ其ノ定量ヲ以テ

使用水量ト見做ス

第三十七條 一個ノ量水器ニヨリ數戶ノ給水ヲ爲ス場合ニアリテハ各戶平均ニ

使用シタルモノト見做ス

第三十八條 量水器一個ニ付一ヶ月ノ使用料ハ左ノ種別ニヨリ之ヲ徴收シ其ノ

保管ハ使用者並ニ設備所有者ノ責任トス

公稱口徑	一三「ミリメートル」	(二分ノ一時)	金參拾錢
同	一九同	(四分ノ三時)	金四拾錢
同	二六同	(一時)	金六拾錢
同	三八同	(二時二分ノ一)	金壹圓
同	五一同	(二時)	金壹圓五拾錢
同	七六同	(三時)	金貳圓拾錢
同	一〇二同	(四時)	金參圓
同	一二七同	(五時)	金四圓參拾錢
同	一五〇同	(六時)	金六圓

第三十九條 給水ノ開始又ハ廢止ノトキハ左ノ割合ニヨリ使用料ヲ徵收ス

(1) 放任専用給水及共用給水ハ使用開始ガ月ノ十五日以前ナルトキハ一ヶ月分ヲ十六日以後ナルトキハ半ヶ月分ヲ休止又ハ廢止ガ月ノ十五日以前ナルトキハ半ヶ月分ヲ十六日以後ナルトキハ一ヶ月分ヲ徵收ス

(2) 計量給水ハ使用開始ガ月ノ十六日以後ナル時及休止又ハ廢止ガ十五日以前ナル時ハ第三十五條ニ規定スル一ヶ月最低限度ノ二分ノ一トシ其ノ二分ノ一ヲ超過スル水量ニ對シテハ超過料金ニヨリ計算ス

(3) 給水装置ニヨリ料率異ナル場合ニ於テ二種以上ノ用途ニ混用シタル時及給水装置ノ種別ヲ變更シタル月ノ使用料ハ其ノ料率ノ高キニ從フ

第四十條 水道使用者ニ於テ使用中止又ハ廢止ノ場合ニ於テ其ノ届出ナキトキ又ハ量水器ニ使用水量ヲ表示セザル場合ト雖モ最低料金ハ之ヲ徵收ス

違背處分ニヨリ給水ヲ停止シタル場合亦同ジ

第四十一條 給水装置又ハ量水器ニ異狀アリタルトキ若クハ一時ノ給水ニシテ量水器ヲ装置セザル場合ハ町長ニ於テ適宜使用料ヲ定メ之ヲ徵收ス

第四十二條 使用料ハ毎年度左ノ四期ニ分チ之ヲ徵收ス

第一期	自四月	納期	四月十五日
第二期	自七月	納期	七月十五日
第三期	自十月	納期	十月十五日
第四期	自一月	納期	一月十五日

計量栓ニヨルモノハ一ヶ月毎ニ使用料ヲ徵收スルコトヲ得

給水廢止又ハ休止ヲ爲シタル場合ハ隨時之ヲ徵收ス

官公署及一時給水ニ係ルモノ、使用料ハ精算額ニヨリ隨時徵收スルコトヲ得

第四十三條 給水使用料ノ納付義務者ハ使用料算定ノ基礎トナルベキ要件ニ移動ヲ生ジタルトキハ直チニ本町ニ届出ゾベシ

第四十四條 給水ヲ停止シ又ハ制限スルコトアルモ使用料ヲ減免セズ

第四十五條 保護ノ必要アル公益事業又ハ特別ノ事情アルモノニ給水スルトキハ町長ノ認定ニ依リ使用料ヲ減免スルコトアルベシ

第四十六條 町ノ區域外ニ給水スル場合ノ使用料ハ十分ノ五以内ヲ増徴ス

第九 水質篇

第一章 水質試験成績

(イ)通水開始當時に於ける水質試験成績及(ロ)同上五ヶ月経過後の成績は左の如

し

(イ)水質試験成績表

第一回 昭和三年四月十二日試験
第二回 同年同月三十日試験

種別	場所	源水	伏流水	配水池		市内給水管		同上	
				第一回	第二回	第一回	第二回	第一回	第二回
清濁	透明	透明	透明	透明	透明	透明	透明	透明	透明
色濁	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
臭味	異状ナシ	異状ナシ	異状ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
反應	微弱アルカリ性	微弱アルカリ性	微弱アルカリ性	微弱アルカリ性	微弱アルカリ性	微弱アルカリ性	微弱アルカリ性	微弱アルカリ性	微弱アルカリ性
硫酸	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡
硝酸	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ

(ロ)水質試験成績表

昭和三年九月四日試験

種別	場所	源水	伏流水	配水池	市内給水管
亞硝酸	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ
アムモニア	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ
クロール	六、三八〇	六、〇三五	四、九七三	五、三三五	四、九七三
過マンガン酸カリウム消費量	六、三〇〇	三、四七〇	三、四七〇	三、一六〇	三、四七〇
蒸發残渣	八七、五	七六、三	七三、五	八八、二	七三、七
硬度	〇、九	〇、七	〇、七	〇、七	〇、七
細菌聚落數	六	四	三	八	六

種別	場所	源水	伏流水	配水池	市内給水管
清濁	透明	透明	透明	透明	透明
色濁	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
臭味	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
反應	弱「アルカリ」性	弱「アルカリ」性	弱「アルカリ」性	弱「アルカリ」性	弱「アルカリ」性
硫酸	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡
硝酸	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ	検出セズ

細菌聚落數	硬度	蒸發殘渣	過マンガン酸カリウム消費量	クロール	アマモニア	亞硝酸酸	檢出せず	檢出せず	檢出せず
110	88	11,360	1,866	6,361	100,000	1,866	檢出せず	檢出せず	檢出せず
10	7.0	100,000	1,866	6,016	1,866	6,016	檢出せず	檢出せず	檢出せず
13	7.0	100,000	1,866	6,016	1,866	6,016	檢出せず	檢出せず	檢出せず

第十 附 録

本附録は日誌其他の記録に基き年次を逐ふて水道布設工事に關する事項の概要を抜抄し讀者の便に供したるものなり。

◎大正九年

- 二月二十八日 水道布設調査費として壹千圓を議決し調査委員を選定せり。
- 五月七日 水道布設實地調査並に測量設計の件に付日本水道衛生工事株式會社へ照會せり。

◎大正十年

- 一月二十五日 調査委員會開催實地調査並に測量設計を爲す事に決定し直に日本水道衛生工事株式會社へ書面を發送せり。
- 二月五日 上水道布設測量設計及工費豫算書作成の件に付日本水道衛生工事株式會社と契約をなせり。
- 二月九日 日本水道衛生工事株式會社より羽間技師來津一週間滞在、實地に調

査測量を爲せり

二月十五日 調査委員會開催、羽間技師よりの調査設計に關する説明に基き、將來の増加を見込み計畫人口を二萬人とし、鐵管、陶管總工費の比較設計を爲すことに決定せり。

七月二十日 調査委員會開催、日本水道衛生工事株式會社より井上技師來津設計書に就き説明を爲したる結果、人口三萬人と二萬人との比較設計を爲すことに決定せり。

九月十三日 調査委員會開催、計畫人口を三萬人とし、鐵管を使用して本設計を爲すことに決定し、直に日本水道衛生工事株式會社へ書面を發送せり。

◎大正十一年

三月十三日 調査委員會開催、水道布設本設計圖書類到着したるに依り、之が進行上に就き協議をなせり。

六月十五日 調査委員會開催、水道布設調査の爲め、玉島町外四ヶ所の水道に就き實地調査をなすことに決定せり。

六月十七日 菊池町長は、中技手を伴ひ、石黒、岩田、永吉、東、四委員と共に午後四時出發、玉島町、西大寺町、大阪市、堺市、尼ヶ崎市各水道の水源地並に送水方法に就き視察を爲し、二十一日午前十一時歸津せり。

七月十三日 調査委員會開催、各地水道視察の狀況を報告し、之が比較協議の結果、右設計の一部變更及増設の事に決定し、直に日本水道衛生工事株式會社へ通知せり。

八月三日 大分縣知事宛に水源地水質出張試験出願書を提出せり。

十月三十日 縣衛生課より技師二名來津、水源地に於て水質試験を爲せり。

十二月四日 参考の爲め、門司、小倉、別府の各市役所に向け、水道豫算書及規則書送付方を照會せり。

◎大正十二年

四月二十三日 水道布設に關する總ての事項を議決せり。

四月二十四日 水道布設認可申請、國庫補助、縣費補助申請、起債許可申請書を其筋へ提出せり。

六月二十五日 日本水道衛生工事株式會社より山中技師來津、出願設計書類付箋の點に就き調査をなし、二十七日一番列車にて出縣調査係技師へ説明を了せり。

十月十五日 水道布設認可申請に關し國庫補助申請書と共に八月二日付を以て内務省へ一件書類を進達致したるに九月一日火災の爲め書類全部焼失の故を以て更に書類を具し提出すべき旨の通牒ありたり、依て直に關係圖書類を取纏めて再び提出せり。

◎大正十三年

二月 七日 水道布設認可申請に關し同年一月二十三日付を以て内務省衛生局長及土木局長より財源其他十三項目に關し質疑ありたる旨縣衛生課より通牒ありたるに依り其れく取調べの上同年三月十四日回答せり。

九月 五日 大分縣知事宛水質出張試験出願せり。

十月十一日 同 上

◎大正十四年

九月十九日 役場樓上に於て元大阪市水道部長澤井準一氏より水道布設計畫上に關し講演ありたり。

十一月廿七日 調査委員會開催、水道布設調査計畫の件に付滿場一致を以て澤井準一氏へ囑託の事に決定、直に同氏に交渉をなせり。

十二月廿一日 澤井準一氏へ水道布設調査出願に關する顧問を囑託せり。

◎大正十五年

一月十六日 調査委員會開催、水源地の視察をなし水量其他實地に就き北川技師より説明せり。

二月 一日 調査委員會開催、澤井顧問よりの電報照會により松の瀬河原水端より八間の處に試験井掘鑿の事に就き協議せり。

二月 四日 調査委員會開催、水源地實地視察を爲し地層及水質の件に就き滿場一致澤井顧問に實地見分を願ふことに決定せり。

二月十四日 澤井顧問及北川技師來津、水源地試験井の實況を視察せり。

- 二月十五日 調査委員會開催、水源地試験井水質試験の成績に就き澤井顧問及北川技師より詳細に説明を爲し協議の上水源地は松の瀬に決定せり。
- 二月十九日 大分縣知事宛に水源地水質出張試験を出願せり。
- 二月二十五日 縣衛生課技師二人來津水源地水質試験を爲せり。
- 三月二十二日 調査委員會開催、水道布設計畫書の目論見變更内容に就き澤井顧問及北川技師より説明し原案の通り決定せり。
- 三月二十五日 水道布設目論見變更計畫書其他布設に關する件に就き協議會に於て澤井顧問及北川技師より委敷説明を爲し本會議に於て満場一致を以て原案の通り議決せり。
- 三月二十六日 水道布設目論見變更認可申請、同上に伴ふ國庫補助縣補助金の増額申請並に起債許可申請の各一件書類を其筋へ提出せり。
- 四月二十四日 福岡縣築上郡長より水道布設計畫に關する圖面並に書類提出方に付照會ありたるに依り直に提出せり。
- 五月五日 調査委員會開催、水源地水利問題に就き協議せり。

- 五月九日 調査委員會開催、水源地水利補償の件に付協議せり。
- 五月十五日 出願書類全部縣の調査を了り内務省へ進達せり。
- 五月二十五日 逓信大臣宛簡易保險積立金借入申込書提出、同年十二月二十一日付を以て金拾八萬圓貸付の通知あり、昭和二年二月二十一日借入をなせり。

- 九月二十一日 水道布設認可、同起債の件許可せらる。
- 十月一日 本日町會に於て左記の件を議決せり。
- 一、臨時水道委員設置規程制定の件
 - 二、臨時水道部設置規程制定の件
 - 三、臨時水道部處務規程制定の件
 - 四、臨時水道部職員給與規程制定の件
 - 五、水道布設工事執行手續
- 十月八日 水道委員會開催、澤井顧問より種々説明あり、左の件に付協議せり。
- 一、敷地買収に關する件

二、工事施行並に物品購入方法に關する件
三、起工式に關する件

四、水源地事務所及倉庫建築に關する件

十月十二日

内務大臣宛土地收用事業認定申請書を提出せり。

十月二十六日

水源地事務所及倉庫建築工事入札を執行せり。

十一月四日

水道委員會開催起工式其他に關する件に付協議せり。

十一月五日

本日町會に於て左記の件を議決せり。

一、記債許可額更正に伴ふ起債變更の件

二、中津町基本財産繰入使用の件

三、同 學校基本財産繰入使用の件

四、同 羅災救助資金繰入使用の件

五、同 學校營繕費積立金繰入使用の件

六、大正十五年

大正十六年度

中津町水道布設費繼續年期及支出方法變更の件

七、中津町水道布設費歳入出豫算追加更正の件

十一月六日
十一月十五日

五、中津町別途經濟歳入出豫算追加更正の件
六、大正十五年度中津町歳入出豫算追加更正の件
水源地に於て午前十時より地鎮祭並に起工式を舉行せり。
水道委員會開催、導水管購入、水源地及配水幹線路用地買收、工事用器具機械購入の件に付協議せり。

十二月四日
十二月六日

水道委員會開催取水工事用矢板類購入の件に付協議せり。
大分縣知事宛川敷(寄洲)使用願書を提出、昭和二年九月十六日付指令土第一、四八一號を以て許可せらる。

同 日

大分縣知事宛河水使用願書提出、昭和二年九月三十日付指令土第一九五六號を以て許可せらる。

同 日

大分縣知事宛導水管埋設に付護岸工事施行許可申請書を提出せり。
水道委員會開催、澤井顧問出席説明、鐵管及セメント購入、並に配水塔實施設計書提出に關する件に付協議せり。

十二月十七日

内務大臣宛配水塔實施設計認可申請書を提出せり。

十二月二十日 大分縣知事宛收用土地細目公告申請書を提出せり。
 同日 水道委員會開催鐵管購入の件に付協議せり。
 十二月廿五日 水道委員會開催セメント購入の件に付協議せり。

◎昭和元年

十二月廿七日 水道委員會開催鉛購入の件に付協議せり。

◎昭和二年

一月十四日 水道委員會開催セメント鉛、弁類及鐵蓋、硅藻土、鐵管購入の件に付協議せり。

一月二十五日 水道委員會開催セメント購入の件に付協議せり。

二月九日 門司鐵道局長宛鐵道踏切に鐵管埋設及踏切假移轉承認請求書を提出せり。

二月十五日 水道委員會開催「グエンチュリミーター」購入其他の件に付協議せり。

二月二十八日 本日町會に於て昭和二年度水道布設費歳入出豫算を議決せり。

三月十一日 大分縣知事宛^{大正十五年}昭和元年度工事施行認可申請書を提出せり。

四月四日 本日町會に於て左記の件を議決せり。

一、中津町臨時水道部職員給與規程中一部改正の件

二、中津町臨時水道委員任期滿了に付後任者選定の件

四月二十三日 水道委員會開催澤井顧問出席説明唧筒其他の購入、水源地主要工事施行の件に付協議せり。

五月四日 大分縣知事宛國道に水道鐵管埋設の件に付願書を提出せり。

同日 大分縣知事宛水道布設に伴ひ河川、溝渠使用の件に付願書を提出せり。

同日 大分縣知事宛水道布設に伴ひ溝渠に構造物設置の件に付願書を提出せり。

同日 大分縣知事宛中津線縣道に水道鐵管埋設の件に付願書を提出せり。

同日 大分縣知事宛中津長洲線縣道に水道鐵管埋設の件に付願書を提出せり。

- 五月十三日 水源地主要工事施行に付大林組と請負契約締結せり。
- 五月十六日 大分縣知事宛收用審査會裁決申請書提出したるも六月十六日任意買收出來たるに依り願下を爲せり。
- 五月二十一日 水道委員會開催、用地買收の件に付協議せり。
- 五月三十一日 水道委員會開催、鐵管購入其他の件に付協議せり。
- 六月十四日 水道委員會開催、配水幹線路築造工事、セメント追加購入其他の件に付協議せり。
- 六月二十三日 本日町會に於て左記の件を議決せり。
一、中津町水道布設費繼續年期内起債時期繰延の件
- 七月 七日 水道委員會開催、水道使用條例變更に關する件に付協議せり。
- 七月十一日 大分縣知事宛昭和二年度工事施行認可申請書を提出せり。
- 七月二十二日 水道委員會開催、澤井顧問出席説明、水道使用條例一部變更の件に付協議せり。
- 七月二十六日 本日町會に於て水道使用條例變更の件を議決せり。

- 八月 十日 大分縣知事宛官有堤塘敷占用願書を提出したるに昭和三年九月十日付指令士第七九七三號を以て許可せらる。
- 八月十九日 本日町會に於て水道使用條例一部の改正を議決せり。
内務、大藏兩大臣宛水道使用條例許可申請書提出、同年十月二十七日付を以て許可せらる。
- 九月十九日 遞信大臣宛簡易保險積立金貸付増額申込書提出、同年十月二十日付金拾萬圓貸付の通知あり、同年十一月十九日借入。
- 十月十二日 内務大臣宛水道布設目論見一部變更認可申請書提出、同年十一月十二日付内務省分衛第四〇號を以て認可せらる。
- 十月二十一日 水道公債條例に依り藤本ビルブローカー銀行福岡支店と契約し、短期公債額金拾六萬五千圓を年利七分にて同年十二月一日發行せり。
- 同 日 水道委員會開催、澤井顧問出席説明、水源地敷地追加買收、水源地保護用堤外民有地買收給水工事豫算其他の件に付協議せり。
- 十一月十四日 水道委員會開催、水源地事務所建築、鐵管及弁栓類、止水栓及接合管、鉛

- 管購入の件に付協議せり。
- 十一月十九日 大分縣知事宛起債報告書を提出せり。
- 十一月廿二日 水道委員會開催、スタンドパイプ購入其他の件に付協議せり。
- 十二月二日 水道委員會開催、量水器購入其他の件に付協議せり。
- 十二月十二日 水道委員會開催、澤井顧問出席説明、給水引込工事町費負擔の個人負擔の限界決定其他の件に付協議せり。
- 十二月廿三日 本日町會に於て左記の件を議決せり。
- 一、昭和二年度中津町歳入出豫算追加更正の件
 - 二、昭和二年度中津町特別會計給水工事歳入出豫算
 - 三、一時借入金に關する件

◎昭和三年

- 一月 八日 大分縣知事宛國縣道に水道給水分岐線埋設願書を提出せり。
- 二月 一日 水道委員會開催、鐵管追加購入其他の件に付協議せり。
- 三月 十日 水道委員會開催、ポンプ試験運轉其他の件に付協議せり。

- 三月二十日 水道委員會開催、澤井顧問出席説明、水道布設工事費豫算更正並に殘務整理其他の件に付協議せり。
- 三月二十五日 水道委員會開催、通水式祝賀會其他の件に付協議せり。
- 四月 六日 大分縣知事宛水質出張試験出願。
- 四月二十八日 松の瀬の水源地に於て通水式を舉行せり。
- 六月十一日 熊本遞信局長宛家用電氣工作物施設届書及び電氣主任技術者選任届書を提出せり。
- 六月十四日 大分縣知事宛水質出張試験出願。
- 六月二十五日 大分縣知事宛水道布設工事竣功届書を提出せり。
- 八月十三日 本日町會に於て左記の件を議決せり。
- 一、中津町水道布設工事費殘金處分の件
 - 二、中津町水道公債借替に關する件
- 八月十五日 内務大臣宛水道布設工事殘餘材料處分の件に付申請をなせり。
- 九月二十日 内務大臣宛水道布設費精算報告書を提出せり。

十月三日 本日町會に於て左記の件を議決せり。

一、中津町水道委員設置規程制定の件

二、中津町水道使用條例一部改正の件

十月五日 中津町水道條例に依り水道公債額金四拾四萬五千圓を年利六分の

長期公債として發行せり。

引受銀行は甲號貳拾八萬圓藤本ビルブローカー銀行福岡支店、乙號

拾六萬五千圓豐前銀行と契約す、從つて既借入の簡易保險積立金貳

拾八萬圓及短期公債額金拾六萬五千圓は直に償還せり。

十月二十六日 內務、大藏兩大臣宛中津町水道使用條例一部改正許可稟請、同年十二

月二十八日內務省分地第六一號を以て許可せらる。

本書編纂後の主要記事左の如し

◎昭和四年

四月一日 隣接小楠村合併實施せらる。

四月二十日 中津市制實施せらる。

(參考)

主要工事請負並ニ物品供給調

契約又は購入年月日	種 別	金 額	氏 名
大正十五年十月二十六日	淨水場工事用倉庫其他	一、一七五、〇〇〇	是石己之吉
同 年十二月十日	取水場工事用バタ及矢板類	一、六〇二、五六〇	金子廣作
昭和二年一月十七日	鐵管並ニ弁類	一四〇、二九三、三八〇	久保田權四郎
同 年同 月 同日	工事用軌條、唧筒其他	二、二一三、三四〇	大分市水道部
同 年一月二十五日	純鉛及折錫	一、一五三、五八〇	佐渡島伊兵衛
同 年一月二十六日	セメント	二〇、一九〇、〇〇〇	豊國セメント株式會社
同 年二月十四日	硅藻土	一、六九三、〇五〇	阿蘇野硅藻土商會
同 年二月二十日	鐵管試驗場上家及倉庫其他	一、〇八三、五七〇	坂本喜十郎
同 年三月十九日	グエンチユリミーター	四、〇〇九、四八〇	淺野物産株式會社
同 年三月二十九日	工事用 唧筒及附屬品	一、四六二、九六〇	長谷川鐵工所
同 年五月十日	水道用 唧筒其他附屬品	一五、八六六、〇〇〇	藤田工業株式會社

同	年五月十三日	淨水場主要工事	八四、二一六、〇一〇	大 林 組
同	年六月十五日	配水幹線路築造工事	二、二七四、六八〇	秋 吉 政 治
同	年八月十日	鐵管布設復舊用砂利	一、八二〇、〇〇〇	岸 本 千 吉
同	年十一月二十二日	止水栓及接合管	三、二三〇、八〇〇	岩 橋 榮 吉
同	年十一月二十五日	鉛 管	六、九七五、七六〇	古川電氣工業株式會社
同	年同月同日	止水栓及量水器鐵蓋	一、六七〇、〇〇〇	日 之 出 商 會
同	年十一月二十九日	水源地事務所建築工事	一、八四〇、〇〇〇	松 本 春 藏
同	年同月同日	水源地周圍柵建設工事	一、一九七、〇〇〇	岩 尾 鐵 藏
同	年同月同日	水道消火用器具	一、一六三、六五〇	ジ ヨ イ ン ト 商 會
同	年十二月二十三日	量水器	三、三一〇、〇〇〇	株式會社蘆田工業所
昭和三年一月十二日		鐵管布設道路復舊用砂利	一、五三七、六二〇	藤 井 倉 吉

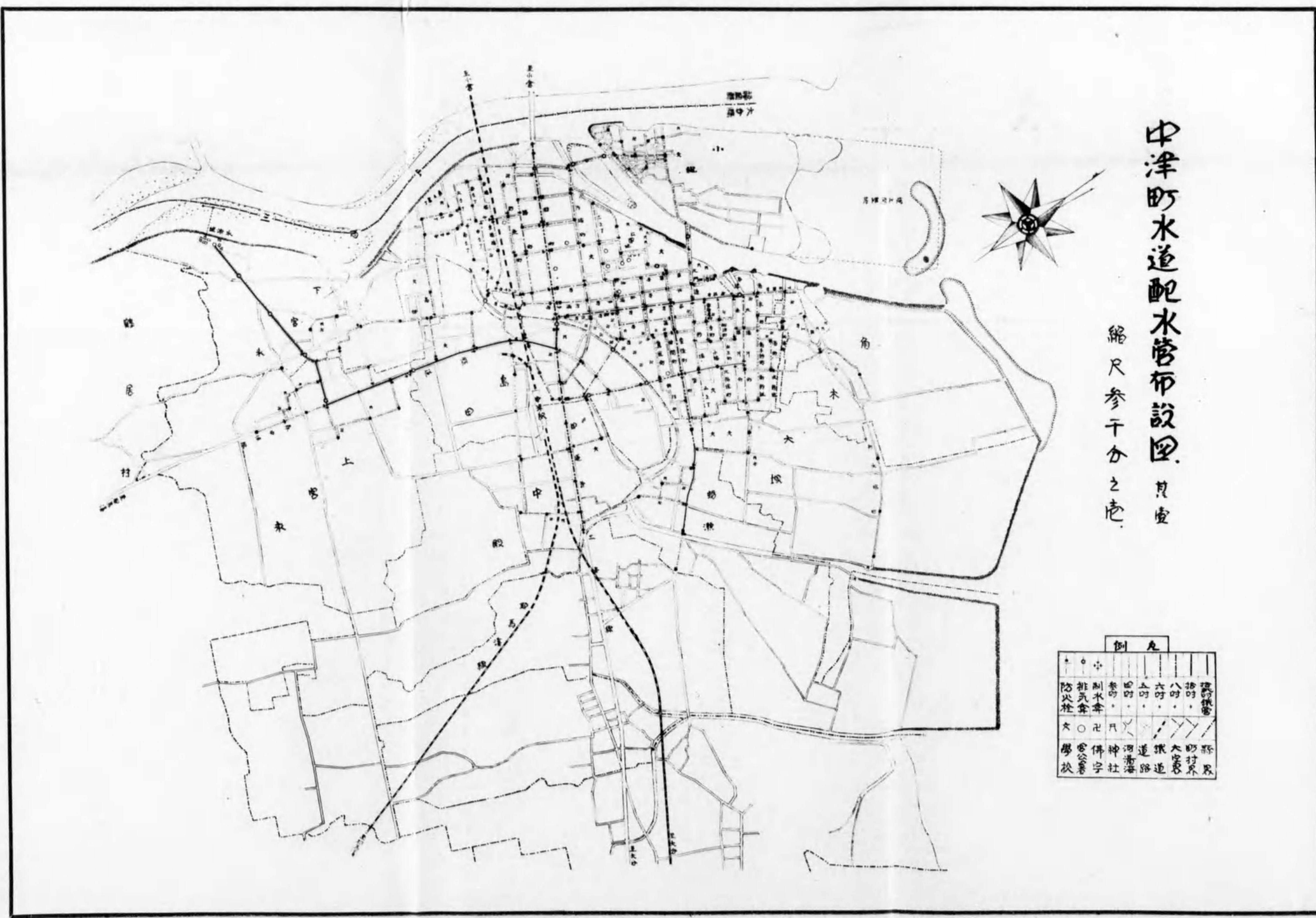
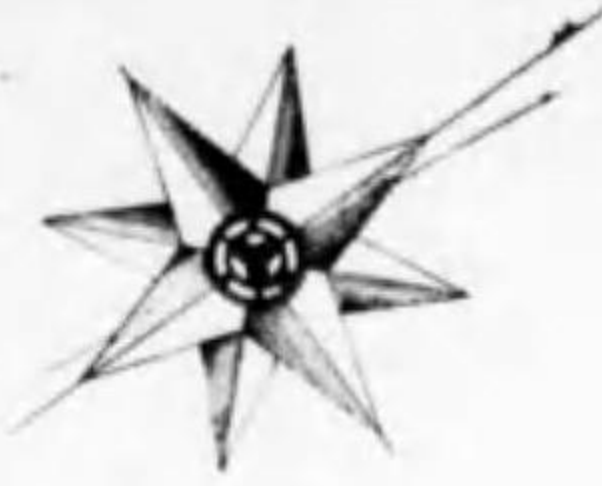
備考 一口千圓以下は省略す





中津町水道配水管布設圖 其壹

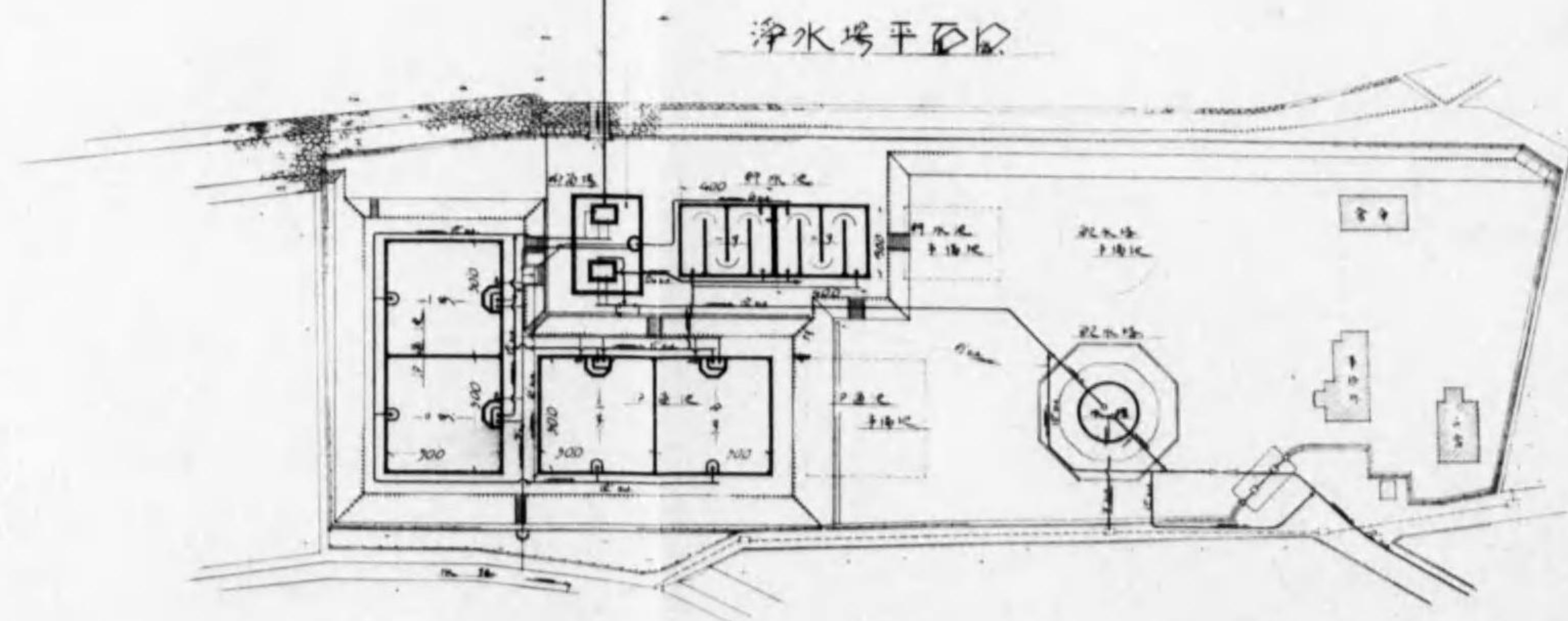
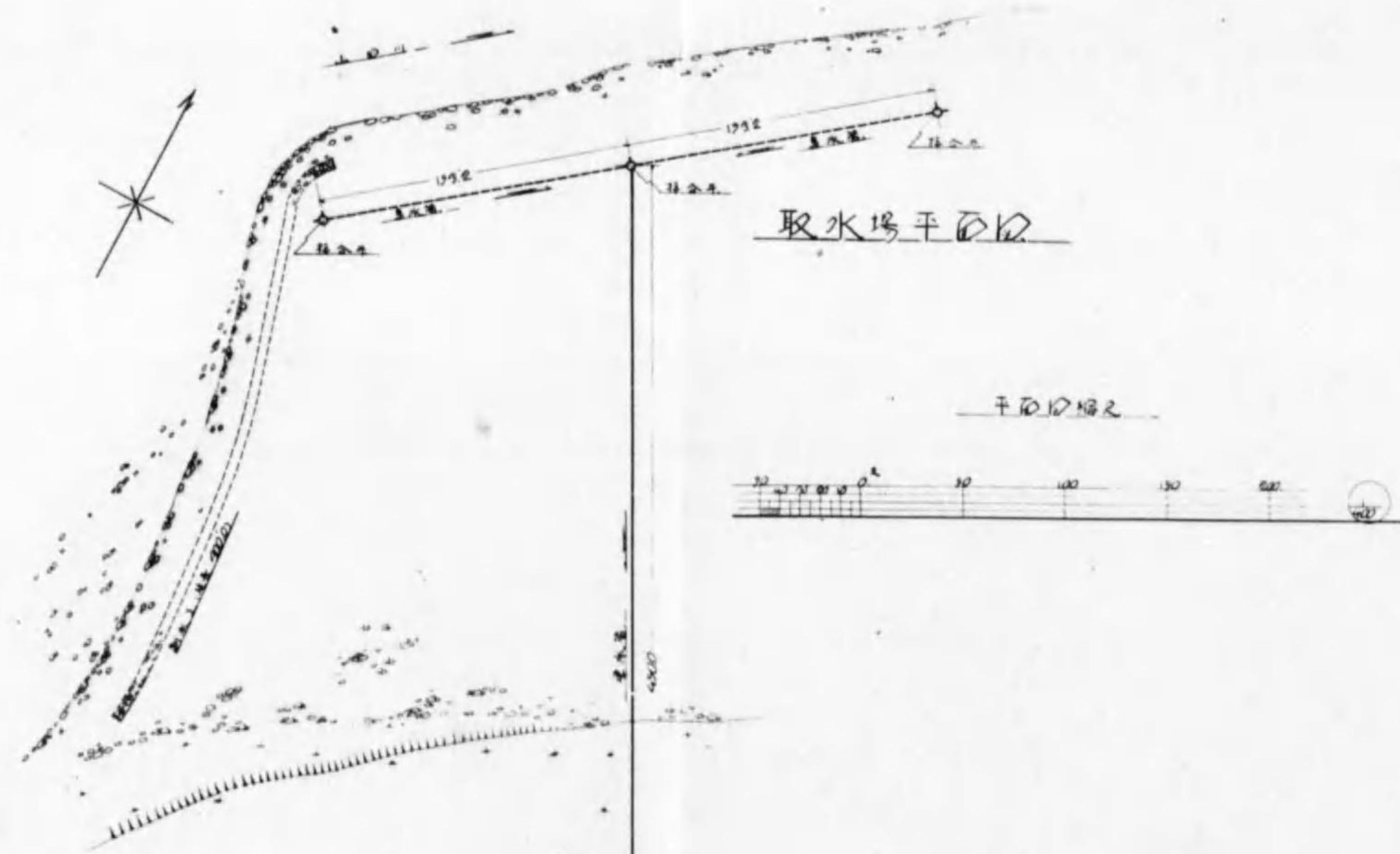
縮尺參千分之壹



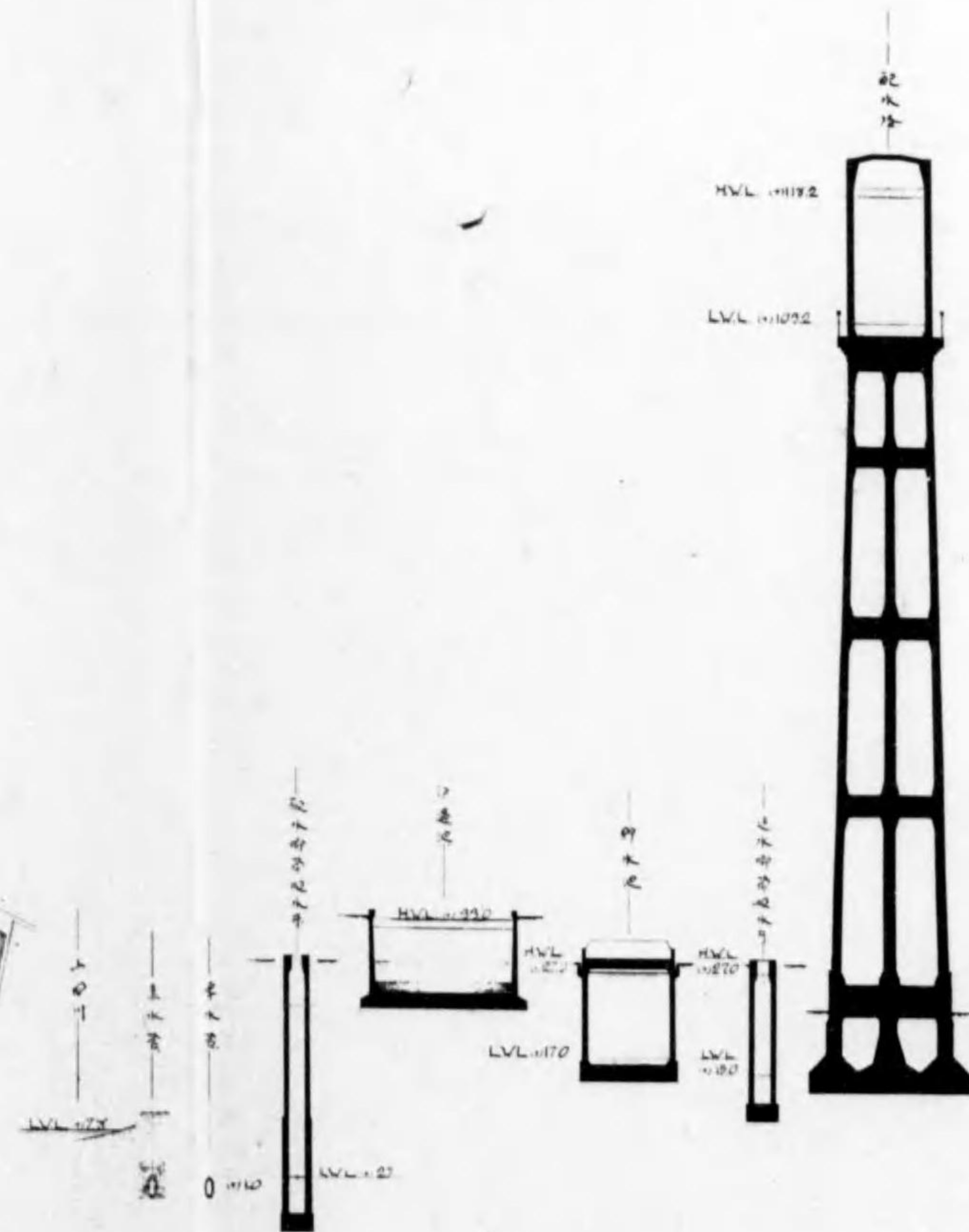
例

●	○	△	□	◇	▽	■	▲	◆	◇	▽	■	▲	◆
消防柱	排水弁	制水弁	弁	四寸	六寸	八寸	十寸	十二寸	鐵管	土管	石管	砂管	瓦管
○	□	△	◇	▽	■	▲	◆	◇	▽	■	▲	◆	◇
學校	官舎	佛宇	神社	河溝	道路	鐵道	大溝	町界	縣界	村界	町界	縣界	村界

中津町水道渡切図 附既
水源地之図

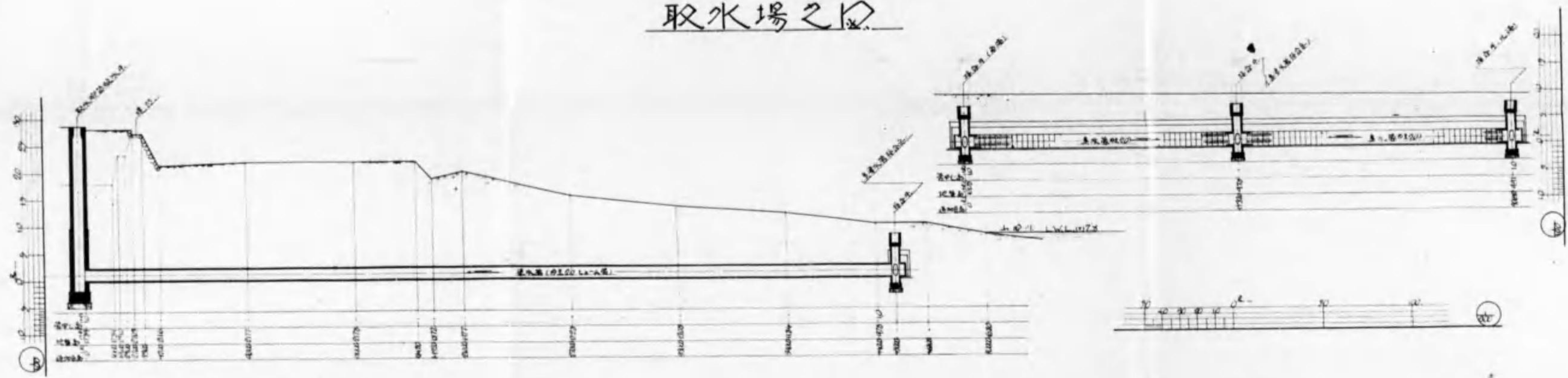


水位高低比較図

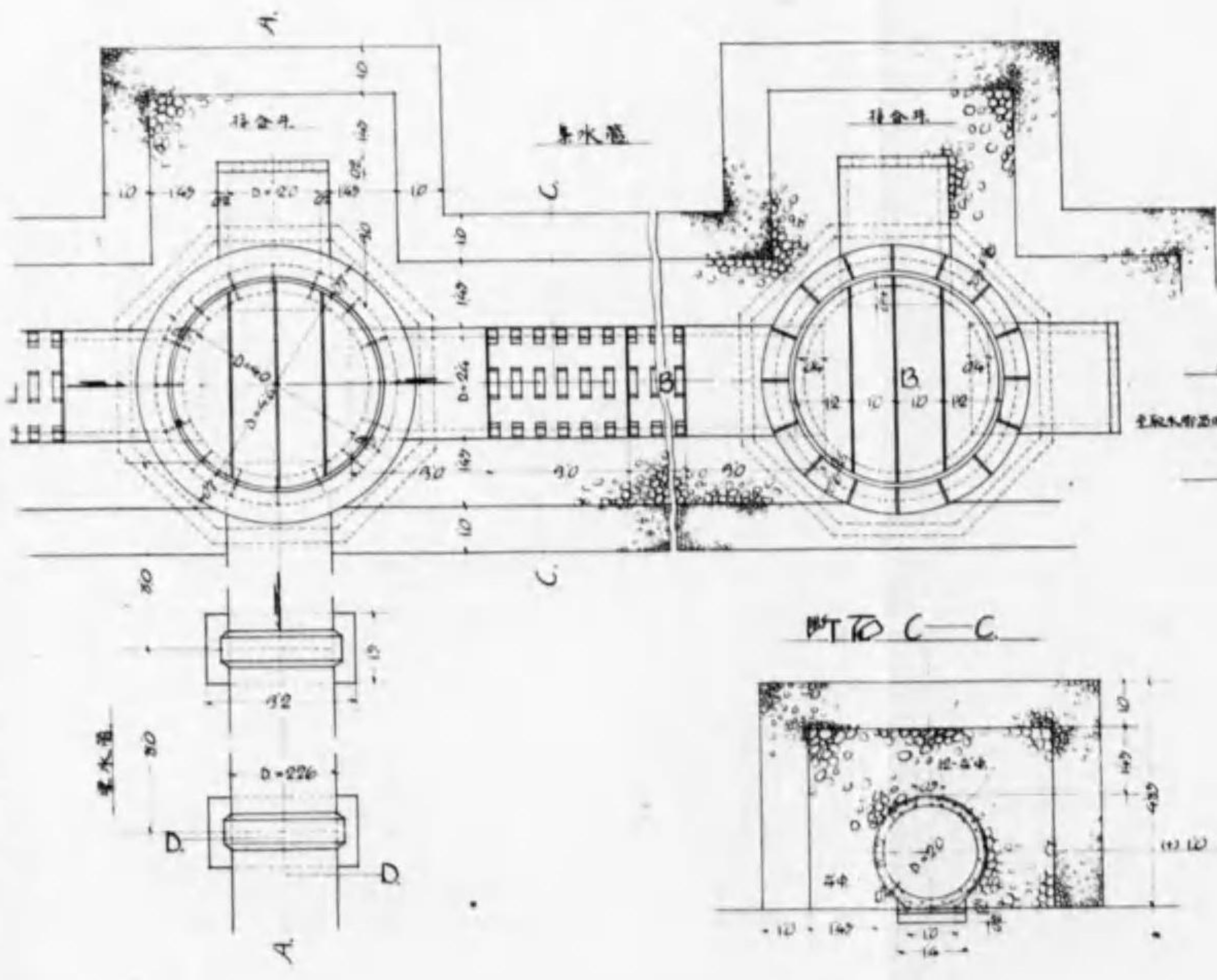


中津町水道竣工図 第三

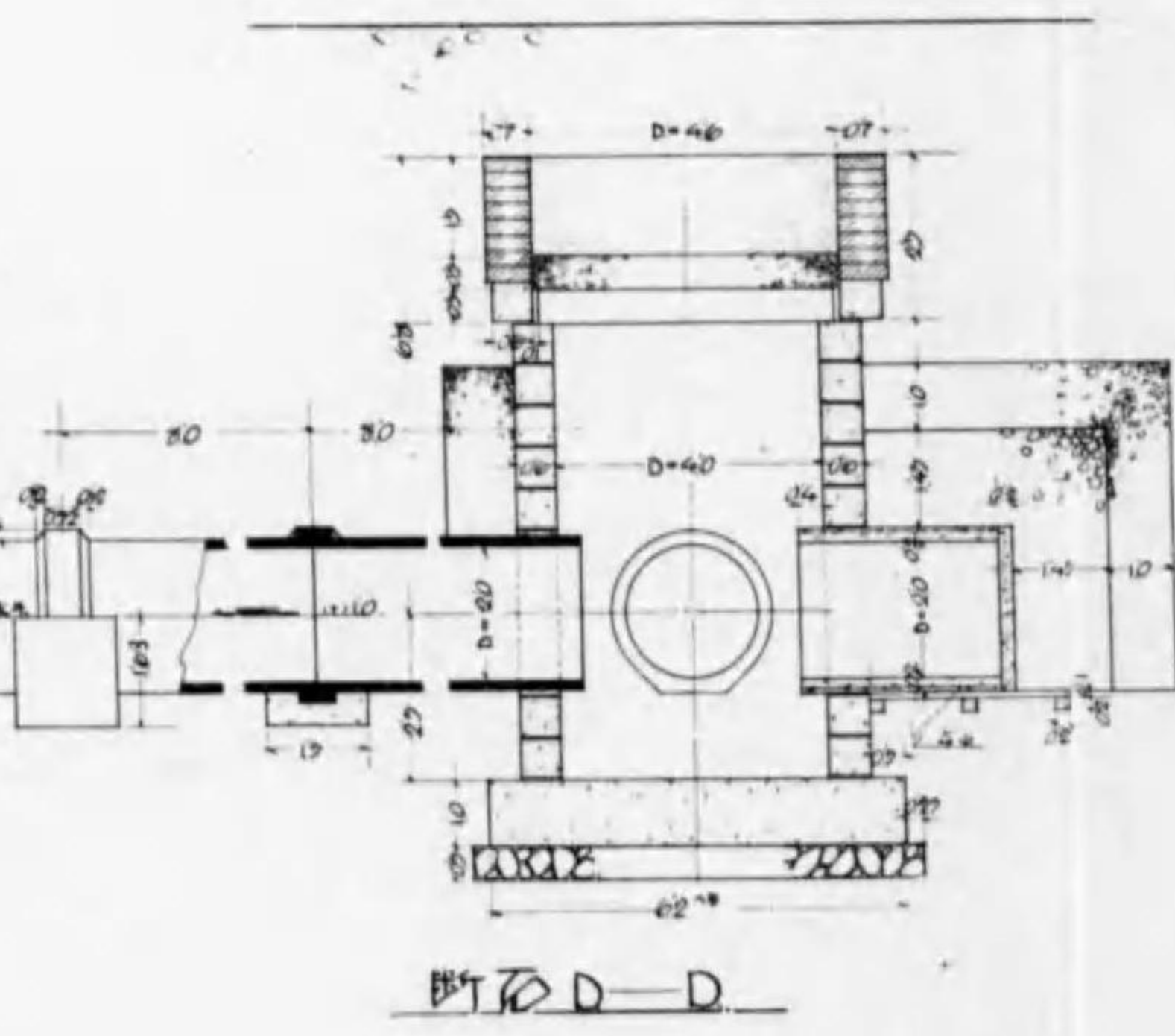
取水場之図



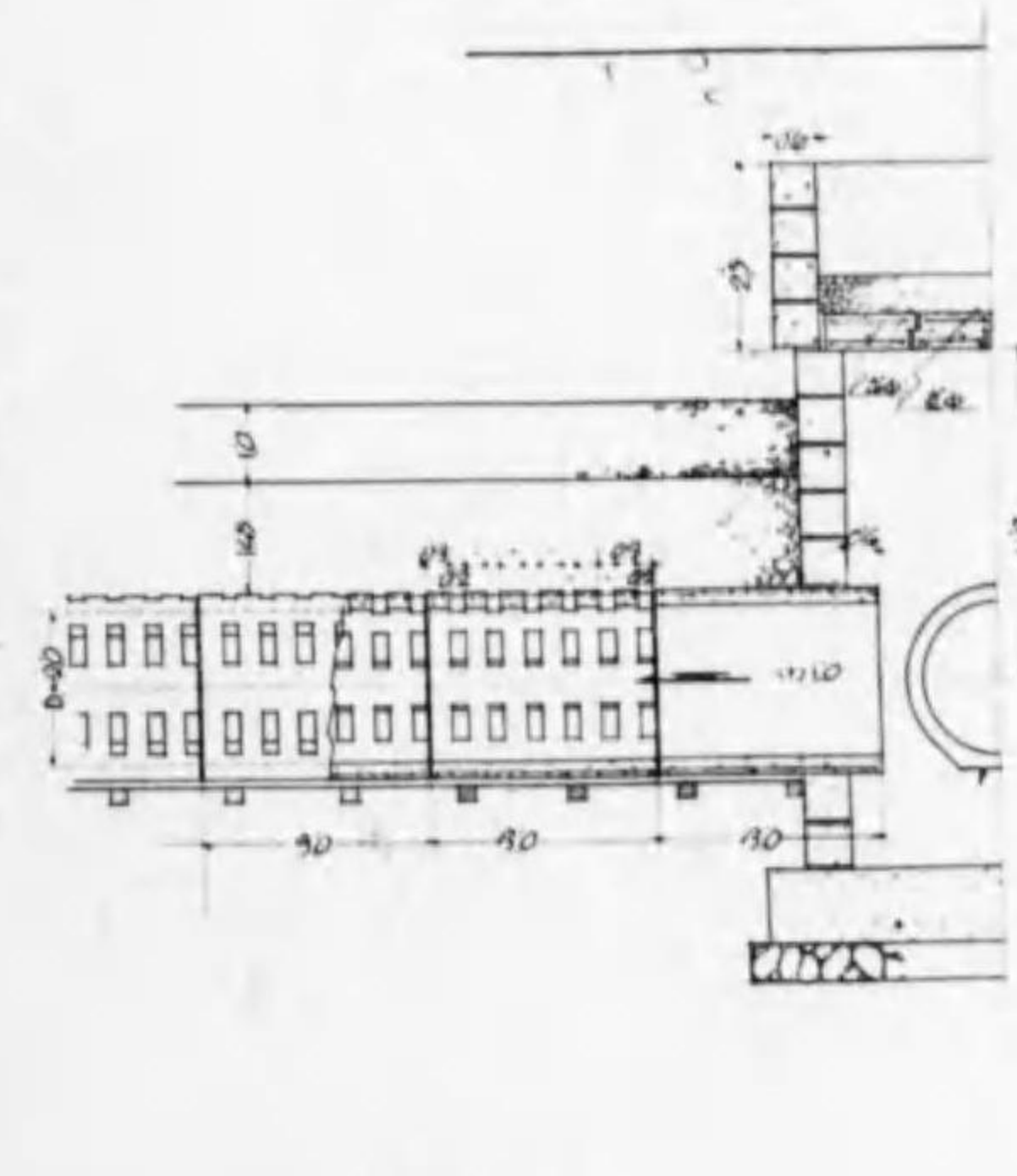
平面図



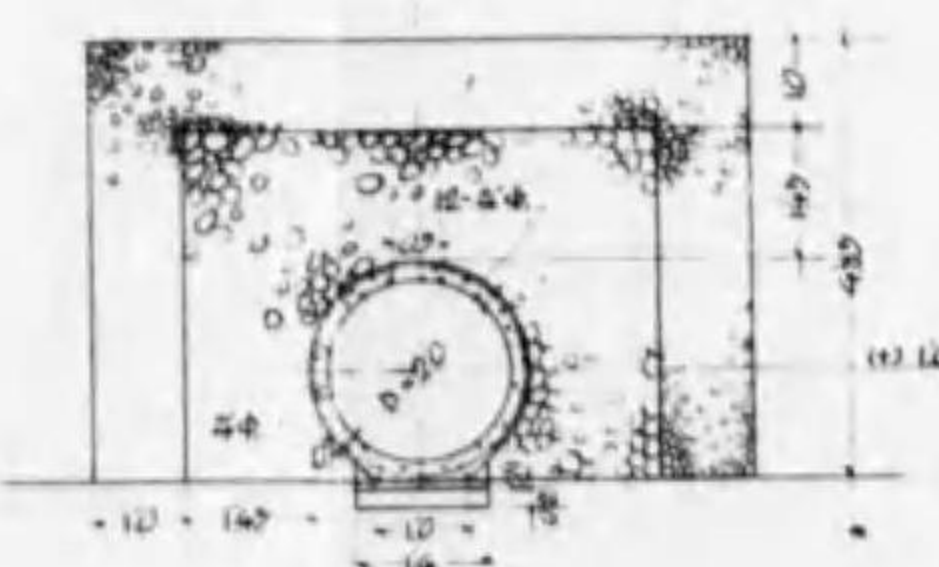
断面 A-A



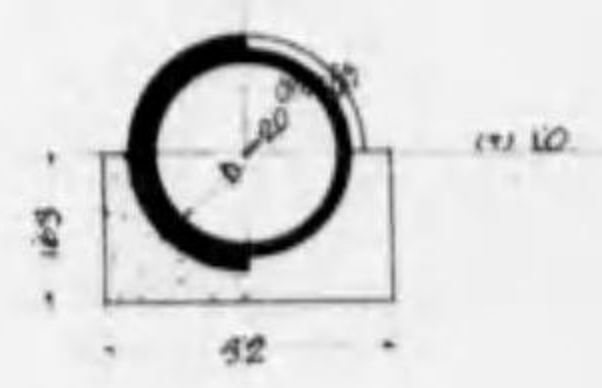
断面 B-B



断面 C-C



断面 D-D

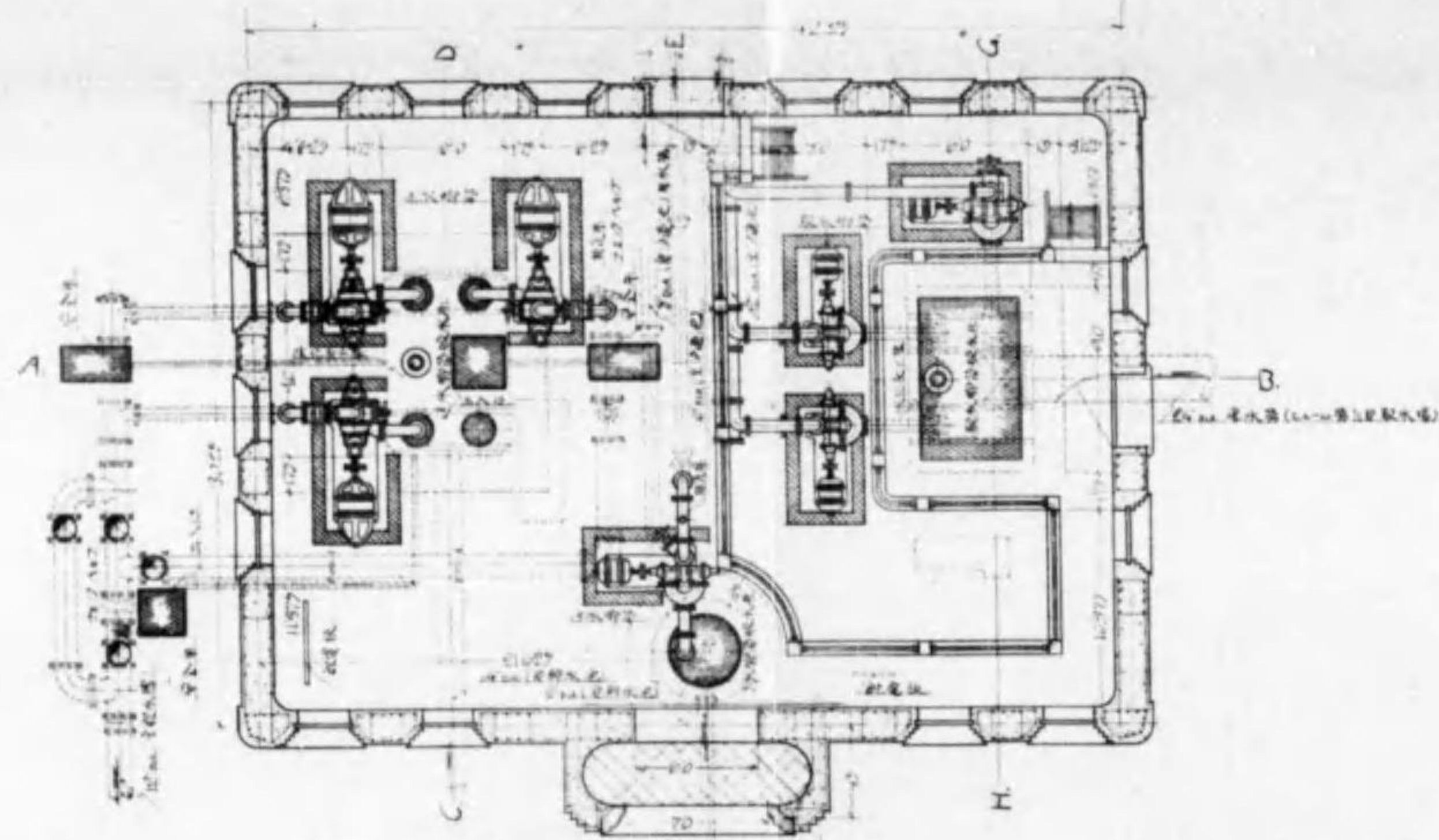


断面 E-E

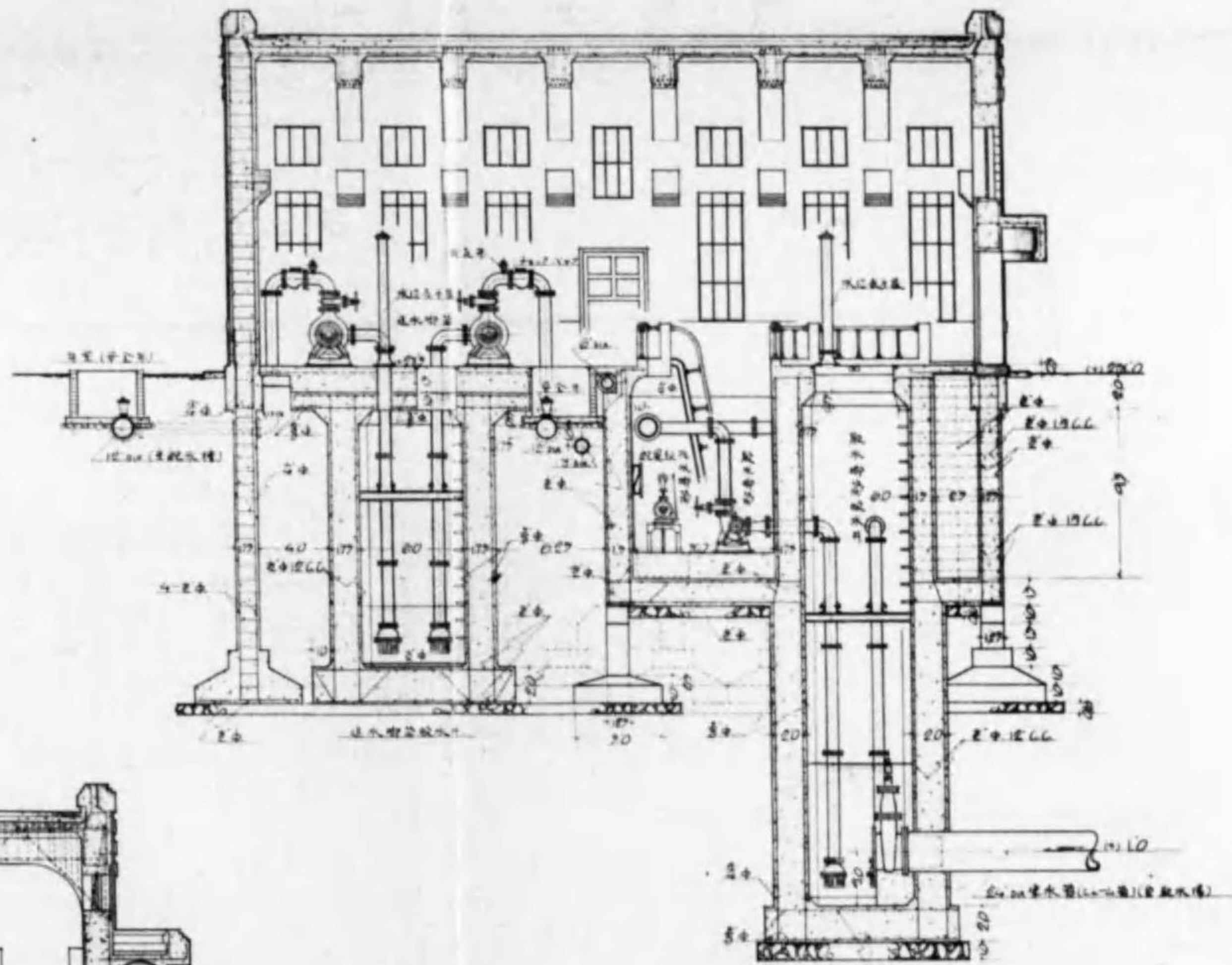


中津町水道施設 附圖
唧筒場之圖

平面圖

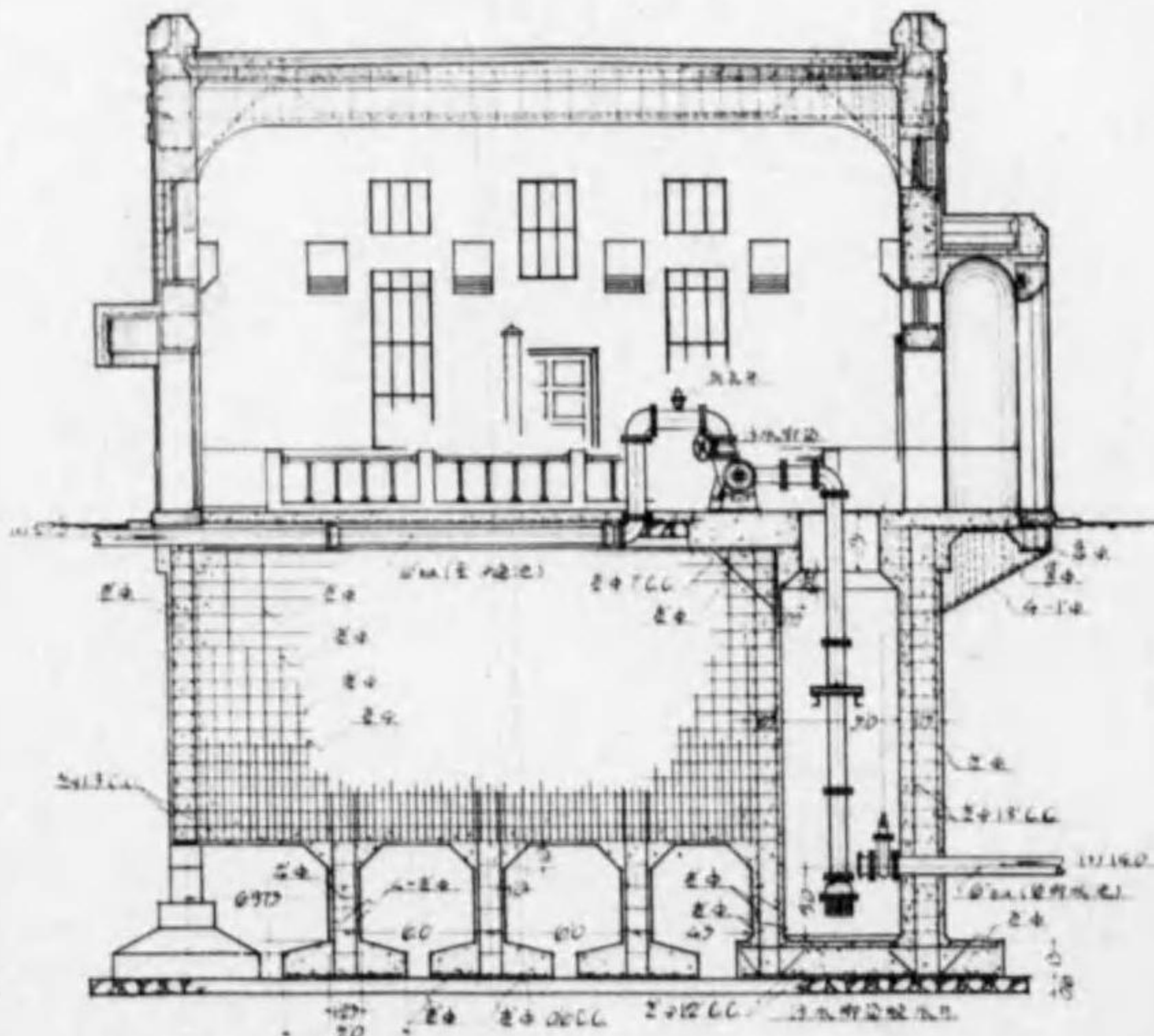
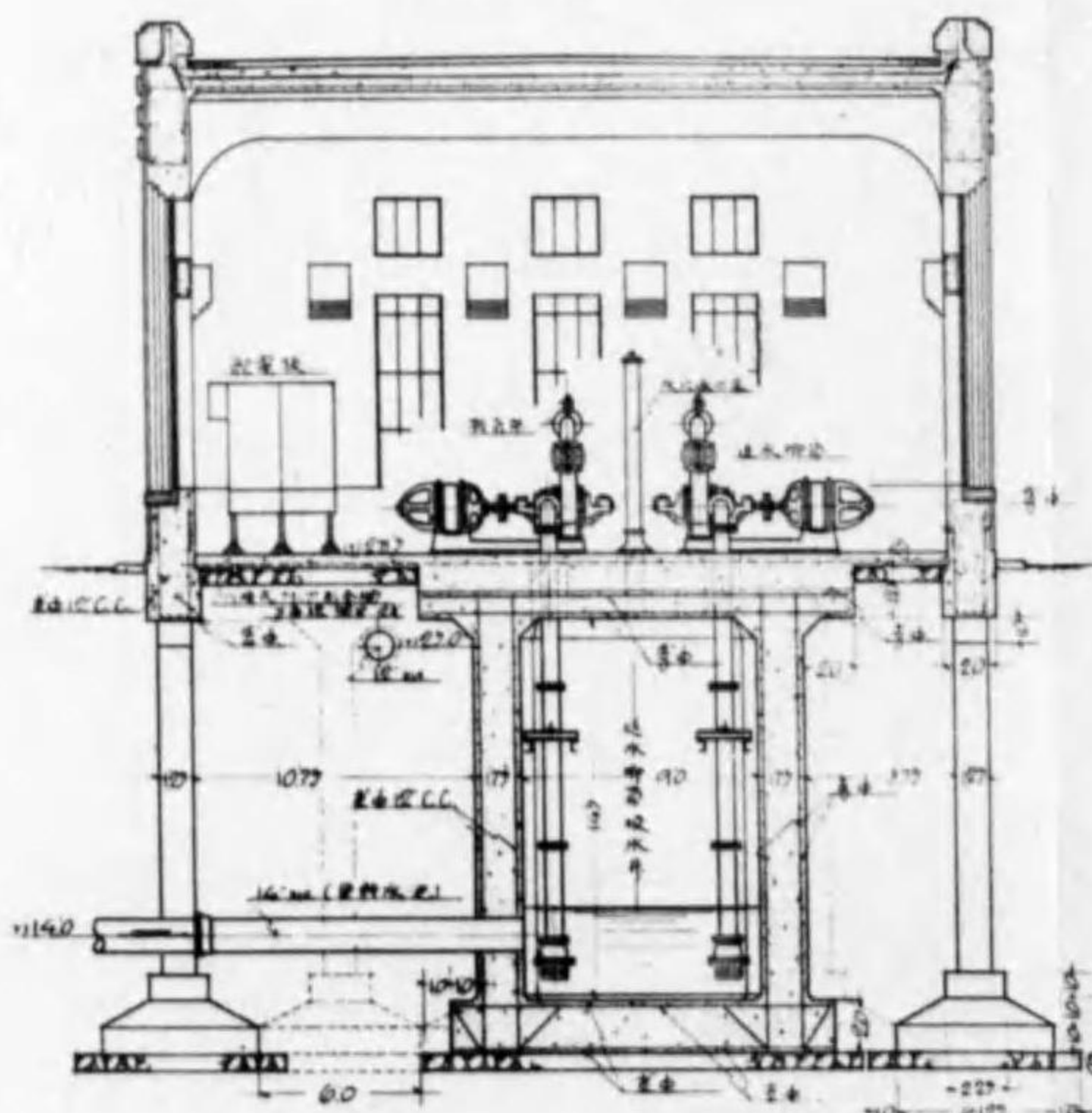


断面 A—B

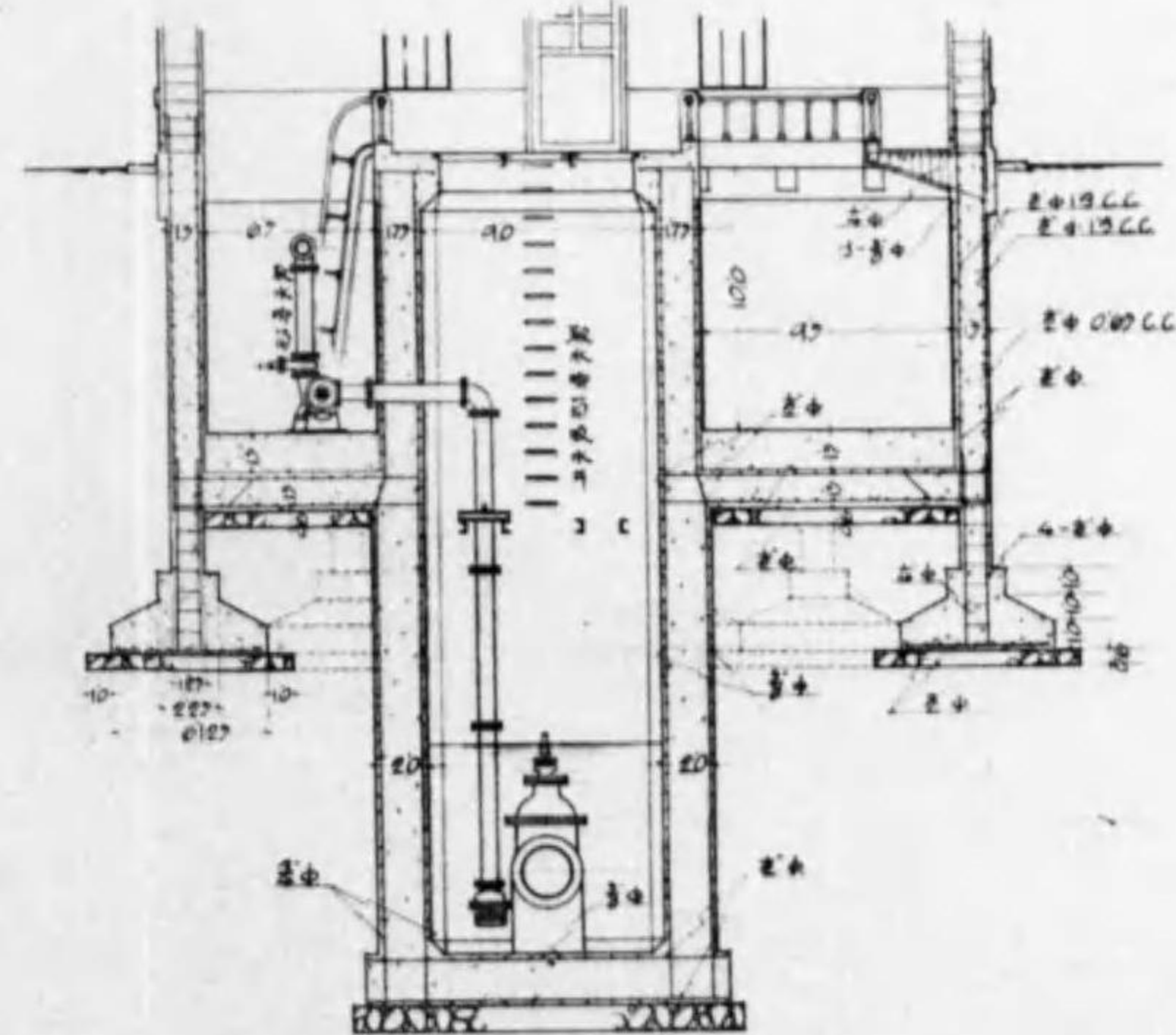


断面 C—D

断面 E—F



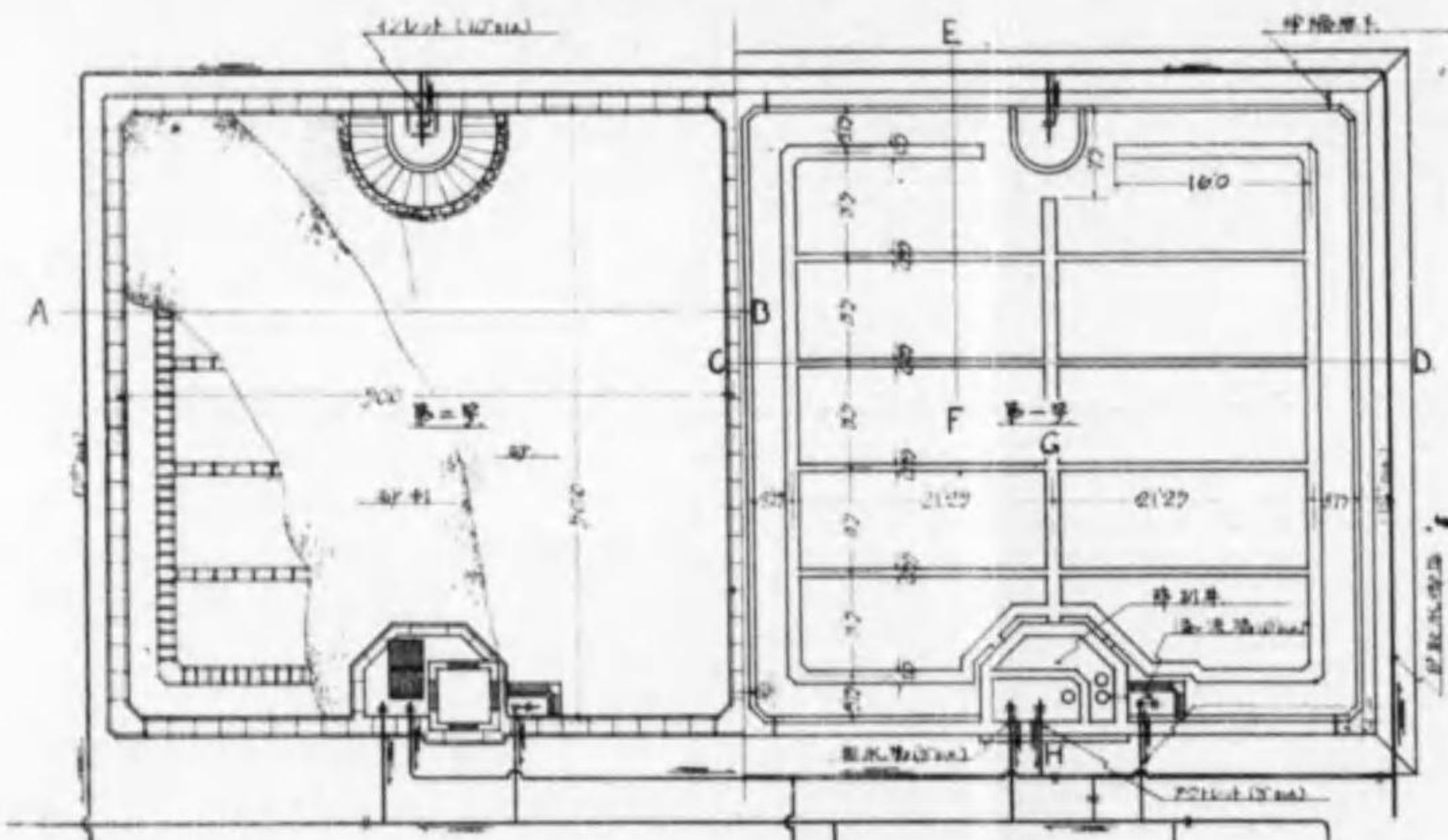
断面 G—H



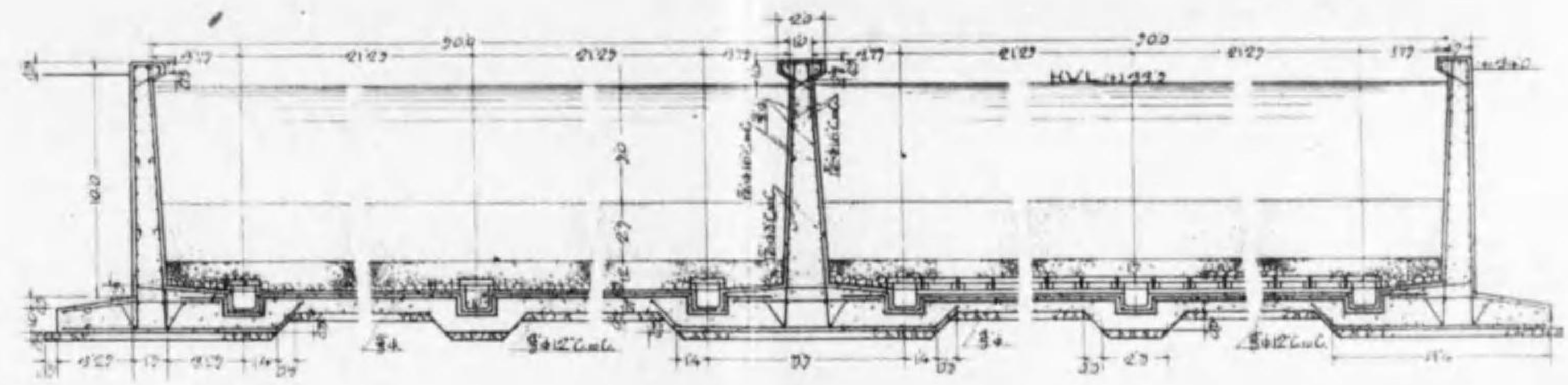
中津町水道竣工圖 頁 8

濾過池之圖

一般平面圖

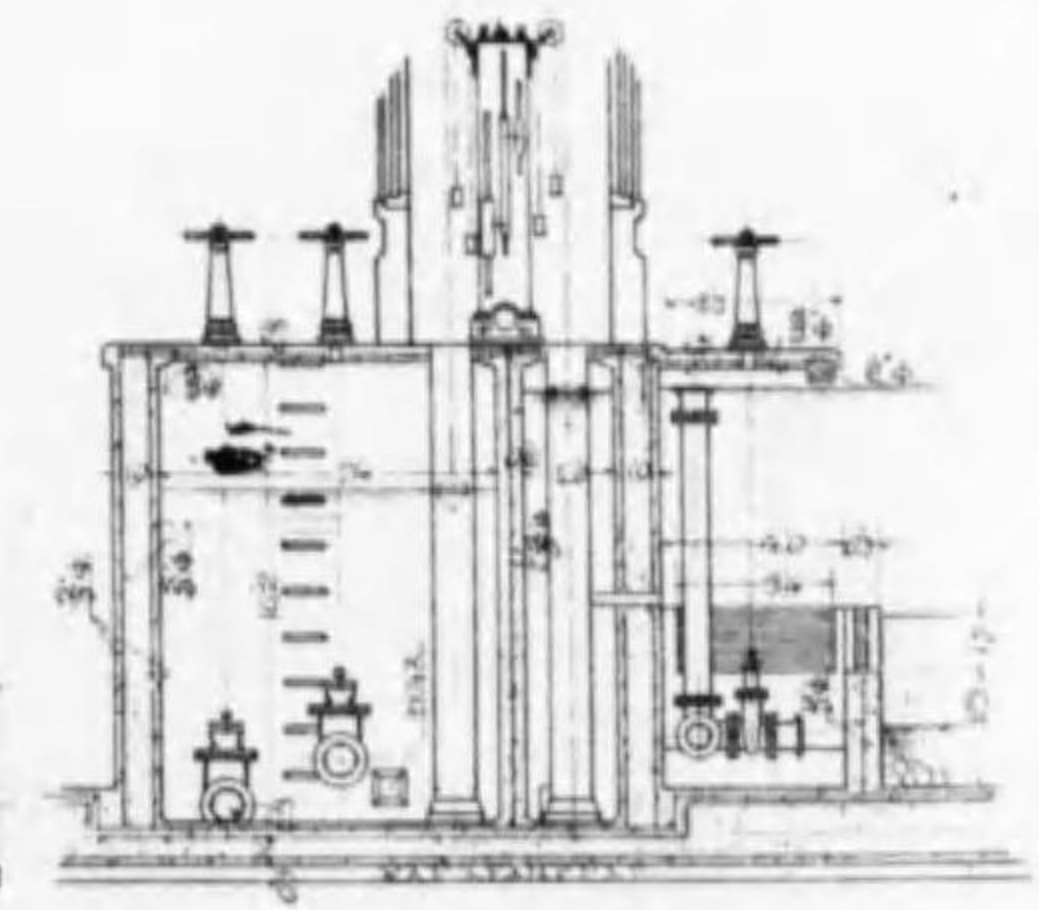


断面 A-B



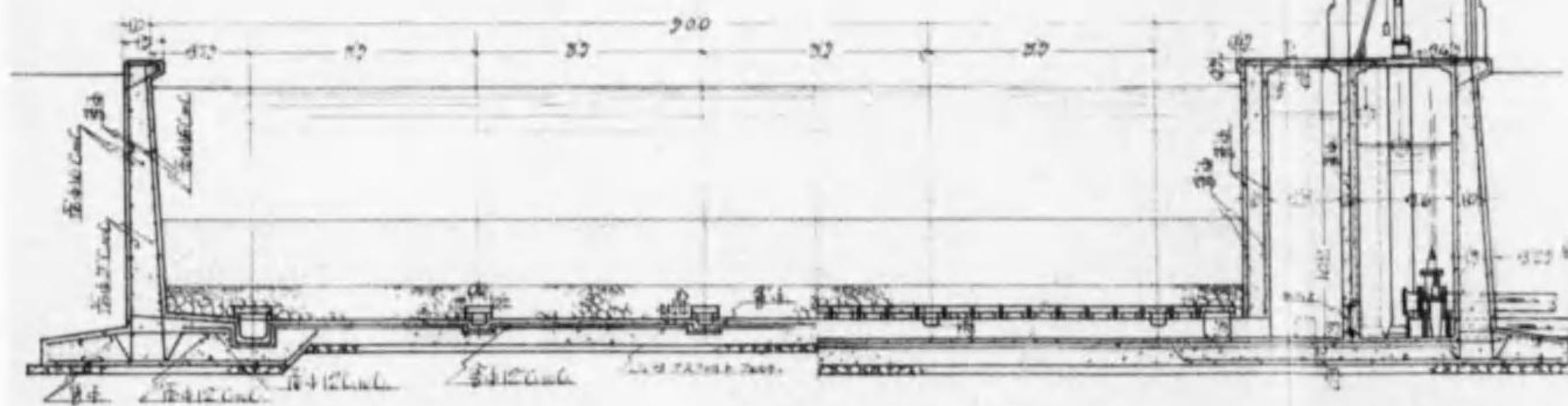
断面 C-D

断面 J-K



断面 E-F

断面 G-H

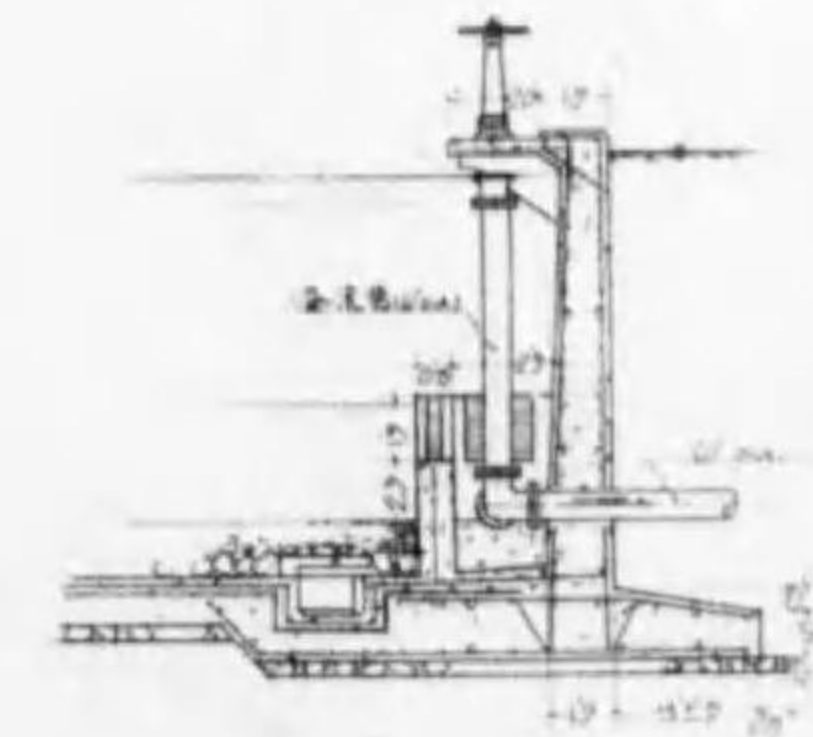
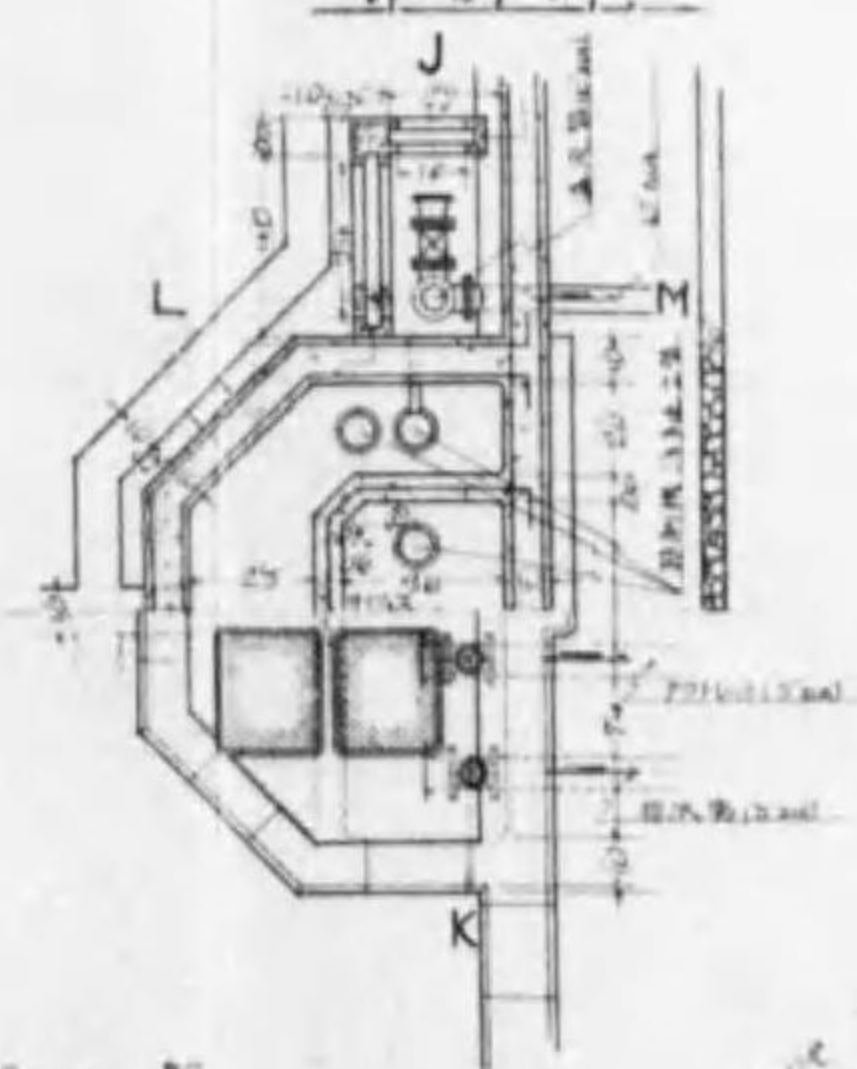
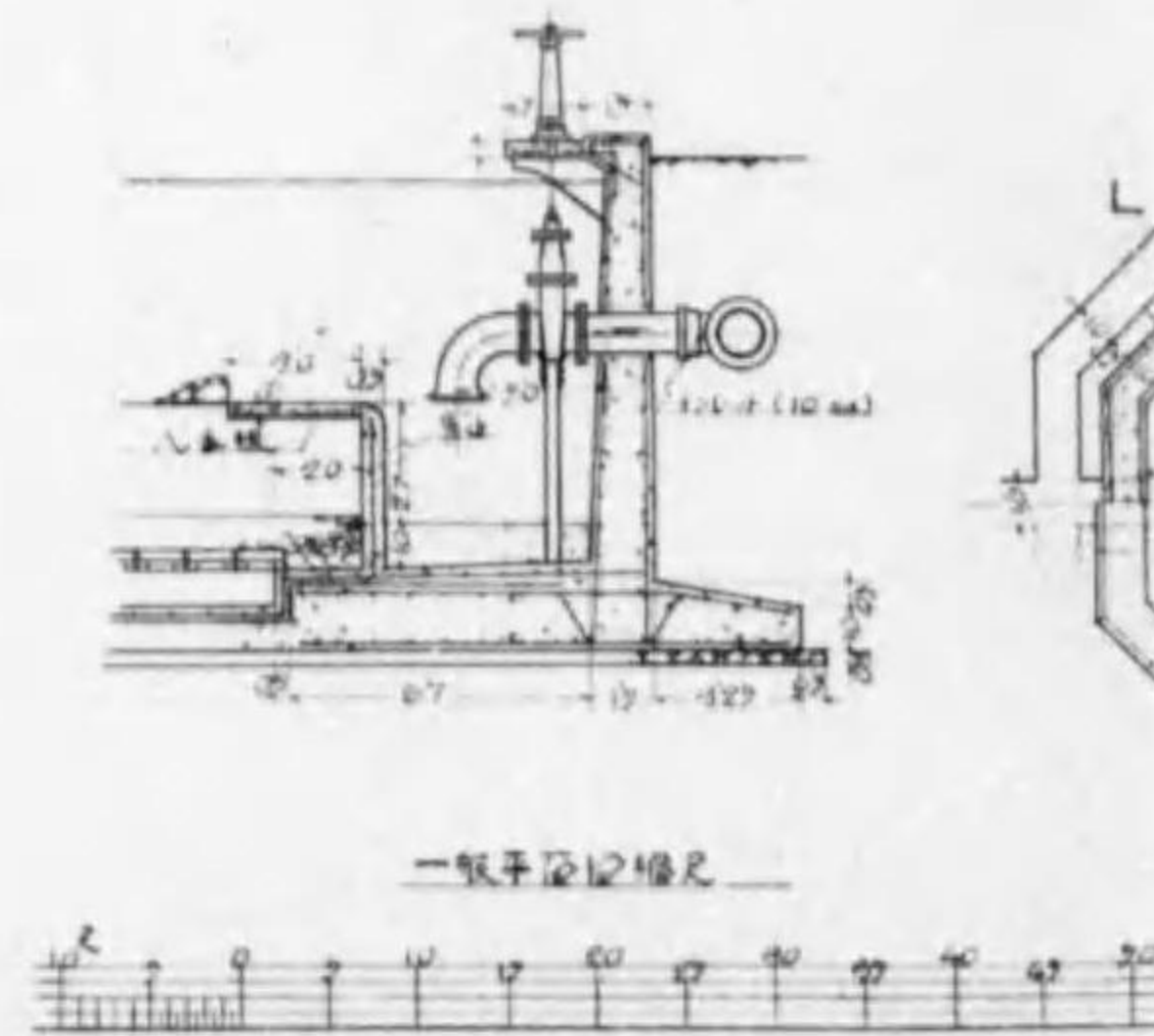
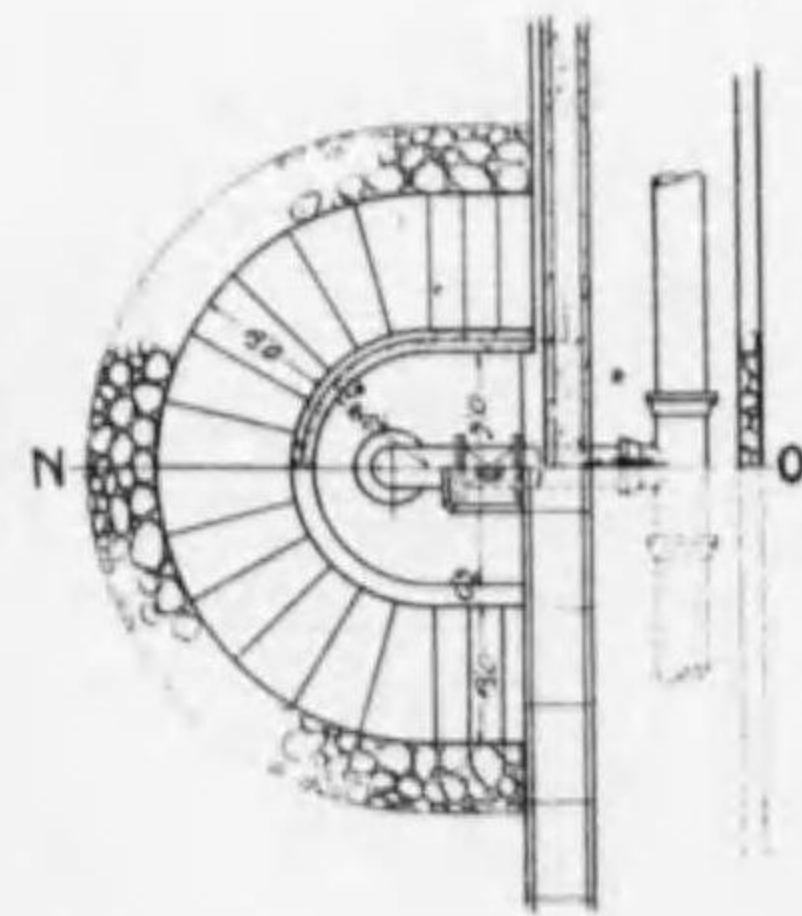
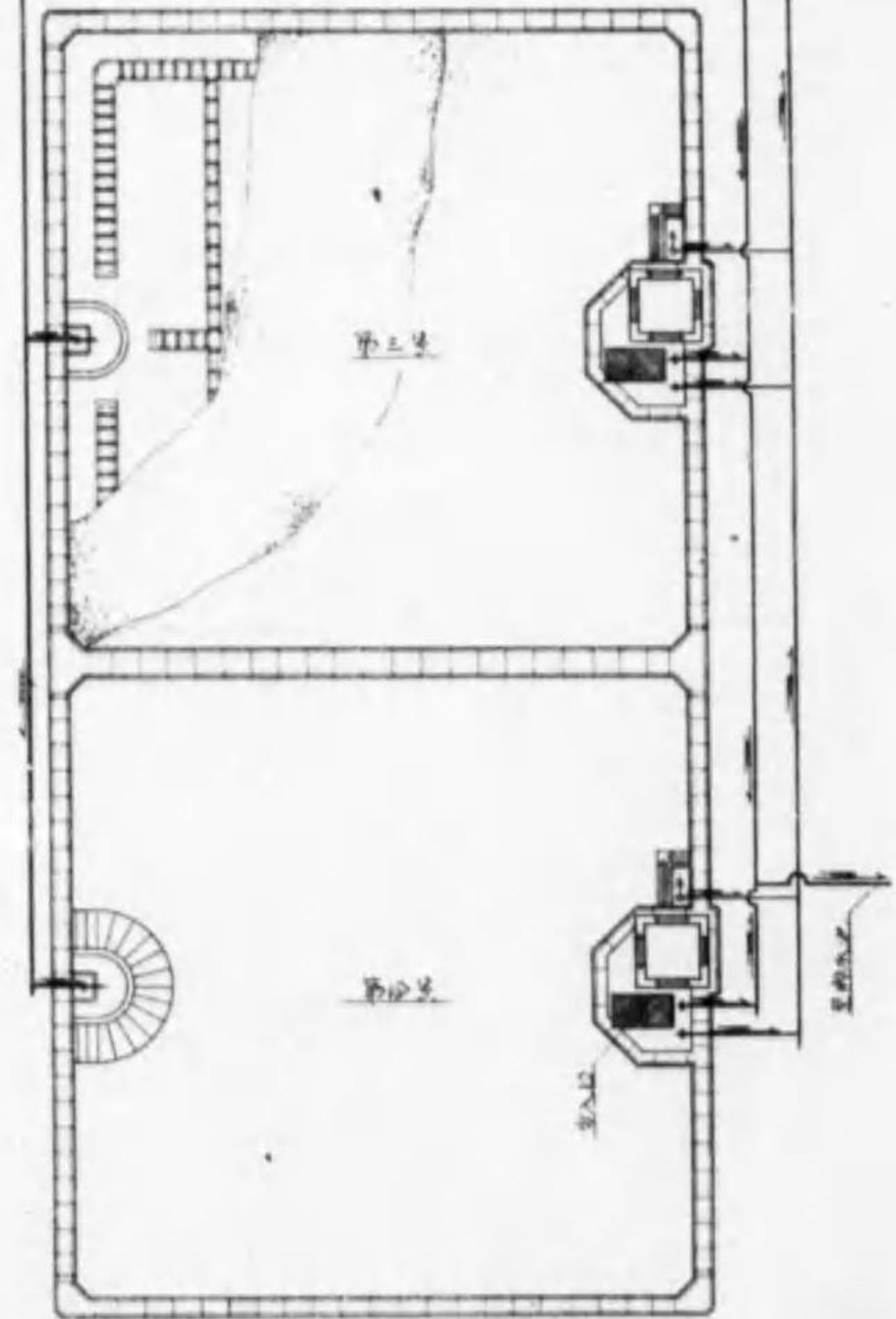


入口

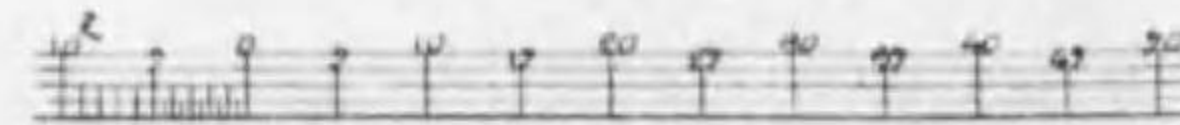
断面 N-O

節別井

断面 L-M



一般平面図縮尺



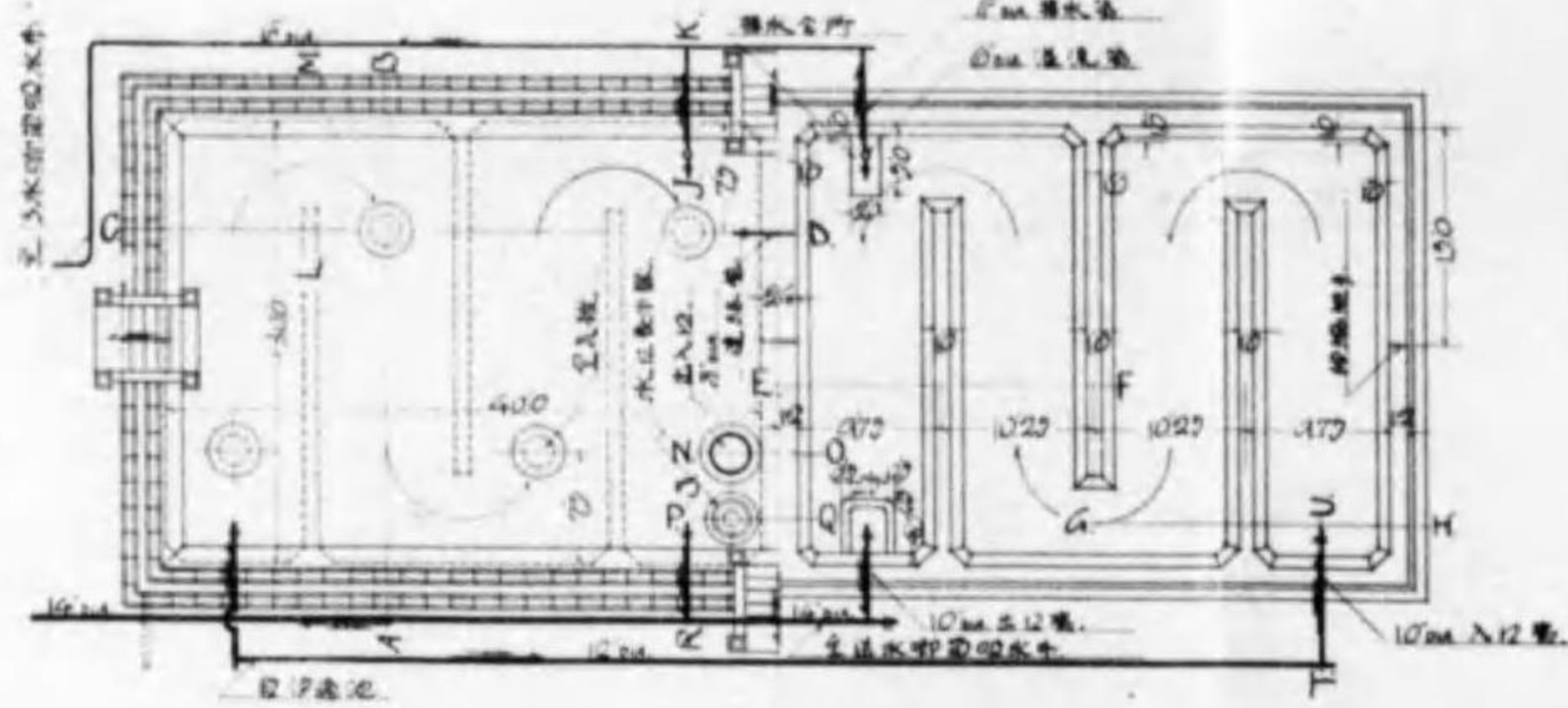
詳細図縮尺



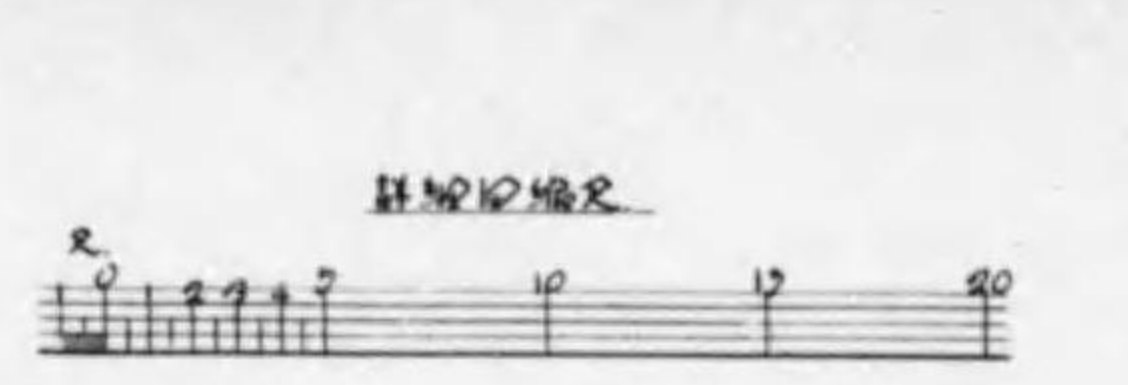
中津町水道竣工圖 其六

貯水池之圖

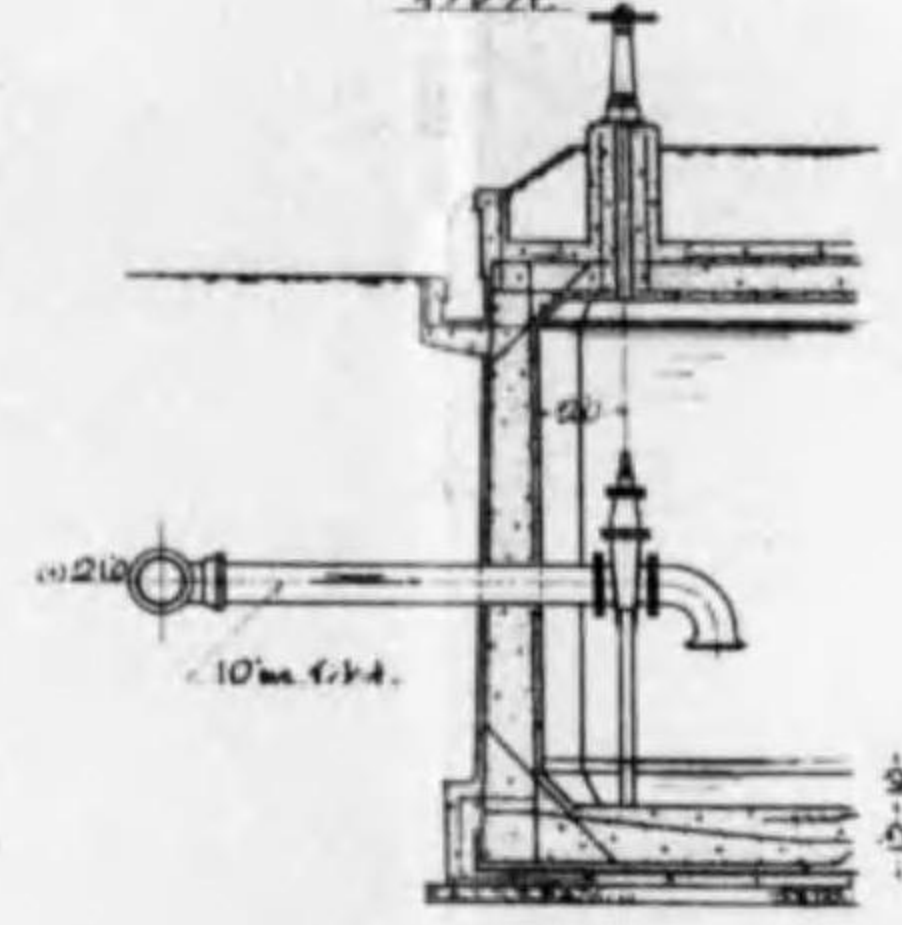
一般平面圖



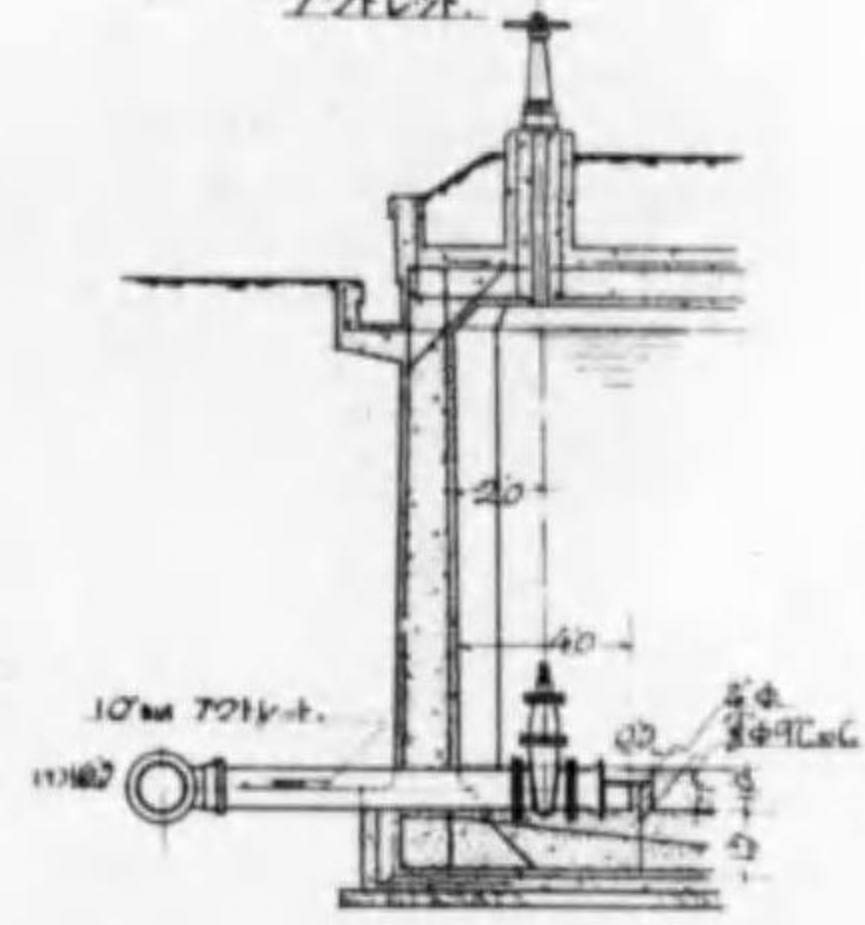
一般平面縮尺



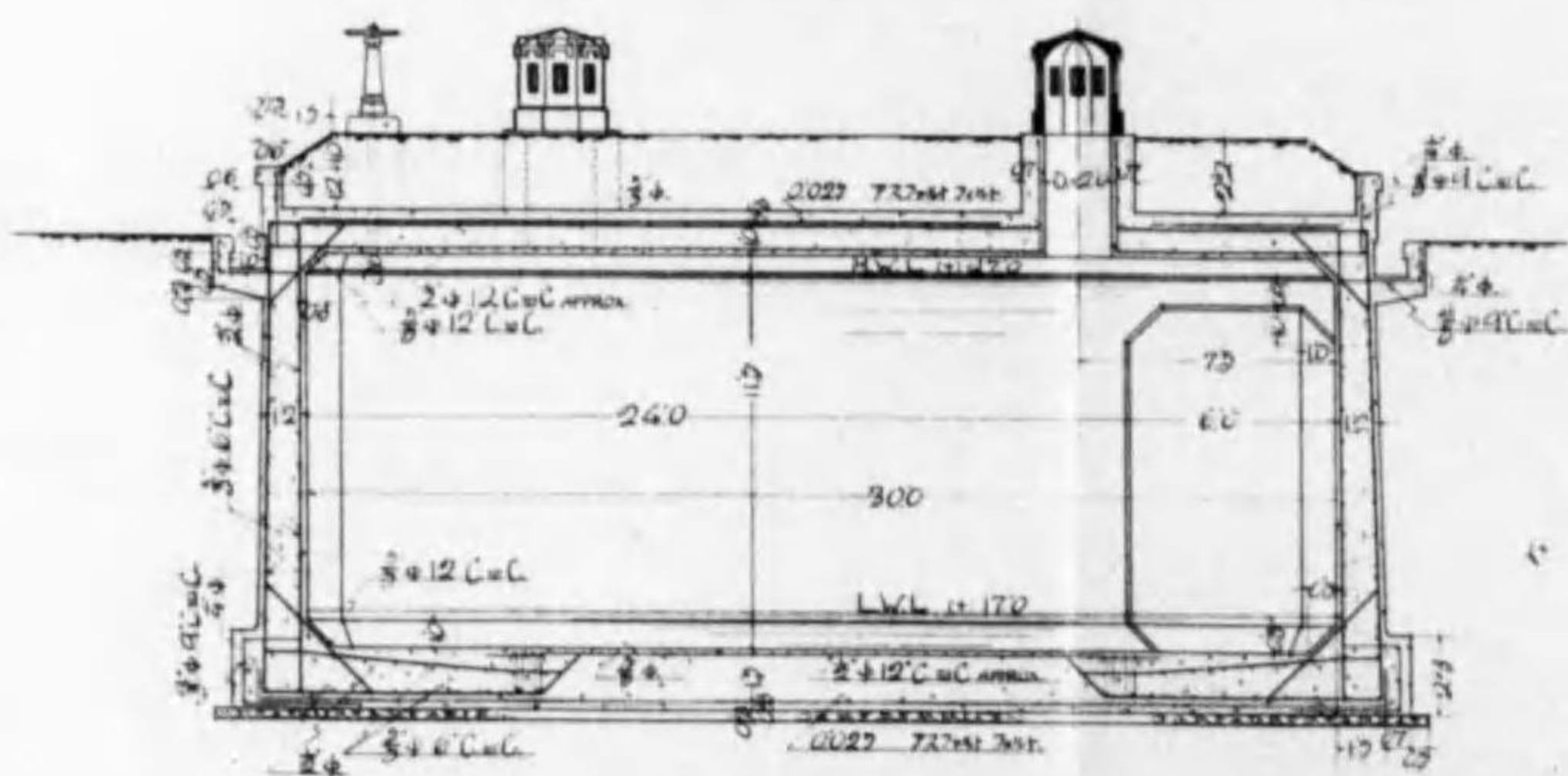
断面 T-U



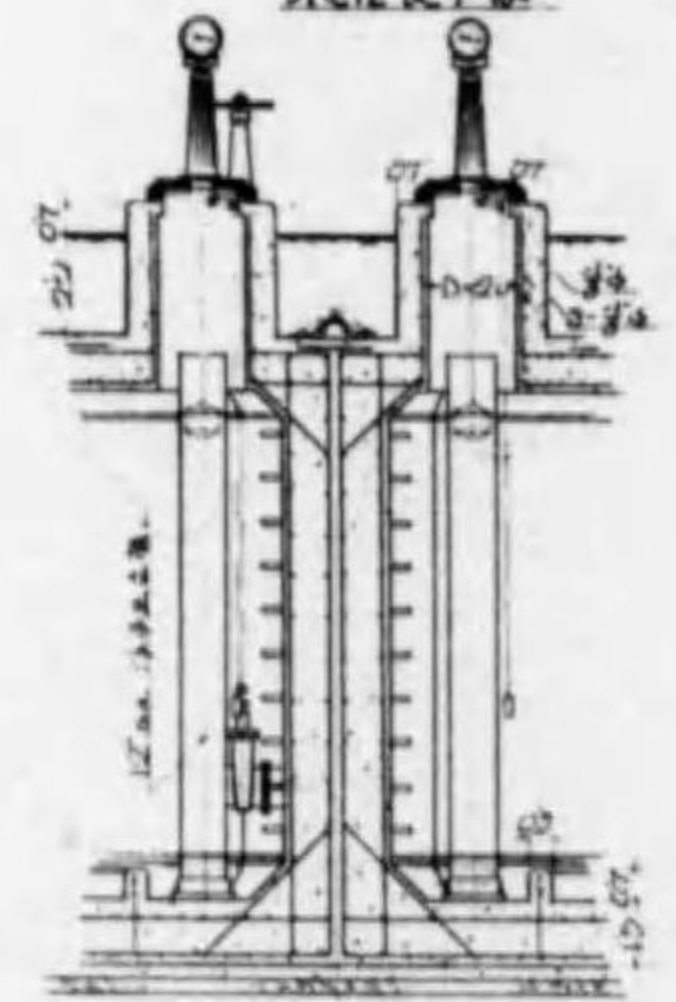
断面 R-S



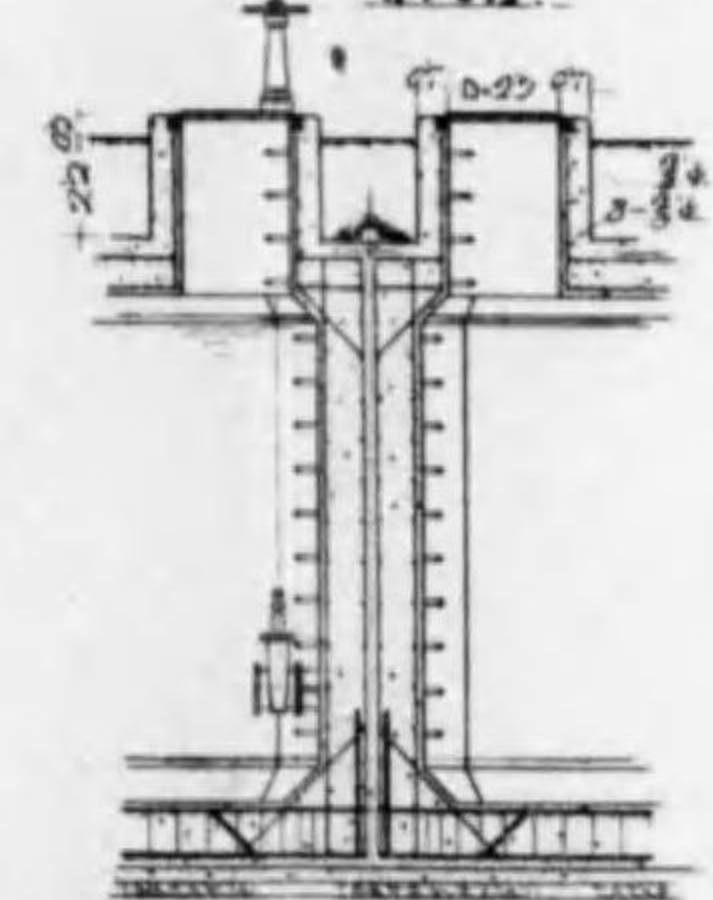
断面 A-B



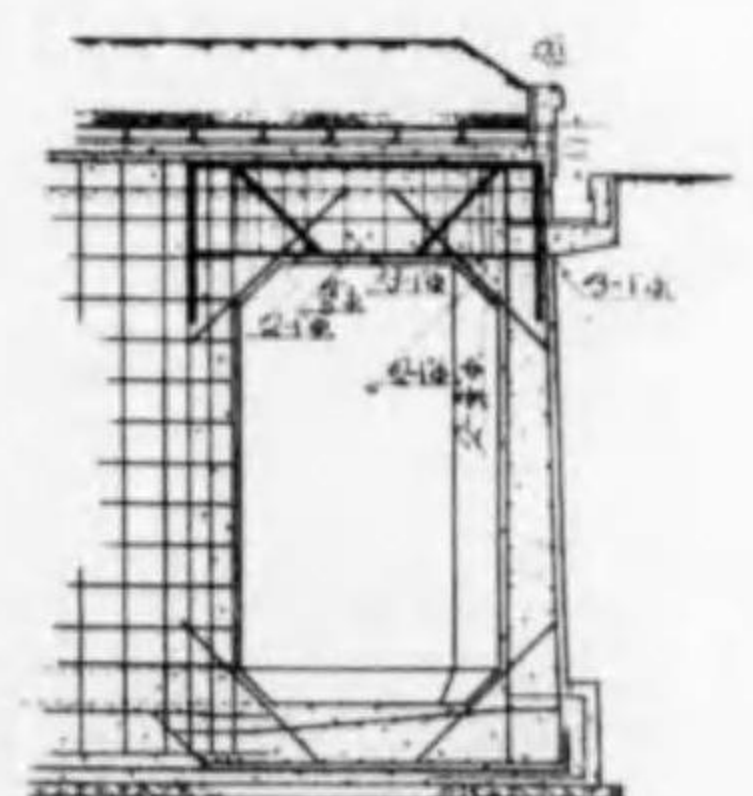
断面 P-Q



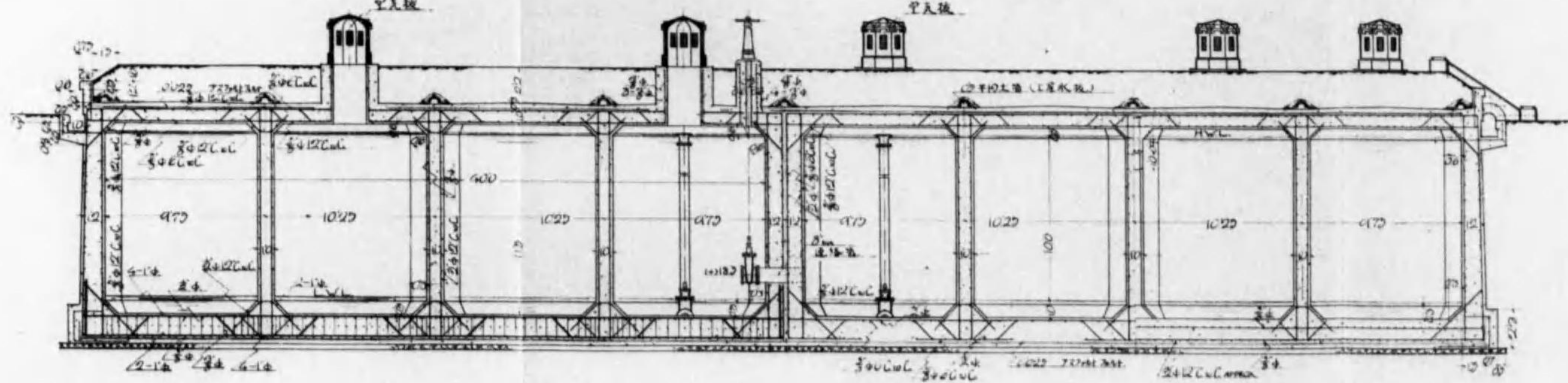
断面 N-O



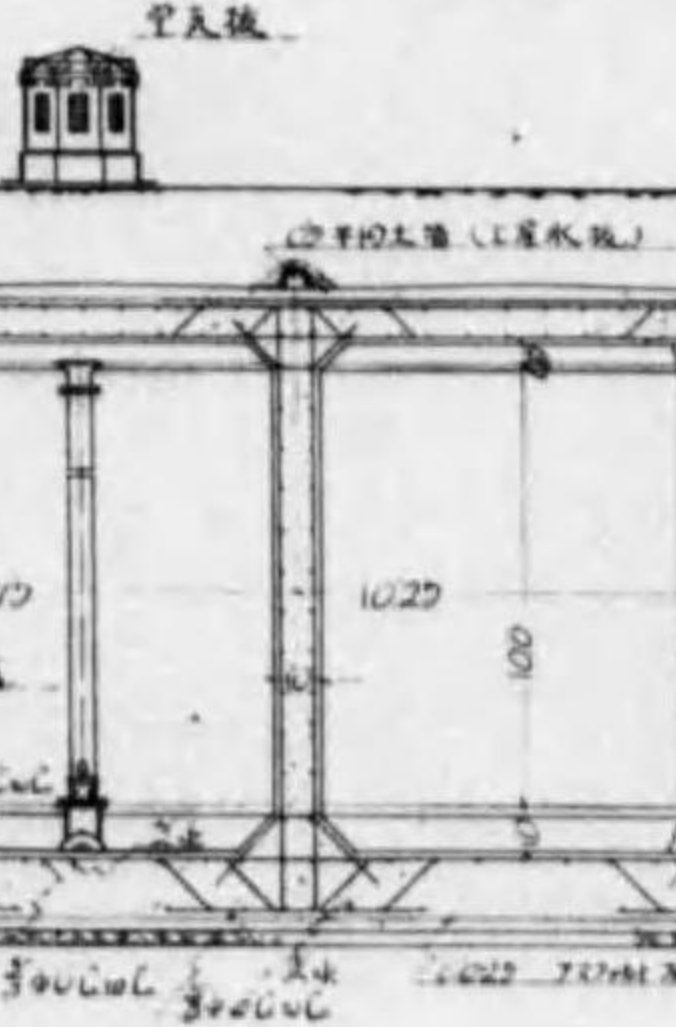
断面 L-M



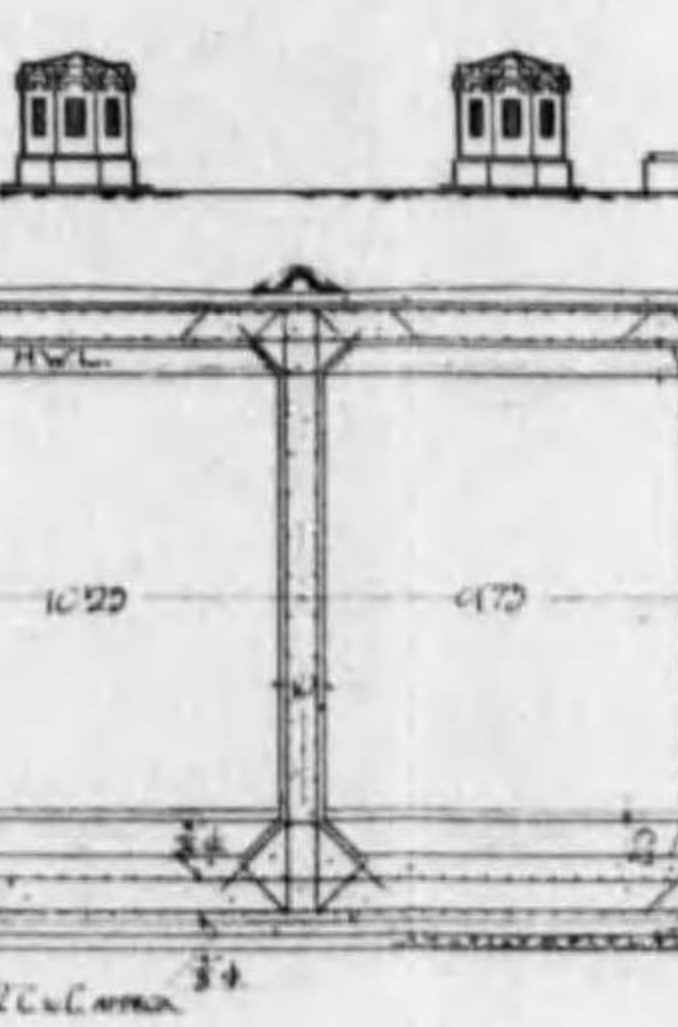
断面 C-D



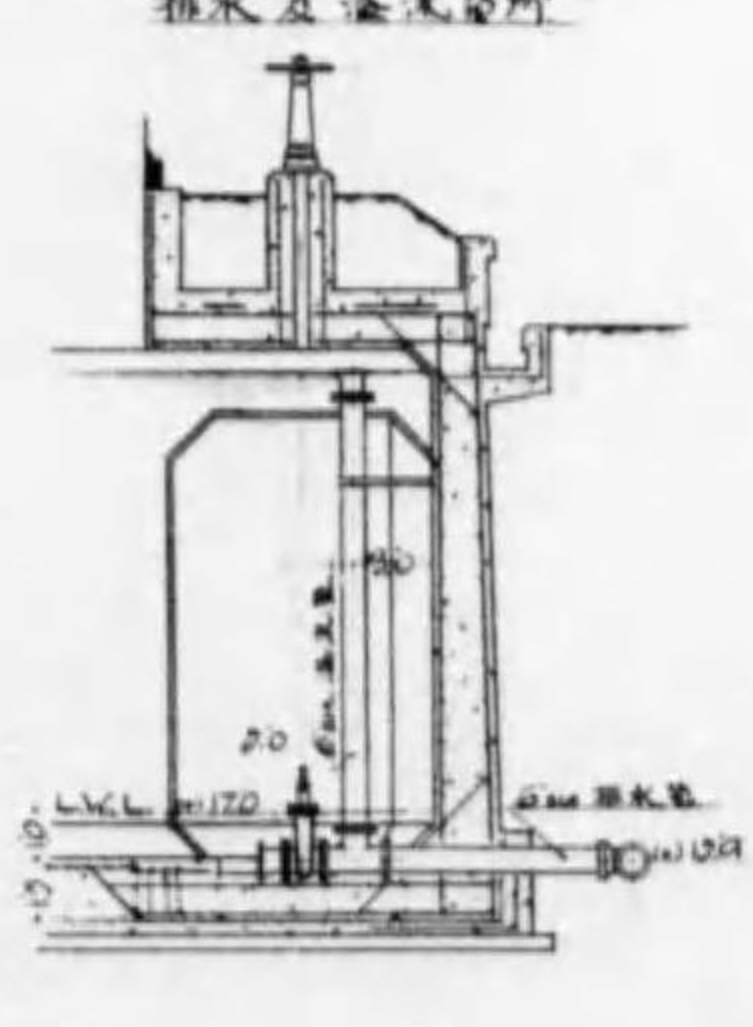
断面 E-F



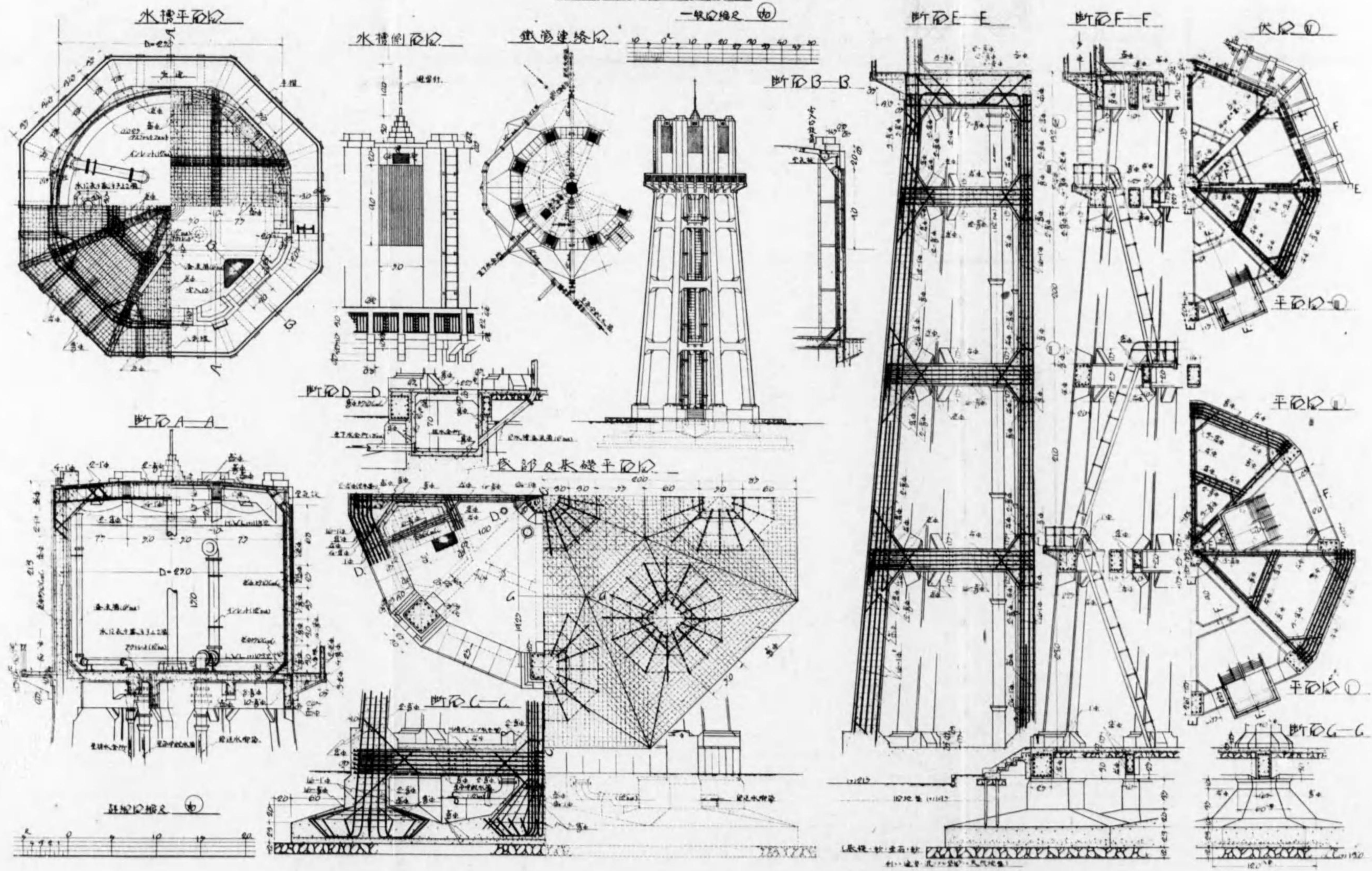
断面 G-H



断面 J-K

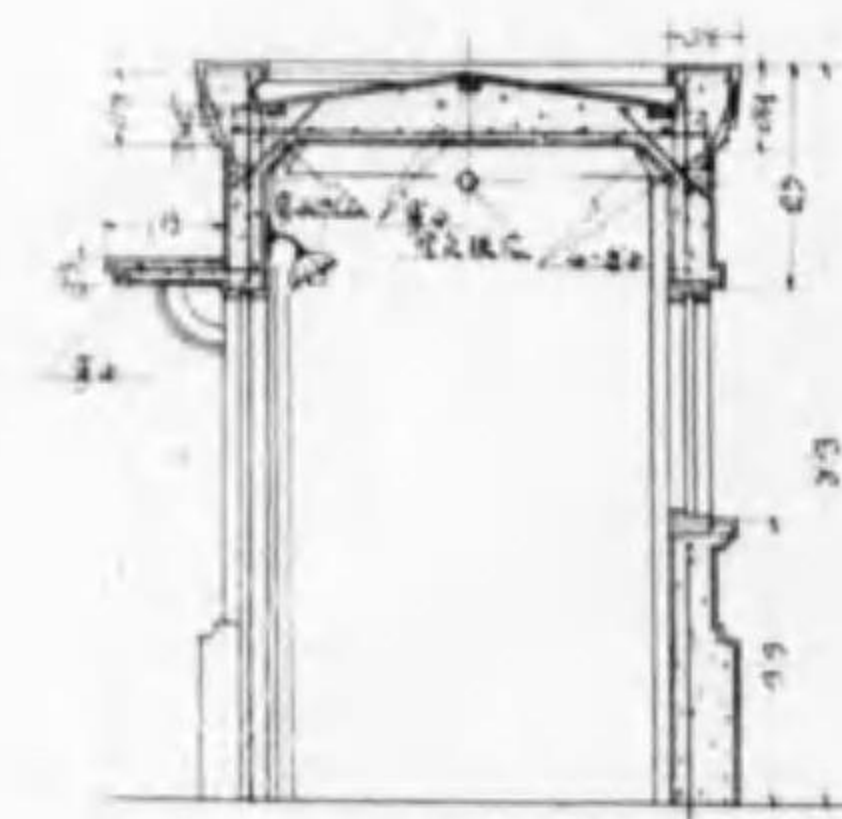
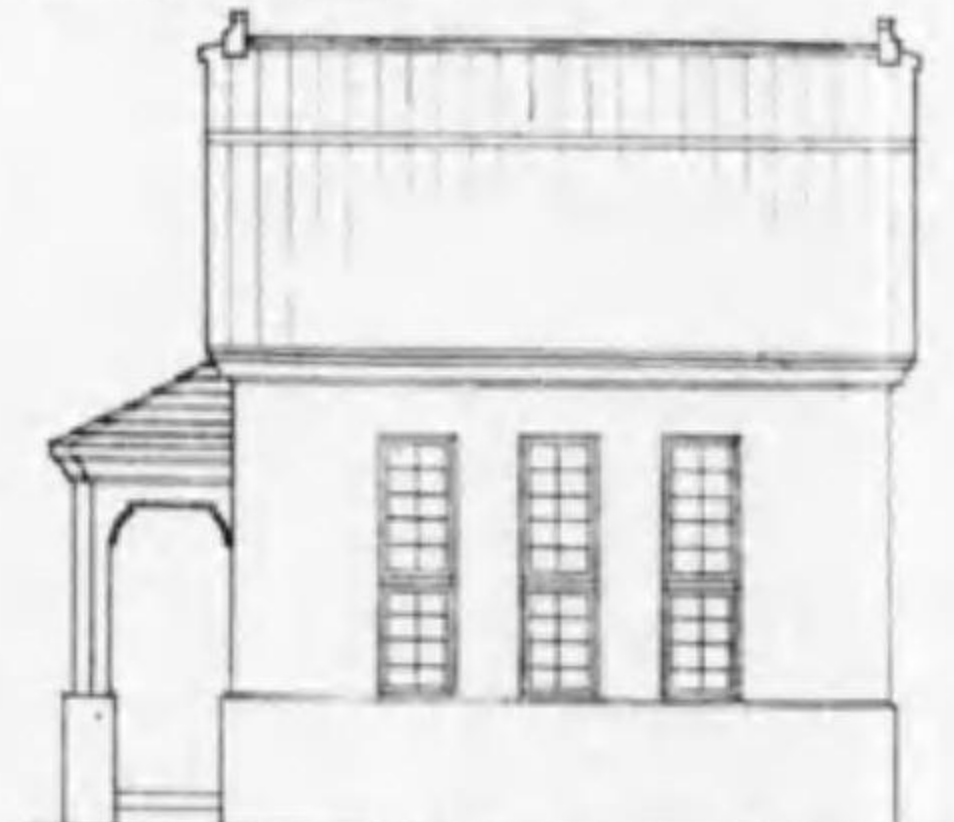
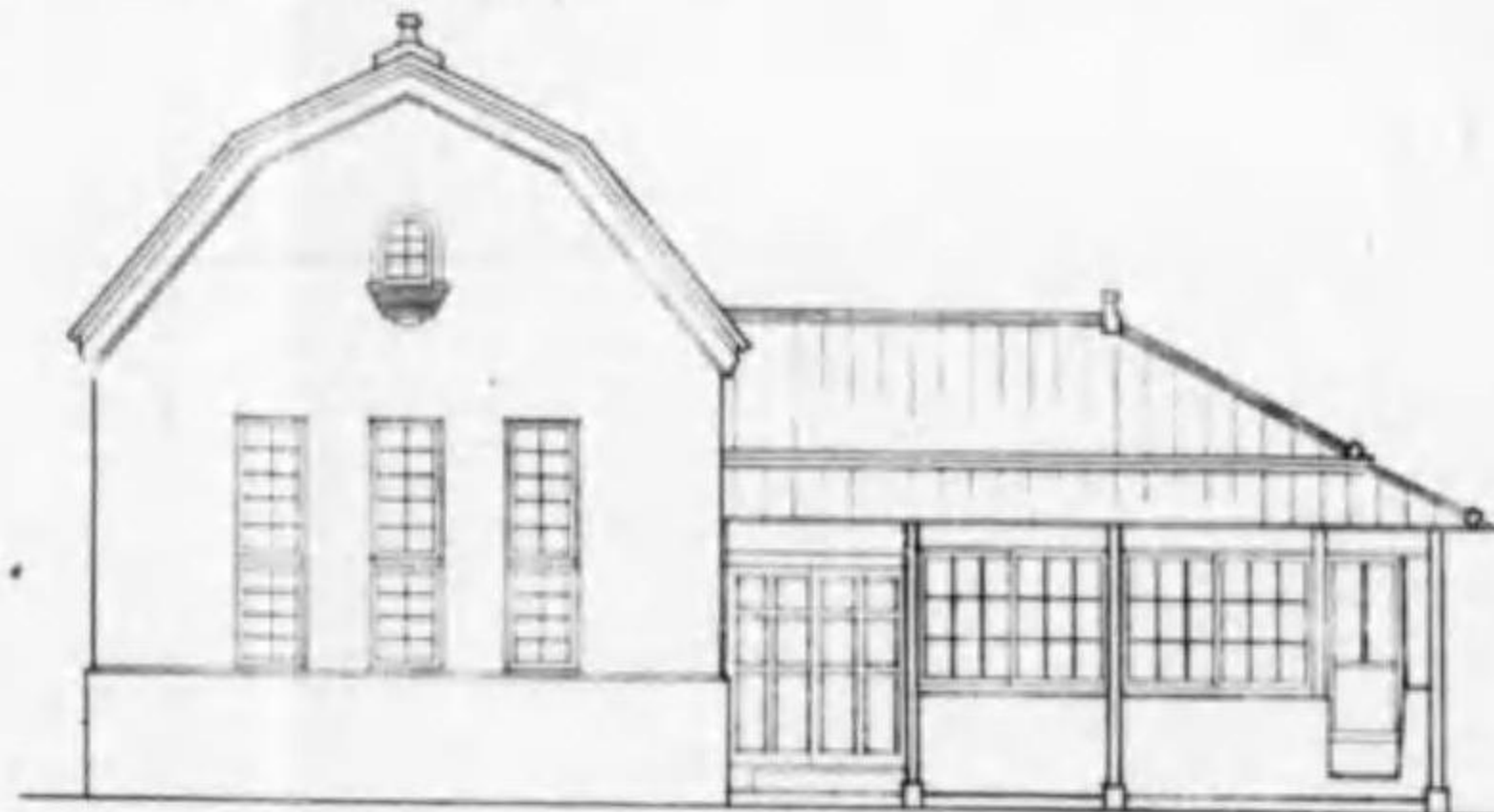
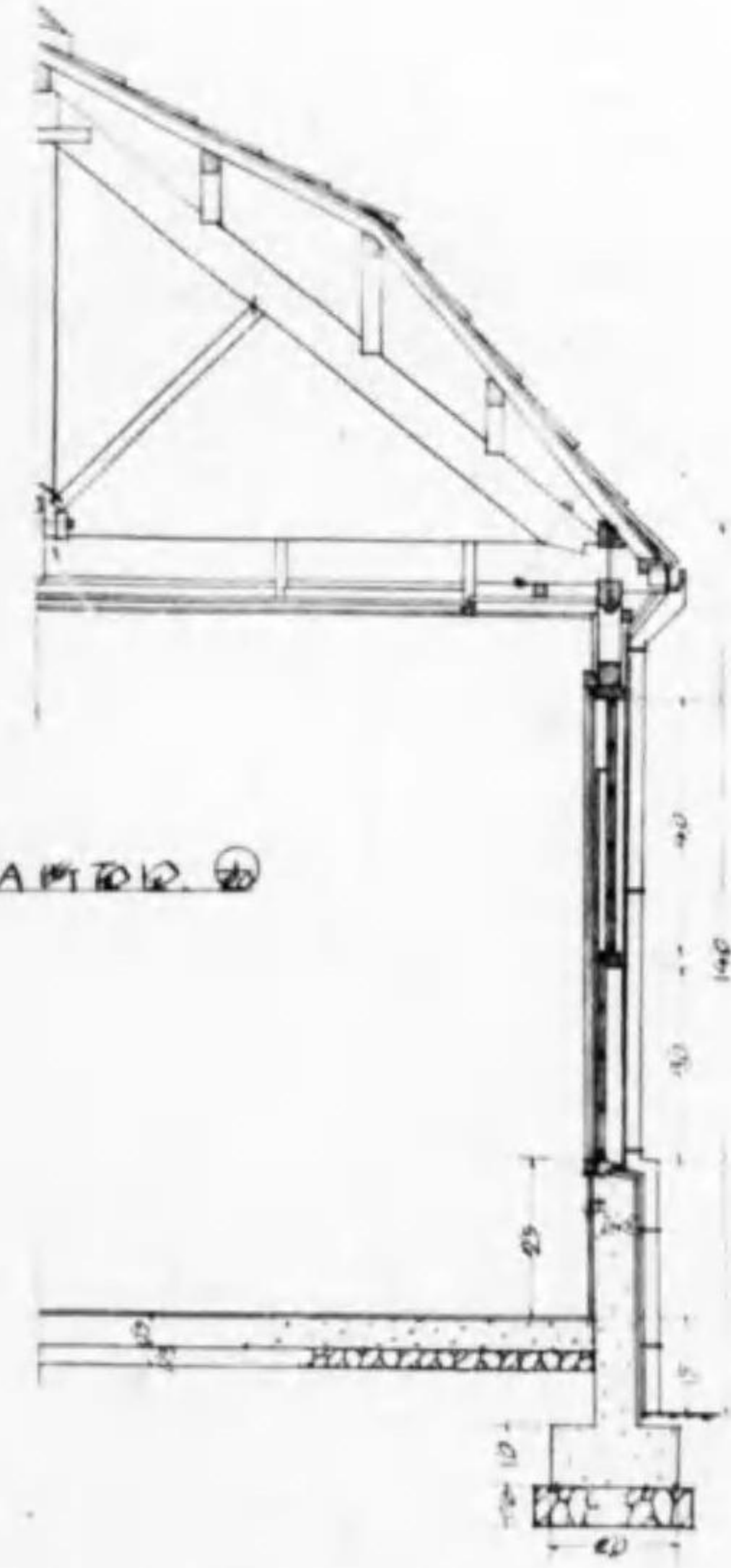
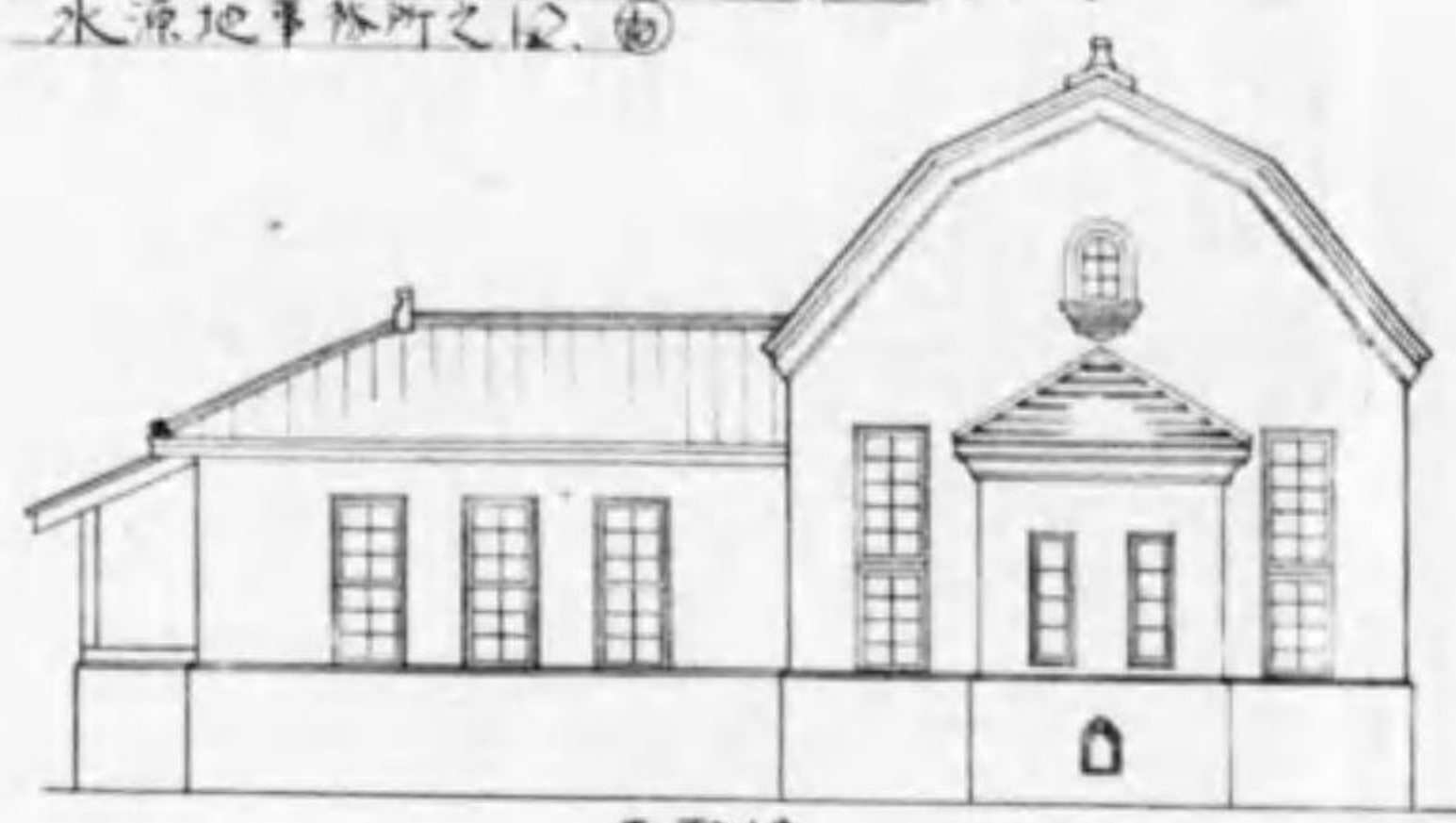
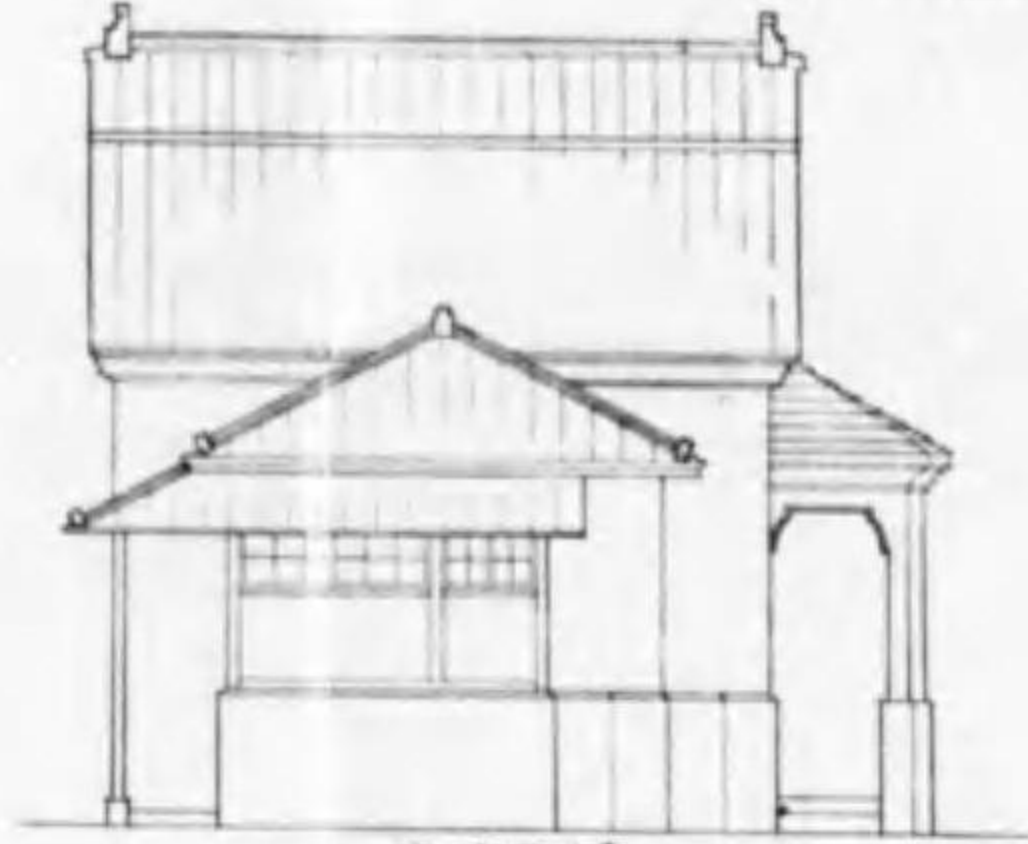
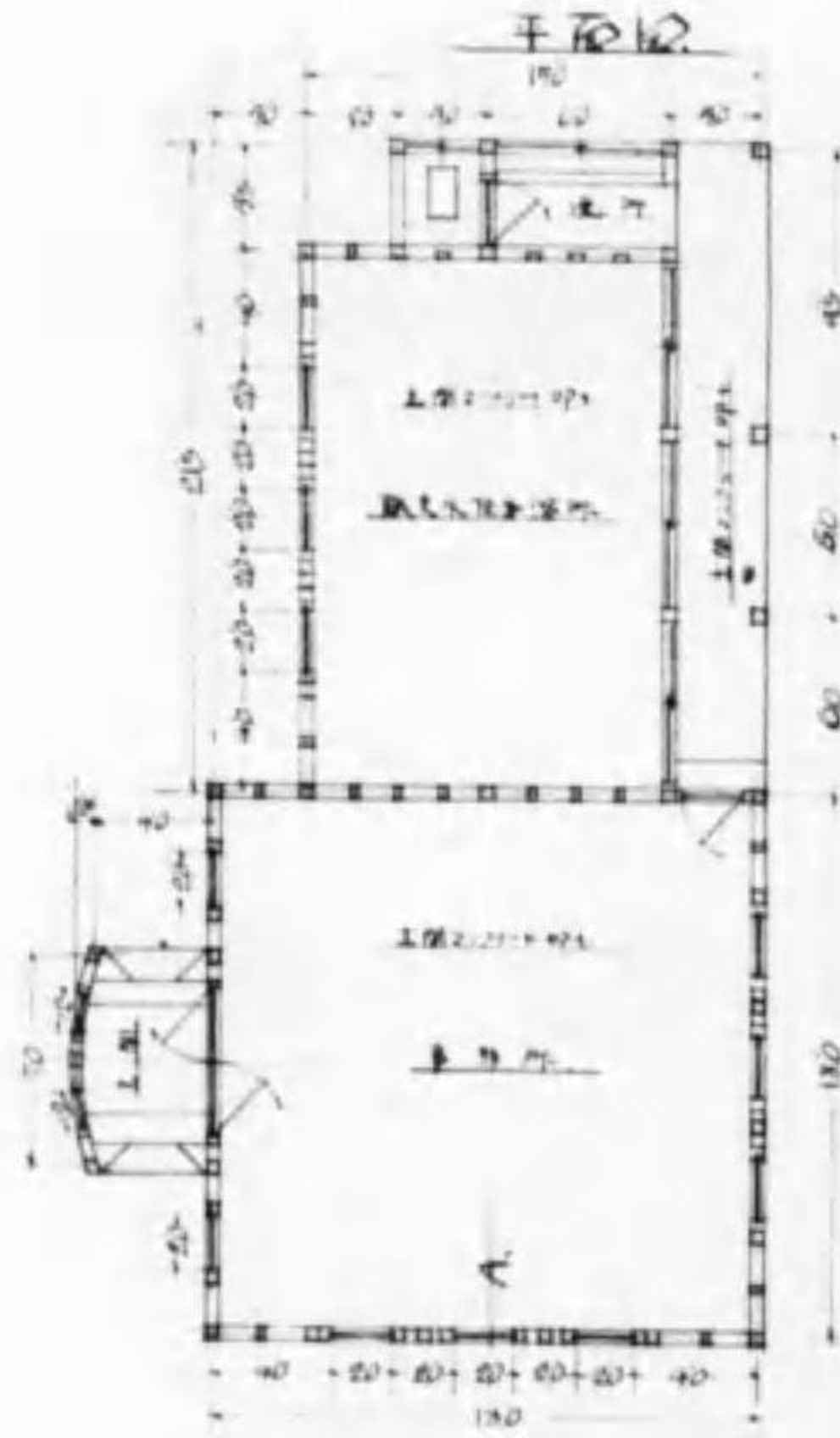


中津町水道竣工圖 其七
配水塔之圖



中津町水道竣工図 廿八

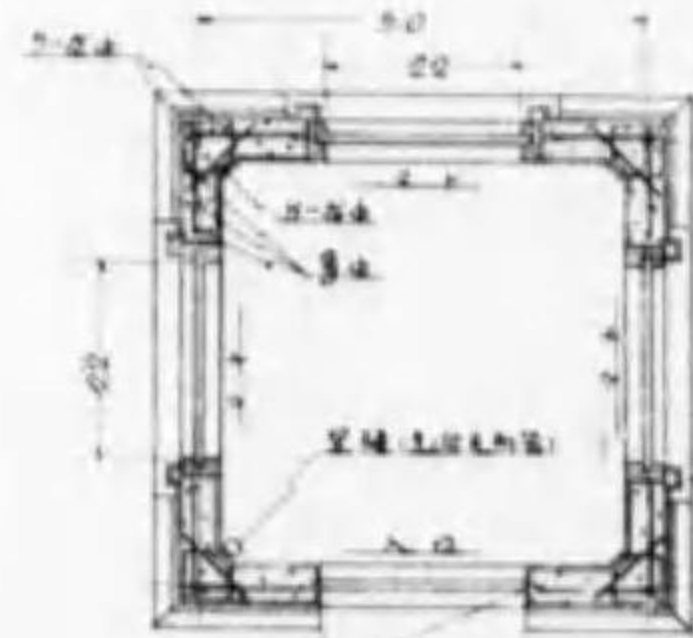
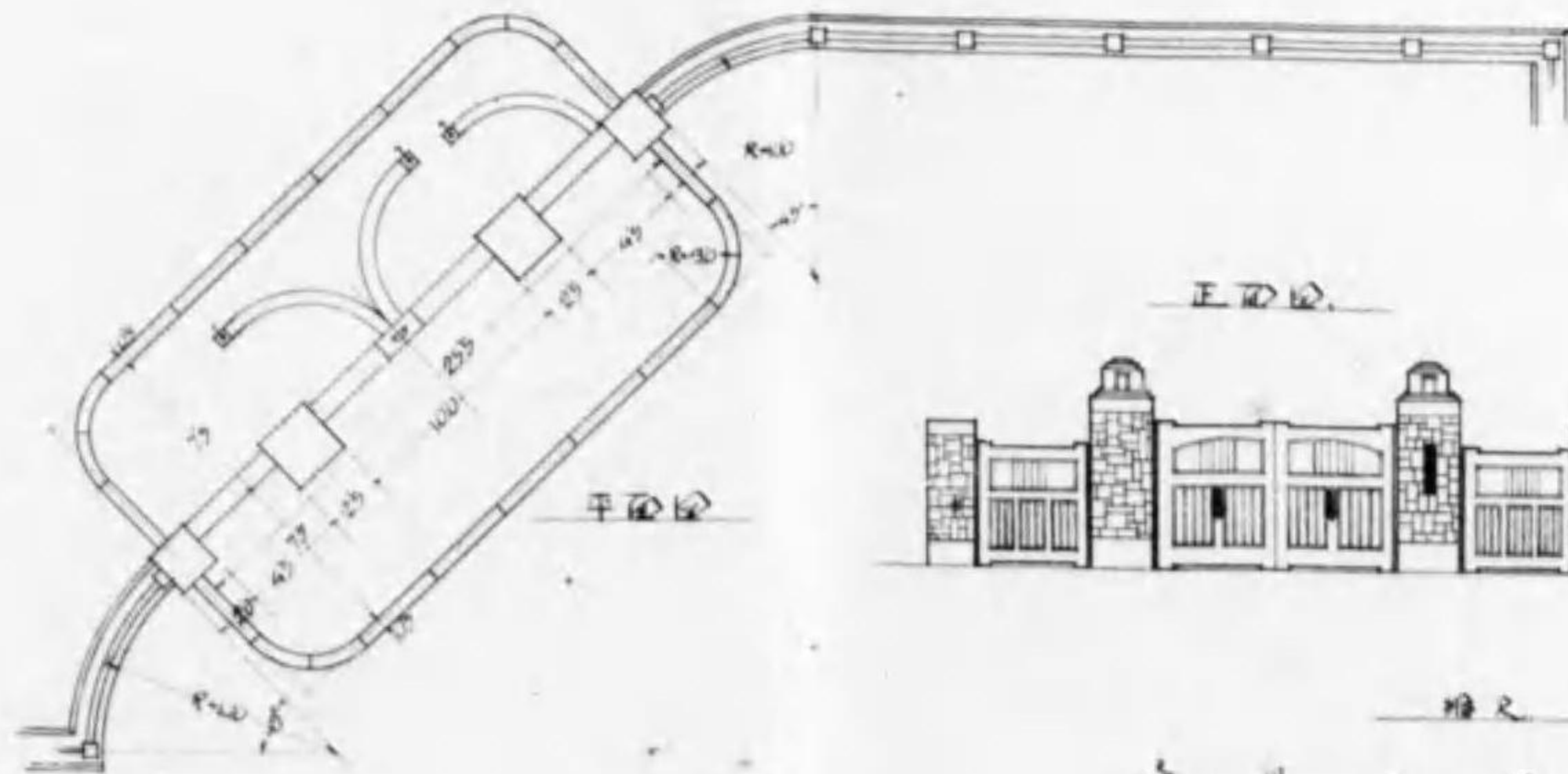
水源地事務所之図 ㉘



彫刻井上之図 ㉘



水源地門之図 ㉘



繪尺 ㉘



繪尺 ㉘



昭和四年七月廿九日印刷
昭和四年八月三日發行

〔非賣品〕

編纂兼
發行者

中津市役所

大分縣中津市一八六二番地

印刷者 山口清司

大分縣中津市一八六二番地

印刷所 山口印刷所

383
130

終

